

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニッポンタイイクダイガク 学校法人 日本体育大学								
フリガナ大学の名称	ニッポンタイイクダイガクダイガクイン 日本体育大学大学院 (Graduate School of Nippon Sport Science University)								
大学本部の位置	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号								
大学の目的	日本体育大学大学院は、体育及びスポーツ並びに教科教育に関する高度の学術研究により、その深奥をきわめ、学術の応用に貢献して競技力向上及び教科教育の実践に関する研究を推進すると共に、高度な学識と研究能力を持った専門家の養成と、社会の多様な分野で活躍し得る人間の育成を目標とし、スポーツ文化の進展及び新たな教科教育学の構築と人類の友好・親善に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	体育スポーツに関する高度の学術研究により、その深奥をきわめ、学術の応用に貢献して体育スポーツの実践あるいは競技力向上に資する研究を推進する高度な学識と研究能力を持った人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	体育学研究科 [Graduate School of physical education, health and Sport Studies]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	東京都世田谷区深沢七丁目1番1号	
	体育学専攻 (M) [Master's Program in physical education, health and Sport Studies]	2	37	-	74	修士 (体育科学) 【Master of Science in Physical Education, Health and Sport】 修士 (体育実践学) 【Master of Physical Education, Health and Sport】 修士 (コーチング科学) 【Master of Science in Sport Coaching】 修士 (コーチング実践学) 【Master of Sport Coaching】	令和4年4月 第1年次		
	体育学専攻 (D) [Doctoral Program in physical education, health and Sport Studies]	3	9	-	27	博士 (体育科学) 【Ph. D. in Physical Education, Health and Sport Science】 博士 (コーチング科学) 【Ph. D. in Sport Coaching Science】	令和4年4月 第1年次		
計		46	-	101				東京都世田谷区深沢七丁目1番1号	14条特例の実施

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		【学生募集の停止】 体育科学研究科 (廃止) 体育科学専攻博士前期課程 (△25) 体育科学専攻博士後期課程 (△6) コーチング学専攻博士前期課程 (△12) コーチング学専攻博士後期課程 (△3) ※令和4年4月学生募集停止 【収容定員に係る学則変更】 収容定員に係る学則変更 (令和3年6月届出予定) 体育学部 体育学科〔定員増〕 (50) スポーツ文化学部 武道教育学科〔定員減〕 (△20) 児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科 児童スポーツ教育コース〔定員減〕 (△30)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	体育学研究科 体育学専攻 (博士前期課程)	67 科目	25 科目	0 科目	92 科目	30 単位			
	体育学研究科 体育学専攻 (博士後期課程)	10 科目	5 科目	0 科目	15 科目	12 単位			
教員 組 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
	新 設 分		教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	人
		体育学研究科 体育学専攻 (博士前期課程)	35 (35)	15 (15)	0 (0)	1 (1)	51 (51)	0 (0)	11 (11)
		体育学研究科 体育学専攻 (博士後期課程)	20 (20)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	5 (5)
		計	35 (35)	15 (15)	0 (0)	1 (1)	51 (51)	0 (0)	14 (14)
	既 設 分	教育学研究科 実践教科教育学専攻 (博士前期課程)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		教育学研究科 実践教科教育学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		保健医療学研究科 保健医療学専攻 (修士課程)	9 (11)	13 (13)	1 (1)	1 (1)	24 (26)	0 (0)	2 (2)
		保健医療学研究科 運動器柔道整復学専攻 (博士課程)	5 (5)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		保健医療学研究科 救急災害医療学専攻 (博士課程)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
計		16 (18)	13 (13)	1 (1)	2 (2)	32 (34)	0 (0)	2 (2)	
	合計	51 (53)	28 (28)	1 (1)	3 (3)	83 (85)	0 (0)	16 (16)	
教員 以外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事務職員		95 (95)		48 (48)		143 (143)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		7 (7)		0 (0)		7 (7)		
	その他の職員		0 (0)		6 (6)		6 (6)		
	計		102 (102)		54 (54)		156 (156)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校舎敷地	126,410.53㎡	0㎡		0㎡		126,410.53㎡		
	運動場用地	84,055.66㎡	0㎡		0㎡		84,055.66㎡		
	小計	210,466.19㎡	0㎡		0㎡		210,466.19㎡		
	その他	56,867.13㎡	0㎡		0㎡		56,867.13㎡		
	合計	267,333.32㎡	0㎡		0㎡		267,333.32㎡		

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
		67,897.92㎡ (67,897.92㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	67,897.92㎡ (67,897.92㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体					
	74 室	40 室	66 室	4 室 (補助職員0人)	0 室 (補助職員0人)						
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数						
		体育学研究科体育学専攻			51	室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能 なため、大学全体の数 視聴覚資料は図書に含 む			
		冊	種	種							
	体育学研究科体育学専攻	549,518 [137,851] (534,164 [135,697])	18,896 [11,678] (18,896 [11,678])	11,823 [10,292] (11,823 [10,292])	- (-)	29,417 (29,417)	354 (354)				
	計	549,518 [137,851] (534,164 [135,697])	18,896 [11,678] (18,896 [11,678])	11,823 [10,292] (11,823 [10,292])	- (-)	29,417 (29,417)	354 (354)				
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数						
		3,128㎡		727席	562,000冊		大学全体				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
		42,796.15㎡		野球場、サッカー場、ラグビー場、陸上競技場、温水プール							
経 費 の 積 立 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での算出不能 なため、学部との合 計 図書費には電子ジャー ナル・データベースの整備費 (運用コスト含む)を含 む。	
		教員1人当り研究費等		750千円	750千円	750千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		共同研究費等		37,000千円	37,000千円	37,000千円	— 千円	— 千円	— 千円		
		図書購入費	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	設備購入費	500千円	500千円	500千円	500千円	— 千円	— 千円	— 千円			
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		1,048千円	748千円	748千円	— 千円	— 千円	— 千円				
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金等								
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 日本体育大学										
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
			年	人	年次人	人		倍			
	体育学部							1.01		東京都世田谷区深 沢七丁目1番1号	
	体育学科		4	750	—	3,000	学士(体育学)	1.02	昭和24年度	神奈川県横浜市青 葉区鴨志田町1221 番地1	
	健康学科		4	195	—	780	学士(体育学)	0.96	昭和37年度		
	武道学科		—	—	—	—	学士(体育学)	—	昭和40年度	平成29年度より学生募 集停止	
	社会体育学科		—	—	—	—	学士(体育学)	—	昭和50年度	平成30年度より学生募 集停止	
	スポーツ文化学部							1.00		東京都世田谷区深 沢七丁目1番1号	
	武道教育学科		4	100	—	400	学士(体育学)	0.99	平成29年度		
	スポーツ国際学科		4	100	—	400	学士(体育学)	1.01	平成29年度		
	スポーツマネジメント学部							1.03		神奈川県横浜市青 葉区鴨志田町1221 番地1	
	スポーツマネジメント学科		4	145	—	580	学士(体育学)	1.05	平成30年度		
	スポーツライフマネジメント学科		4	110	—	440	学士(体育学)	1.02	平成30年度		
	児童スポーツ教育学部							0.98		東京都世田谷区深 沢七丁目1番1号	
	児童スポーツ教育学科		4	150	—	600	学士(児童スポーツ 教育学)	0.99	平成25年度		
	幼児教育保育コース		4	50	—	200	学士(児童スポーツ 教育学)	0.99	平成25年度		
保健医療学部							1.04		神奈川県横浜市青 葉区鴨志田町1221 番地1		
整復医療学科		4	90	—	360	学士(整復医療学)	1.06	平成26年度			
救急医療学科		4	80	—	320	学士(救急医療学)	1.02	平成26年度			

大 学 の 名 称		日本体育大学大学院							所在地	
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
体育科学研究科	年	人	年次人	人				東京都世田谷区深沢七丁目1番1号	令和4年度より学生募集停止	
体育科学専攻 (博士前期課程)	2	25	—	50	修士(体育科学)	1.16	昭和60年度			
体育科学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士(体育科学)	2.58	平成9年度			
コーチング学専攻 (博士前期課程)	2	12	—	24	修士(コーチング学)	1.53	平成30年度			
コーチング学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	6	博士(コーチング学)	1.16	平成30年度			
教育学研究科								東京都世田谷区深沢七丁目1番1号		
実践教科教育学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士(教育学)	0.22	平成29年度			
実践教科教育学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士(教育学)	0.80	平成29年度			
保健医療学研究科								神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1		
保健医療学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士(柔道整復学)	0.93	平成30年度			
運動器柔道整復学専攻 (博士課程)	3	2	—	4	博士(柔道整復学)	1.00	令和2年度			
救急災害医療学専攻 (博士課程)	3	2	—	4	博士(救急災害医療学)	1.50	令和2年度			
附属施設の概要	<p>名称：体育研究所 目的：体育・スポーツに関する研究 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月：昭和37年4月 規模等：242.37㎡（オリンピックスポーツ文化研究所、スポーツ危機管理研究所と共用）</p> <p>名称：スポーツ・トレーニングセンター 目的：学生の体力向上及びトップアスリートの競技力向上 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1 設置年月：昭和39年2月 規模等：990.56㎡（東京・世田谷キャンパス スポーツ棟1階） 1,874.24㎡（横浜・健志台キャンパス 百年記念館1階）</p> <p>名称：オリンピックスポーツ文化研究所 目的：オリンピックの研究を通じて広く世界の福祉に貢献し本邦のスポーツ文化を牽引する 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月：平成27年4月 規模等：242.37㎡（体育研究所、スポーツ危機管理研究所と共用）</p> <p>名称：日本体育大学スポーツキュアセンター横浜・健志台接骨院 目的：保健医療学部における教育及び研究に係る施術の場として機能するとともに柔道整復師による施術の提供等を通して柔道整復の発展に寄与する 所在地：神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1 設置年月：平成27年10月 規模等：176.83㎡</p> <p>名称：ハイパフォーマンスセンター 目的：オリンピック・パラリンピアンを輩出・育成するための学生アスリート支援システムの活動を展開する 所在地：神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1 設置年月：平成29年4月 規模等：76.23㎡（コーチングエクセレンスセンターと共用）</p> <p>名称：コーチングエクセレンスセンター 目的：本学学生アスリートの競技力向上及び教育者として人間性の向上を目指した支援等を行う 所在地：神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221番地1 設置年月：平成29年4月 規模等：76.23㎡（ハイパフォーマンスセンターと共用）</p> <p>名称：スポーツ危機管理研究所 目的：体育及びスポーツの現場から重大事故・暴力・ハラスメント等人権侵害に関する諸問題の解決を図る 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月：平成30年4月 規模等：242.37㎡（体育研究所、オリンピックスポーツ文化研究所と共用）</p> <p>名称：日本体育大学クリニック 目的：診療並びに教育・研究への協力、アスリートのメディカルサポート及び地域医療への貢献 所在地：東京都世田谷区深沢七丁目1番1号 設置年月：平成30年12月 規模等：261.2㎡</p>									

学校法人日本体育大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
日本体育大学					日本体育大学				
体育学部					体育学部				
体育学科	750	-	3000	→	体育学科	800	-	3200	定員変更 (50)
健康学科	195	-	780		健康学科	195	-	780	
スポーツ文化学部					スポーツ文化学部				
武道教育学科	100	-	400		武道教育学科	80	-	320	定員変更 (△20)
スポーツ国際学科	100	-	400		スポーツ国際学科	100	-	400	
スポーツマネジメント学部					スポーツマネジメント学部				
スポーツマネジメント学科	145	-	580		スポーツマネジメント学科	145	-	580	
スポーツライフマネジメント学科	110	-	440		スポーツライフマネジメント学科	110	-	440	
児童スポーツ教育学部					児童スポーツ教育学部				
児童スポーツ教育学科					児童スポーツ教育学科				
児童スポーツ教育コース	150	-	600		児童スポーツ教育コース	120	-	480	定員変更 (△30)
幼児教育保育コース	50	-	200		幼児教育保育コース	50	-	200	
保健医療学部					保健医療学部				
整復医療学科	90	-	360		整復医療学科	90	-	360	
救急医療学科	80	-	320		救急医療学科	80	-	320	
計	1770		7080		計	1770		7080	
日本体育大学大学院					日本体育大学大学院				
体育科学研究科 体育科学専攻 博士前期課程 (M)	25	-	50	→	体育科学研究科 体育科学専攻 博士前期課程 (M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
体育科学専攻 博士後期課程 (D)	6	-	18		体育科学専攻 博士後期課程 (D)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
コーチング学専攻 博士前期課程 (M)	12	-	24		コーチング学専攻 博士前期課程 (M)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
コーチング学専攻 博士後期課程 (D)	3	-	9		コーチング学専攻 博士後期課程 (D)	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
教育学研究科 実践教科教育学専攻 博士前期課程 (M)	20	-	40		体育学研究科 体育学専攻 博士前期課程 (M)	37	-	74	研究科の設置 (届出)
実践教科教育学専攻 博士後期課程 (D)	5	-	15		体育学専攻 博士後期課程 (D)	9	-	27	研究科の設置 (届出)
保健医療学研究科 保健医療学専攻 修士課程 (M)	8	-	16		教育学研究科 実践教科教育学専攻 博士前期課程 (M)	20	-	40	
運動器柔道整復学専攻 博士課程 (D)	2	-	6		実践教科教育学専攻 博士後期課程 (D)	5	-	15	
救急災害医療学専攻 博士課程 (D)	2	-	6		保健医療学研究科 保健医療学専攻 修士課程 (M)	8	-	16	
計	83		184		運動器柔道整復学専攻 博士課程 (D)	2	-	6	
					救急災害医療学専攻 博士課程 (D)	2	-	6	
					計	83		184	

組織の移行表

教育課程等の概要														
(体育学研究科 体育学専攻 博士前期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	体育スポーツ科学論A	1前	2			○			2					オムニバス
	体育スポーツ科学論B	1前	2			○			3					オムニバス
	体育スポーツ科学論C	1前	2			○			2					オムニバス
	体育スポーツ科学研究法	1前	2			○			3					オムニバス
	研究報告演習	1前	2				○		3					共同
	小計(5科目)	—	10	0	0		—		7	0	0	0	0	—
基礎科目	《体育科学学位プログラム(体育スポーツ文化社会学コース)》													
	体育スポーツ文化・社会科学特論	1前		2		○			4					オムニバス
	体育スポーツ文化・社会科学研究法	1前		2		○			4					オムニバス
	体育スポーツ文化・社会科学演習	1前		2			○		4					オムニバス
	《体育科学学位プログラム・体育実践学学位プログラム(スポーツマネジメントコース)》													
	スポーツマネジメント特論	1前		2		○			2	2				兼1 オムニバス
	スポーツマネジメント研究法	1前		2		○				2				オムニバス
	スポーツマネジメント演習	1前		2			○			2				オムニバス
	《体育科学学位プログラム(トレーニング科学コース)》													
	トレーニング科学特論A	1前		2		○			1	2				オムニバス
	トレーニング科学特論B	1前		2		○			3	2				オムニバス
	トレーニング科学研究法	1前		2		○			4	4				オムニバス 共同(一部)
	《体育科学学位プログラム(健康スポーツ医科学コース)》													
	健康スポーツ医科学特論A	1前		2		○			3	1				オムニバス
	健康スポーツ医科学特論B	1前		2		○			2		1			オムニバス
	健康スポーツ医科学研究法	1前		2		○			1					
	《体育科学学位プログラム・体育実践学学位プログラム(身体教育・健康教育コース)》													
	身体教育・健康教育学A	1前		2		○			3					オムニバス
	身体教育・健康教育学B	1前		2		○			3	1				オムニバス
	身体教育・健康教育学研究法	1前		2		○			5	1				オムニバス
《コーチング科学学位プログラム・コーチング実践学学位プログラム》														
コーチング学特論	1前		2		○			3	2				オムニバス	
コーチング学研究法	1前		2		○			3	2				オムニバス	
コーチング学演習I	1通		2			○		2	2				オムニバス	
コーチ育成論I	1前		2		○			1	2				オムニバス	
小計(19科目)	—	0	38	0		—		24	10	0	1	0	兼1 —	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
展開科目	《体育科学学位プログラム（体育スポーツ文化社会学コース）》														
	スポーツ史特論	1・2前		2		○			1						
	スポーツ人類学特論	1・2前		2		○			1						
	スポーツ哲学特論	1・2前		2		○			1	1					オムニバス
	スポーツ社会学特論	1・2前		2		○			1						
	スポーツ史特論演習	1・2後		2			○		1						
	スポーツ人類学特論演習	1・2後		2			○		1						
	スポーツ哲学特論演習	1・2後		2			○		1	1					オムニバス
	スポーツ社会学特論演習	1・2後		2			○		1						
	武道学特論	1・2前		2		○									兼1
	《体育科学学位プログラム・体育実践学学位プログラム（スポーツマネジメントコース）》														
	トップスポーツマネジメント特論	1・2前		2		○			1	1					オムニバス
	スポーツクラブマネジメント特論	1・2前		2		○			1	1					オムニバス
	健康スポーツマネジメント特論	1・2前		2		○									兼1
	トップスポーツマネジメント特論演習	1・2後		2			○		1	1					オムニバス
	スポーツクラブマネジメント特論演習	1・2後		2			○		1	1					オムニバス
	健康スポーツマネジメント特論演習	1・2後		2			○								兼1
	スポーツ政策学特論	1・2前		2		○			1						
	スポーツマーケティング特論	1・2前		2		○			1						
	経営戦略特論	1・2前		2		○				1					
	《体育科学学位プログラム（トレーニング科学コース）》														
	トレーニング学特論	1・2後		2		○				1					
	スポーツ生理学特論	1・2後		2		○			1						
	アスレティックトレーニング学特論	1・2後		2		○				1					
	スポーツ栄養学特論	1・2後		2		○									兼1
	スポーツバイオメカニクス特論	1・2後		2		○			1	1					兼1 オムニバス
	スポーツ心理学特論	1・2後		2		○				1					
	競技力向上サポート特論	1・2後		2		○			6	4					兼2 オムニバス・共同(一部)
	《体育科学学位プログラム（健康スポーツ医科学コース）》														
	運動衛生学特論	1・2後		2		○			1						
	スポーツ医学特論	1・2後		2		○			1						兼1 オムニバス
	運動生理学特論	1・2後		2		○			3						オムニバス
発育発達特論	1・2後		2		○			1							
機能解剖学特論	1・2後		2		○			1							
分子運動生理学特論	1・2後		2		○			1			1			オムニバス	
スポーツ損傷特論	1・2後		2		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	《体育科学学位プログラム・体育実践学学位プログラム（身体教育・健康教育コース）》														
選択1	身体教育学特論	1・2後		2		○			1						兼1
	健康教育学特論	1・2後		2		○			1						
	学校保健学特論	1・2後		2		○			1						
	公衆衛生学特論	1・2後		2		○			1	1					
	養護教諭特論	1・2後		2		○									
	インクルーシブ体育特論	1・2後		2		○			1						
	教育心理学特論	1・2後		2		○				1					
	教育制度学特論	1・2後		2		○									
	授業づくり特論A	2前		2		○			1						
	授業づくり特論B	2前		2		○			1						
	授業づくり特論C	2前		2		○			1						
	授業づくり特論D	2前		2		○				1					
選択2	プラクティカムⅠ	1前		1			○	※	6	1					実習 共同 実習 共同
	プラクティカムⅠ（養護）	1前		1			○	※	3	1					
選択3	プラクティカムⅡ	1後		1			○	※	6	1					兼1 実習 共同 実習 共同
	プラクティカムⅡ（養護）	1後		1			○	※	3	1					
選択4	プラクティカムⅢ	2前		1			○	※	6	1					兼1 実習 共同 実習 共同
	プラクティカムⅢ（養護）	2前		1			○	※	3	1					
選択5	プラクティカムⅣ	2後		1			○	※	6	1					兼1 実習 共同 実習 共同
	プラクティカムⅣ（養護）	2後		1			○	※	3	1					
	《コーチング科学学位プログラム・コーチング実践学学位プログラム》														
	スポーツの危機管理（アソト・ピンを含む）	1・2前		2		○			2						オムニバス オムニバス
	コーチングのエスノグラフィー	1・2前		2		○			2	1					
	コーチングのバイオメカニクス	1・2前		2		○			1						兼1 オムニバス 集中
	スポーツ戦術論	1・2前		2		○			1	1					
	個人型スポーツコーチング論	1・2後		2		○			4	1					オムニバス ・共同（一部）
	対人型スポーツコーチング論	1・2前		2		○			2						
	チーム型スポーツコーチング論	1・2後		2		○			1	1					兼1 オムニバス 集中 オムニバス 集中
	競技者体力学特論	1・2前		2		○			1						
	コーチング学演習Ⅱ	2通		2			○		2	2					オムニバス オムニバス
	コーチング実践演習Ⅰ（プラクティカム）	1通		2			○		1	1					
	コーチング実践演習Ⅱ（プラクティカム）	2通		2			○		1	1					兼1 オムニバス 集中
	コーチのための英語コミュニケーション	1・2前		2			○								
	コーチ育成論Ⅱ	2前		2		○			1	2					兼1 オムニバス オムニバス
	パフォーマンス分析特論	1・2後		2		○			2	1					
	小計（66科目）	—	0	124	0	—			35	15	0	1	0	兼11	—
導 研 科 究 目 指	研究指導Ⅰ	1通	2				○		35	15		1		兼3	集中
	研究指導Ⅱ	2通	2				○		35	15		1		兼3	集中
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			35	15	0	1	0	兼3	—
	合計（92科目）	—	14	162	0	—			35	15	0	1	0	兼11	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学位又は称号	修士（体育科学） 修士（体育実践学） 修士（コーチング科学） 修士（コーチング実践学）		学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>(修了要件)</p> <p><体育科学学位プログラム、コーチング科学学位プログラム> 2年以上在学し、各学位プログラムが定める修了に必要な授業科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p><体育実践学学位プログラム、コーチング実践学学位プログラム> 2年以上在学し、各学位プログラムが定める修了に必要な授業科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文に代わる実践の場における課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p>(履修方法)</p> <p><体育科学学位プログラム、体育実践学学位プログラム> ①体育スポーツ文化社会学コース、スポーツマネジメントコース、トレーニング科学コース、健康スポーツ医科学コースに所属する学生は、共通科目を10単位、所属するコースの基礎科目を6単位、展開科目の中から10単位以上、研究指導科目を4単位の計30単位以上修得すること。 なお、展開科目については他の学位プログラム又はコースの展開科目（身体教育・健康教育コースの選択2～5を除く）を履修し、単位を修得することができる。 ②身体教育・健康教育コースに所属する学生は、共通科目を10単位、所属するコースの基礎科目を6単位、展開科目の選択1から6単位以上、選択2から1単位以上、選択3から1単位以上、選択4から1単位以上、選択5から1単位以上、研究指導科目を4単位の計30単位以上修得すること。 なお、展開科目については他の学位プログラム又はコースの展開科目を履修し、単位を修得することができる。</p> <p><コーチング科学学位プログラム、コーチング実践学学位プログラム> 共通科目を10単位、所属する学位プログラムの基礎科目を8単位、展開科目の中から8単位以上、研究指導科目を4単位の計30単位以上修得すること。 なお、展開科目については他の学位プログラムのコースの展開科目（身体教育・健康教育コースの選択2～5を除く）を履修することができる。</p>						1学年の学期区分		2学期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要															
(体育学研究科 体育学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	研究報告演習	1前	2				○		3					共同	
	英語論文ライティング	1-3通			2		○							兼1	
	小計 (2科目)	—	2	0	2	—			3	0	0	0	0	兼1	
専修科目	《体育科学学位プログラム》 (体育スポーツ文化社会学コース)														
	体育スポーツ文化社会学特論	1~3前		2		○			4	1				オムニバス	
	体育スポーツ文化社会学研究法	1~3前		2		○			4	1				オムニバス	
	(トレーニング科学コース)														
	トレーニング科学特論	1~3前		2		○			4	3				オムニバス	
	トレーニング科学研究法	1~3前		2		○			4	3				オムニバス	
	(健康スポーツ医科学コース)														
	健康スポーツ医科学特論	1~3前		2		○			5					兼3	オムニバス
	健康スポーツ医科学研究法	1~3前		2		○			5					兼3	オムニバス
	(身体教育・健康教育コース)														
	身体教育・健康教育学特論	1~3前		2		○			4	1				オムニバス	
身体教育・健康教育学研究法	1~3前		2		○			4	1				オムニバス		
《コーチング科学学位プログラム》															
コーチ育成特論	1~3前		2		○			1							
コーチング学研究法特論	1~3前		2		○			3					オムニバス		
小計 (10科目)	—	0	20	0	—			19	5	0	0	0	兼3		
研究指導科目	特別研究指導Ⅰ	1通	2				○		20	5				兼4	集中
	特別研究指導Ⅱ	2通	2				○		20	5				兼4	集中
	特別研究指導Ⅲ	3通	2				○		20	5				兼4	集中
	小計 (3科目)	—	6	0	0	—			20	5	0	0	0	兼4	
合計 (15科目)		—	8	20	2	—			20	5	0	0	0	兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	博士（体育科学） 博士（コーチング科学）		学位又は学科の分野			体育関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>(修了要件) 3年以上在学し、各学位プログラムが定める修了に必要な授業科目を12単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p>(履修方法) ＜体育科学学位プログラム＞ 共通科目から必修科目2単位、所属するコースの専修科目を4単位、研究指導科目を6単位修得し、計12単位以上修得すること。 なお、コーチング科学学位プログラム及び他のコースの専修科目を履修することができるが、修了要件単位数には含まれない。</p> <p>＜コーチング科学学位プログラム＞ 共通科目から必修科目2単位、コーチング科学学位プログラムの専修科目を4単位、研究指導科目を6単位修得し、計12単位以上修得すること。 なお、体育科学学位プログラムの専修科目を履修することができるが、修了要件単位数には含まれない。</p>						1学年の学期区分		2学期						
						1学期の授業期間		15週						
						1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要

(体育科学研究科 体育科学専攻 博士前期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	体育科学論ⅠA	1前		2		○				2					兼1	オムニバス	
	体育科学論ⅠB	2前		2		○			2						兼1	オムニバス	
	体育科学論ⅡA	1前		2		○			1						兼2	オムニバス	
	体育科学論ⅡB	2後		2		○			2						兼1	オムニバス	
	体育科学論演習Ⅰ	1通	2				○		1						兼1	共同	
	体育科学論演習Ⅱ	2通	2				○		1						兼1	共同	
	小計(6科目)		—	4	8	0				7	2	0	0	0	兼6		
基礎科目	(スポーツ文化・社会科学系)																
	スポーツ史特論Ⅰ	1前		2		○			1								
	スポーツ人類学特論Ⅰ	1前		2		○			1								
	スポーツ哲学特論ⅠA	1前		2		○			1								
	スポーツ哲学特論ⅠB	1前		2		○				1							
	生涯スポーツ学特論Ⅰ	1前		2		○			1								
	スポーツ社会学特論Ⅰ	1前		2		○			1								
	(トレーニング科学系)																
	トレーニング学特論Ⅰ	1前		2		○			1								
	体力学特論Ⅰ	1前		2		○			1								
	スポーツ栄養学特論Ⅰ	1前		2		○									兼1		
	スポーツバイオメカニクス特論Ⅰ	1前		2		○			1	1							
	スポーツ心理学特論Ⅰ	1前		2		○								兼1			
	スポーツ測定評価学特論Ⅰ	1前		2		○			1								
	(健康科学・スポーツ医科学系)																
	運動衛生学特論Ⅰ	1前		2		○			1								
	スポーツ医学特論Ⅰ	1前		2		○			1						兼1	オムニバス	
	運動生理学特論Ⅰ	1前		2		○			1						兼1	オムニバス	
	発育発達特論Ⅰ	1前		2		○			1								
	保健環境学特論Ⅰ	1前		2		○			1								
	(スポーツ教育・健康教育学系)																
	スポーツ教育論	1前		2		○			1								
	健康教育実践学特論	1前		2		○			1								
学校保健学特論	1前		2		○			1									
養護教諭特論	1前		2		○				1								
学校経営論(スクールリーダー論)	1前		2		○									兼1			
学校心理学特論	1前		2		○				1								
小計(23科目)		—	0	46	0				16	4	0	0	0	兼5			
専修科目	選択1	(スポーツ文化・社会科学系)															
		スポーツ人類学特論Ⅱ	1後		2		○			1							
		スポーツ史特論Ⅱ	1後		2		○			1							
		スポーツ哲学特論ⅡA	1後		2		○			1							
		スポーツ哲学特論ⅡB	1後		2		○				1						
		スポーツ社会学特論Ⅱ	1後		2		○			1							
		生涯スポーツ学特論Ⅱ	1後		2		○			1							
		(トレーニング科学系)															
		トレーニング学特論Ⅱ	1後		2		○				1						
		体力学特論Ⅱ	1後		2		○				1						
		スポーツ栄養学特論Ⅱ	1後		2		○									兼1	
		スポーツバイオメカニクス特論Ⅱ	1後		2		○			1	1						
		スポーツ心理学特論Ⅱ	1後		2		○								兼1		
		スポーツ測定評価学特論Ⅱ	1後		2		○			1							
(健康科学・スポーツ医科学系)																	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	運動衛生学特論Ⅱ	1後		2		○			1							
	スポーツ医学特論Ⅱ	1後		2		○			1					兼1	オムニバス	
	運動生理学特論Ⅱ	1後		2		○			2						オムニバス	
	発育発達特論Ⅱ	1後		2		○			1							
	保健環境学特論Ⅱ	1後		2		○			1							
	(スポーツ教育・健康教育学系)															
	体育授業観察・評価理論・実習	1前		2		○		※						兼1	実習	
	学校保健観察・評価理論・実習	1前		2		○		※	1						実習	
選択2	(スポーツ文化・社会科学系)															
	スポーツ史特論Ⅲ	2前		2			○		1							
	スポーツ史特論Ⅳ	2後		2			○		1							
	スポーツ人類学特論Ⅲ	2前		2			○		1							
	スポーツ人類学特論Ⅳ	2後		2			○		1							
	スポーツ哲学特論ⅢA	2前		2			○		1							
	スポーツ哲学特論ⅣA	2後		2			○		1							
	スポーツ哲学特論ⅢB	2前		2			○			1						
	スポーツ哲学特論ⅣB	2後		2			○			1						
	スポーツ社会学特論Ⅲ	2前		2			○		1							
	スポーツ社会学特論Ⅳ	2後		2			○		1							
	生涯スポーツ学特論Ⅲ	2前		2			○		1							
	生涯スポーツ学特論Ⅳ	2後		2			○		1							
	(トレーニング科学系)															
	トレーニング学特論Ⅲ	2前		2			○			1						
	トレーニング学特論Ⅳ	2後		2			○			1						
	体力学特論Ⅲ	2前		2			○		1							
	体力学特論Ⅳ	2後		2			○		1							
	スポーツ栄養学特論Ⅲ	2前		2			○							兼1		
	スポーツ栄養学特論Ⅳ	2後		2			○							兼1		
	スポーツバイオメカニクス特論Ⅲ	2前		2			○		1	1						
	スポーツバイオメカニクス特論Ⅳ	2後		2			○		1	1						
	スポーツ心理学特論Ⅲ	2前		2			○						兼1			
	スポーツ心理学特論Ⅳ	2後		2			○						兼1			
	スポーツ測定評価学特論Ⅲ	2前		2			○		1							
	スポーツ測定評価学特論Ⅳ	2後		2			○		1							
	(健康科学・スポーツ医科学系)															
	運動衛生学特論Ⅲ	2前		2			○		1							
	運動衛生学特論Ⅳ	2後		2			○		1							
	スポーツ医学特論Ⅲ	2前		2			○		1					兼1		
	スポーツ医学特論Ⅳ	2後		2			○		1					兼1		
	運動生理学特論Ⅲ	2前		2			○		2	1				兼1		
	運動生理学特論Ⅳ	2後		2			○		2	1				兼1		
	発育発達特論Ⅲ	2前		2			○		1							
	発育発達特論Ⅳ	2後		2			○		1							
	保健環境学特論Ⅲ	2前		2			○		1							
	保健環境学特論Ⅳ	2後		2			○		1							
	(スポーツ教育・健康教育学系)															
	体育授業づくり理論・実習	1前		2			○	※						兼1	実習	
	保健授業づくり理論・実習	1後		2			○	※	1						実習	
	ダンス授業づくり理論・実習	1後		2			○	※	2						実習 オムニバス	
	体づくり運動授業づくり理論・実習	1後		2			○	※	2					兼1	実習 オムニバス	
	野外活動理論・実習	1後		2			○	※	1						実習	
	レクリエーション指導理論・実習	1前		2			○	※							実習	
	インクルーシブ体育指導理論・実習	1後		2			○	※	1						実習	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択 3	(スポーツ文化・社会科学系)														
	身体教育学特論	1前		2		○			1						兼1
	武道学特論	1後		2		○									兼1
	スポーツ法学特論	1後		2		○									兼1
	スポーツメディア論特論	1後		2		○									兼1
	スポーツ政策学特論	1後		2		○									兼1
	スポーツ経営学特論								1	1					
	(トレーニング科学系)														
	競技力向上サポート論A	1前		2		○									兼1
	競技力向上サポート論B	1後		2		○			4	2					兼2
	コーチング学特論	1前		2		○			1						
	(健康科学・スポーツ医科学系)														
	健康教育学特論	1前		2		○			1						
	精神保健学特論	1後		2		○				1					
	保健科教育法特論	1後		2		○			1						
	運動生化学特論	1前		2		○			1						
	スポーツ損傷特論	1前		2		○									兼1
	(スポーツ教育・健康教育学系)														
	養護実践学特論演習	2通		2			○		2						オムニバス
	体育授業づくり演習	2通		2			○		2						兼1 共同
保健授業づくり演習	2通		2			○	※	2						演習 共同	
ダンス授業づくり演習	2通		2			○		2						オムニバス	
体づくり運動授業づくり演習	2通		2			○	※							兼1 演習	
野外活動演習	2通		2				○	1							
レクリエーション演習	2通		2				○	1	1					共同	
インクルーシブ体育指導理論演習	2通		2				○	1							
選択 4	(スポーツ教育・健康教育学系)														
	プラクティカムⅠ	1前		1			○	※	6	1					実習 共同
プラクティカムⅠ(養護)	1前		1				○	※	3	1					実習 共同
選択 5	(スポーツ教育・健康教育学系)														
	プラクティカムⅡ	1後		1			○	※	6	2				兼1	実習
プラクティカムⅡ(養護)	1後		1				○	※	3	1					実習
選択 6	(スポーツ教育・健康教育学系)														
	プラクティカムⅢ	2前		2			○	※	6	2				兼1	実習
プラクティカムⅢ(養護)	2前		2				○	※	3	1					実習
選択 7	(スポーツ教育・健康教育学系)														
	プラクティカムⅣ	2後		2			○	※	6	2				兼1	実習
プラクティカムⅣ(養護)	2後		2				○	※	3	1					実習
	小計(113科目)	—	0	266	0		—	24	8	0	0	0		兼13	
科 目 研 究 指 導	研究指導Ⅰ		2				○	21	6		1			兼5	集中
	研究指導Ⅱ		2				○	21	6		1			兼5	集中
	小計(2科目)	—	4	0	0		—	21	6	0	1	0		兼5	
	合計(167科目)	—	8	274	0		—	24	9	0	1	0		兼17	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	修士(体育科学)		学位又は学科の分野			体育関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間					
<p>(修了要件)</p> <p>1. 博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。</p> <p>2. 前項における修士論文の審査は、博士前期課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究成果の審査に代えることができる。</p> <p>(履修方法)</p> <p>授業科目及び単位数について、30単位以上修得すること。その内訳は次のとおりとする。</p> <p>1. スポーツ文化・社会科学系、トレーニング科学系、健康科学・スポーツ医学系に所属する者は共通科目から、必修科目である「体育科学論演習Ⅰ・Ⅱ」の4単位を含め、8単位以上、所属する学系の基礎科目から6単位以上、所属する学系の専修科目選択1から4単位以上、所属する学系の専修科目選択2から4単位以上、所属する学系の専修科目選択3又は所属する学系以外（スポーツ教育・健康教育学系を除く）の基礎科目及び専修科目選択3から4単位以上、研究指導科目を4単位以上修得すること。</p> <p>2. スポーツ教育・健康教育学系に所属する者は共通科目から、必修科目である「体育科学論演習Ⅰ・Ⅱ」の4単位を含め、8単位以上、基礎科目から6単位以上、専修科目選択1から2単位以上、専修科目選択2から4単位以上、専修科目選択3から2単位以上、専修科目選択4から1単位以上、専修科目選択5から1単位以上、専修科目選択6から2単位以上、専修科目選択7から2単位以上、研究指導科目を4単位以上修得すること。</p>									1学年の学期区分	2学期				
									1学期の授業期間	15週				
									1時限の授業時間	90分				

教育課程等の概要

(体育科学研究科 体育科学専攻 博士後期課程)

科目区分	授業科目名	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	体育科学特論演習I	1前	1				○		1					兼1	共同
	体育科学特論演習II	1後	1				○		1					兼1	共同
	英語論文ライティング	1通			2		○							兼1	
	小計(3科目)	—	2	0	2	—			1	0	0	0	0	兼2	
基礎科目	(スポーツ文化・社会科学系) 文化・社会科学研究法	1前		2			○		4						
	(トレーニング科学系) トレーニング科学研究法	1前		2			○		3	3				兼1	
	(健康科学・スポーツ医科学系) 健康・医科学研究法	1前		2			○							兼1	
	(スポーツ教育・健康教育学系) 教育学研究法	1前		2			○		3						
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			10	3	0	0	0	兼2	
専修科目	(スポーツ文化・社会科学系) スポーツ史特論	1後		2			○		1						
	スポーツ経営学特論	1前		2			○			1					
	スポーツ哲学特論	1前		2			○		1						
	スポーツ人類学特論	1後		2			○		1						
	スポーツ社会学特論	1後		2			○		1						
	身体教育学特論	1後		2			○		1						
	(トレーニング科学系) トレーニング学特論	1前		2			○		1	1					
	スポーツ生理学特論	1前		2			○		1						
	体力学特論	1前		2			○		1						
	スポーツ栄養学特論	1後		2			○							兼1	
	スポーツバイオメカニクス特論	1前		2			○		1	1					
	スポーツ心理学特論	1後		2			○							兼1	
	(健康科学・スポーツ医科学系) 運動衛生学特論	1後		2			○		1						
	運動生理学特論	1前		2			○							兼3	
	体力医学特論	1前		2			○							兼1	
	健康教育学特論	1前		2			○							兼1	
	健康発達学特論	1前		2			○		1						
	スポーツ損傷と予防特論	1後		2			○							兼1	
	障害学特論	1後		2			○		1						
	(スポーツ教育・健康教育学系) スポーツ教育学特論	1前		2			○		1						兼1
	スポーツ教授学・方法学特論	1前		2			○		1						
	学校保健学特論	1前		2			○		1	1					
	公衆衛生学特論	1前		2			○		1						
	リプロダクティブ・ヘルスト論	1前		2			○		1						
小計(24科目)	—	0	48	0	—			15	4	0	0	0	兼8		

教育課程等の概要(既設の研究科) 体育科学研究科 体育科学専攻 博士後期課程-1

科目区分	授業科目名	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究指導科目	特別研究指導Ⅰ	1通	2				○		14	3				兼5	集中
	特別研究指導Ⅱ	2通	2				○		14	3				兼5	集中
	特別研究指導Ⅲ	3通	2				○		14	3				兼5	集中
	小計(3科目)	—	6	0	0	—			14	3	0	0	0	兼5	
合計(57科目)		—	2		2	—			14	4	0	0	0	兼8	
学位又は称号		博士(体育科学)		学位又は学科の分野				体育関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
(修了要件) 当該課程に3年以上在学し、12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。 (履修方法) 共通科目から、必修科目である「体育科学特論演習Ⅰ・Ⅱ」の2単位を含め、所属する学系の基礎科目2単位、専修科目から2単位以上、研究指導科目を6単位選択し、計12単位以上修得すること。								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要															
(体育科学研究科 コーチング学専攻 博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	体育科学論ⅠA	1前		2		○			1					兼2	オムニバス
	体育科学論ⅠB	2前		2		○				1				兼2	オムニバス
	体育科学論ⅡA	1前		2		○			1					兼2	オムニバス・共同(一部)
	体育科学論ⅡB	2後		2		○			1					兼2	オムニバス
	体育科学論演習Ⅰ	1通	2				○		1					兼1	共同
	体育科学論演習Ⅱ	2通	2				○		1					兼1	共同
	小計(6科目)	—	—	4	8	0	—	—	—	4	1	0	0	0	兼8
基礎科目	コーチング学特論	1通	4			○			3	2					オムニバス・共同(一部)
	コーチング研究法	1前	2			○			2	2					オムニバス
	コーチング学演習Ⅰ	1通	2				○		2	2					オムニバス
	小計(3科目)	—	—	8	0	0	—	—	3	2	0	0	0	0	
専修科目	スポーツ哲学特論	1前		2		○								兼1	
	スポーツの危機管理(アソシエーションを含む)	1前		2		○			2						オムニバス
	コーチングのエスノグラフィー	1前		2		○			1	1				兼1	オムニバス
	コーチングのバイオメカニクス	1前		2		○			1						
	コーチングの生理学	1後		2		○				1					
	スポーツ戦術論	1前		2		○			1	1				兼1	集中
	個人型スポーツコーチング論	1後		2		○			5	1					オムニバス
	チーム型スポーツコーチング論	1後		2		○			1	1				兼1	集中
	対人型スポーツコーチング論	2前		2		○			2						
	スポーツ心理学特論	1後		2		○				1					
	トレーニング学特論	1後		2		○								兼1	
	競技者体力学特論	2前		2		○			1						
	スポーツバイオメカニクス特論	2前		2		○			1						
	スポーツ生理学特論	2前		2		○			1						
	スポーツ栄養学特論	2前		2		○								兼1	
	スポーツ医学特論	2前		2		○			1						
	スポーツ社会学特論	2前		2		○								兼1	
	スポーツマネジメント特論	2前		2		○								兼1	
	コーチング学演習Ⅱ	2通		2			○		2	2					オムニバス
	コーチング実践演習(プラクティカム)	2通		2			○		1	1					共同
	コーチのための英語コミュニケーション	1後		2			○							兼1	
小計(21科目)	—	—	0	42	0	—	—	—	13	5	0	0	0	兼8	
科目研究指導	研究指導Ⅰ	1通	2				○		14	5					集中
	研究指導Ⅱ	2通	2				○		14	5					集中
	小計(2科目)	—	—	4	0	0	—	—	14	5	0	0	0		
合計(32科目)		—	16	50		—	—	—	14	5				兼13	
学位又は称号		修士(コーチング学)			学位又は学科の分野			体育関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
共通科目の必修科目を4単位、共通科目の選択科目から4単位以上、基礎科目を8単位、専修科目の中から10単位以上、研究指導科目を4単位修得し、合計30単位以上を修得すること。かつ、必要な研究指導を受けた上で修士論文を提出し、その審査並びに最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要															
(体育科学研究科 コーチング学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	体育科学特論演習Ⅰ	1前	1				○		1					兼1	共同
	体育科学特論演習Ⅱ	1後	1				○		1					兼1	共同
	小計(2科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	兼1	—
基礎科目	コーチング研究法Ⅰ(複合・教授学系)	1前	2			○			2						オムニバス
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			2	0	0	0	0	0	—
専修科目	コーチング研究法Ⅱ(スポーツ哲学系)	1後		2		○								兼1	
	コーチング研究法Ⅲ(歴史・人類学系)	1後		2		○								兼1	
	コーチング研究法Ⅳ(心理学系)	1後		2		○			1					兼1	
	コーチング研究法Ⅴ(社会学系)	1後		2		○								兼1	
	コーチング研究法Ⅵ(栄養・生理学系)	1後		2		○			2					兼1	オムニバス・共同(一部)
	コーチング研究法Ⅶ(バイオメカニクス系)	1後		2		○			1					兼1	オムニバス
	コーチング研究法Ⅷ(スポーツ医学系)	1後		2		○			1					兼1	オムニバス
小計(7科目)	—	0	14	0	—			4	1	0	0	0	兼4	—	
研究指導	特別研究指導Ⅰ	1通	2				○		7	1					集中
	特別研究指導Ⅱ	2通	2				○		7	1					集中
	特別研究指導Ⅲ	3通	2				○		7	1					集中
	小計(3科目)	—	6	0	0	—			7	1	0	0	0		—
合計(13科目)		—	10	14	0	—			7	1	0	0	0	兼4	—
学位又は称号	博士(コーチング学)		学位又は学科の分野			体育関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
共通科目から2単位、基礎科目から2単位、専修科目から2単位以上、研究指導科目から6単位を修得し、合計12単位以上を修得すること。かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。								1学年の学期区分				2 学期			
								1学期の授業期間				15 週			
								1時限の授業時間				90 分			

教育課程等の概要																
(体育学部体育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	言語表現科目	必修1	国語表現I	1前・後	1				○							兼6
			国語表現II	2前・後	1				○							兼9
			基礎英語I	1前	1					○						兼9
			基礎英語II	1後	1					○						兼9
			英語コミュニケーションI	2前	1					○		1				兼7
			英語コミュニケーションII	2後	1					○		1				兼7
			小計(6科目)	—	6	0	0			—		1	0	0	0	0
	教養科目	選択1	哲学	1前		2			○							兼2
			法学(日本国憲法)	1前・後	2				○			1				兼1
			心理学	1前・後	2					○						兼2
			芸術(音楽)	1前・後	2					○		1				兼1
			生命科学	1前	2					○		1				兼1
			情報処理(情報機器の操作を含む)	1前・後	2					○		1				兼3
			小計(6科目)	—	0	12	0			—		3	1	0	0	0
	選択2	文学	2前・後	2					○		1					兼0
		社会学	2前・後	2					○							兼3
		歴史学	2前・後	2					○							兼1
		経済学	2前・後	2					○							兼1
		統計学	2前・後	2					○							兼4
		エコロジー	2前・後	2					○							兼4
小計(6科目)		—	0	12	0			—		1	0	0	0	0	兼13	
外国語科目	自由1	海外語学研修	1通			2									兼1	
		応用英語	2通			2					1				兼2	
		ドイツ語	2通			2									兼1	
		中国語	2通			2									兼1	
		コア語	2通			2									兼1	
小計(5科目)	—	0	0	10			—		1	0	0	0	0	兼6		
総合教育科目	必修1	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1前	2				○							兼0	
		小計(1科目)	—	2	0	0			—		1	0	0	0	兼0	
	自由1	体育研究発表実演会	1後			1					1				兼0	
		小計(1科目)	—	0	0	1			—		1	0	0	0	兼0	
	選択1	海浜実習	2前		1						1				兼0	
		キャンプ実習	2前		1										兼1	
	小計(2科目)	—	0	2	0			—		1	0	0	0	兼1		
	選択2	スキー実習	3後		1										兼1	
		スケート実習	3後		1										兼1	
	小計(2科目)	—	0	2	0			—		0	0	0	0	0	兼2	
キャリアデザイン科目	必修1	キャリアデザインA	2後	2				○							兼4	
		小計(1科目)	—	2	0	0			—		0	0	0	0	兼4	
	自由1	キャリアデザインB	3前			2		○						兼1		
インターンシップ(事前事後指導を含む)	2通			1						1				兼0		
小計(2科目)	—	0	0	3			—		0	1	0	0	0	兼1		
専門教育科目	理論系科目	必修1	スポーツ研究A	1前	2				○							兼6
			スポーツ哲学	1前・後	2						1					兼2
			スポーツ史	2後	2						1					兼0
			機能解剖学	1前・後	2											兼4
			スポーツ生理学	2前・後	2											兼5
			野外活動論	1後	2											兼2
			小計(6科目)	—	12	0	0			—		2	0	0	0	0

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手					
															7	0	0	—
学部 共通科目	専門 教育科目	必修1	スポーツ研究B	2前・後	1					○							兼10	
			スポーツ研究C	3通	2					○							兼57	
			スポーツ研究D(卒業研究を含む)	4通	4						○							兼47
			小計(3科目)	—	7	0	0	—		24	23	0	8	0			兼74	
		必修2	運動方法・体づくり運動(体操)	1前・後	1						○							兼3
			運動方法・器械運動	1前・後	1						○							兼2
			運動方法・陸上競技	1前・後	1						○			1				兼3
			運動方法・水泳	1前・後	1						○							兼10
			運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1前・後	1						○							兼4
			運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1前・後	1						○							兼3
		小計(6科目)	—	6	0	0	—		6	3	0	2	0			兼25		
		選択1	運動方法・バスケットボール	1前・後		1					○							兼2
			運動方法・バドミントン	1前・後		1					○							兼1
			運動方法・サッカー	1前・後		1					○							兼2
			運動方法・ラグビー	2前・後		1					○							兼0
		小計(4科目)	—	0	4	0	—		2	4	0	1	0			兼5		
		選択2	運動方法・バレーボール	1前・後		1					○							兼1
			運動方法・テニス	2前・後		1					○							兼1
			運動方法・卓球	1前・後		1					○							兼2
			運動方法・バドミントン	1前・後		1					○							兼1
		小計(4科目)	—	0	4	0	—		1	2	0	2	0			兼5		
		選択3	運動方法・武道(柔道)	1前・後		1					○							兼4
			運動方法・武道(剣道)	1前・後		1					○							兼4
			運動方法・武道(相撲)	1前・後		1					○							兼2
運動方法・レスリング	2前・後			1					○							兼0		
小計(4科目)	—	0	4	0	—		0	1	0	1	0			兼10				
体育学科 共通科目	基幹科目	必修1	トレーニング学	2前	2				○								兼0	
			コーチング学	2前・後	2				○								兼0	
			スポーツバイオメカニクス	3前・後	2				○								兼0	
			測定評価学	3前・後	2				○								兼1	
			スポーツ心理学	3前・後	2				○								兼2	
	小計(5科目)	—	10	0	0	—		3	4	0	0	0			兼3			
	展開科目	選択1	発育発達論	1前・後		2				○								兼1
			衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1前・後		2				○								兼3
			特別支援教育総論	1前・後		2					○							兼0
			スポーツ栄養学(食品学を含む)	2後		2				○								兼2
			スポーツ医学	2前・後		2				○								兼3
			テーピング理論(実習を含む)	2前・後		2				○								兼3
			学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2前・後		2				○								兼3
			健康管理学	3前・後		2				○								兼2
			スポーツ社会学	3前・後		2				○								兼2
			スポーツ経営管理学	3前・後		2				○								兼5
			スポーツ人類学	3後		2				○								兼1
			生涯スポーツ論	1後		2				○								兼1
			学校安全(救急処置を含む)	3前・後		2				○								兼4
			人権教育	3前・後		2				○								兼2
	小計(14科目)	—	0	28	0	—		1	2	0	1	0			兼32			
	選択2	専門運動方法(トランポリン)	2前・後		1					○								兼1
		専門運動方法(ゴルフ)	4前・後		1					○								兼2
		専門運動方法(アーチェリー)	4前・後		1					○								兼2
エアロビックダンス		2前・後		1					○								兼3	
知的障害児・者のスポーツ指導		3後		2				○									兼1	
肢体不自由児・者のスポーツ指導		4前		2				○									兼1	
専攻実技研究I		3通		2					○							兼18		
専攻実技研究II		4通		2					○							兼18		
小計(8科目)	—	0	12	0	—		11	13	0	7	0			兼25				

科目区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
体育学科 共通科目	展開科目	選択3	ストレッチ実習	1前・後	1				○		2					兼2	
			トレーニング実践演習	2前・後	1				○		1						兼3
			運動処方演習	2前・後	1					○	1						兼4
			ゴルフ実習	4前	1					○							兼1
			重複障害児・者等教育総論	1後	2				○		1						兼0
			発達障害児・者等教育総論	1後	2				○		1	1					兼0
			病弱児・者の心理・生理・病理	2後	2				○		1						兼0
			知的障害児・者の心理・生理・病理	2後	2				○		1	1					兼0
			肢体不自由児・者の心理・生理・病理	3前	2				○		2						兼0
			視覚障害児・者教育総論	4前	2				○								兼2
聴覚障害児・者教育総論	4前	2				○								兼2			
小計(11科目)			—	0	18	0		—	3	4	0	0	0		兼14		
スポーツ教育 領域科目	基幹科目	必修1	体育科教育法	2前・後	2				○		1					兼3	
			保健科教育法	2前・後	2				○		1						兼1
			小計(2科目)	—	4	0	0		—	0	1	0	0	0			兼4
	展開科目	選択1	体育科教育実践法	3前・後	2				○		1						兼5
			保健科教育実践法	3前・後	2				○								兼4
			教育原理	1前	2				○								兼3
			教育心理学	2前・後	2				○		1						兼2
			道徳教育の指導法	2前・後	2				○		1						兼2
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2後	2				○								兼2
			スポーツ行政	2前	2				○								兼1
			スポーツトレーニング論A(心)	2前・後	2				○								兼2
			スポーツトレーニング論B(技)	2前	2				○		1	1					兼0
			スポーツトレーニング論C(体)	2後	2				○		1						兼0
			教育の方法と技術	3前・後	2				○								兼4
			教師論	1後	2				○			1					兼2
			教育の制度と経営	3前・後	2				○								兼2
			特別支援教育概論	3前	2				○		1	1					兼2
	生徒指導論(進路指導・キャリア教育を含む)	3前・後	2				○								兼2		
	教育課程論	3前・後	2				○								兼2		
	教育相談(カウンセリングを含む)	3前・後	2				○								兼2		
小計(17科目)			—	0	34	0		—	3	5	0	0	0		兼34		
展開科目	選択2	スポーツ実践指導法・体づくり運動(体操)	3前・後	1				○	1	1						兼0	
		スポーツ実践指導法・器械運動	3前・後	1				○	1			1				兼1	
		スポーツ実践指導法・陸上競技	3前・後	1				○	1	1						兼0	
		スポーツ実践指導法・水泳	3前・後	1				○								兼7	
		スポーツ実践指導法・ソフトボール(野球を含む)	3前・後	1				○		1						兼2	
スポーツ実践指導法・ダンス(フォークダンスを含む)	3前・後	1				○								兼2			
小計(6科目)			—	0	6	0		—	3	3	0	1	0		兼12		
展開科目	選択3	スポーツ実践指導法・バスケットボール	3前・後	1				○		1						兼3	
		スポーツ実践指導法・ハンドボール	3前・後	1				○		1						兼0	
		スポーツ実践指導法・サッカー	3前・後	1				○		1						兼2	
		スポーツ実践指導法・ラグビー	4前	1				○	1	1						兼0	
小計(4科目)			—	0	4	0		—	1	4	0	0	0		兼5		
展開科目	選択4	スポーツ実践指導法・バレーボール	3前・後	1				○		2						兼1	
		スポーツ実践指導法・卓球	3前・後	1				○								兼3	
		スポーツ実践指導法・テニス	4後	1				○								兼1	
		スポーツ実践指導法・バドミントン	3前・後	1				○		1		1				兼0	
	小計(4科目)			—	0	4	0		—	0	3	0	1	0		兼5	
展開科目	選択5	スポーツ実践指導法・柔道	3前・後	1				○								兼4	
		スポーツ実践指導法・剣道	3前・後	1				○								兼3	
		スポーツ実践指導法・相撲	3前・後	1				○								兼2	
		スポーツ実践指導法・レスリング	4後	1				○		1		1				兼0	
		小計(4科目)			—	0	4	0		—	0	1	0	1	0		兼9
スポーツ教育 領域科目	自由科目	自由	事前事後の指導	4前		1			○							兼9	
			教育実習	4前		4			○		1						兼0
			教職実践演習(中・高)	4後		2			○								兼9
			病弱児・者教育論	3後		2			○		1						兼1
			知的障害児・者教育論	3後		2			○			1					兼0
			肢体不自由児・者教育論	3後		2			○		1						兼0
			特別支援教育実習指導	4前		1				○	2	1					兼0
			特別支援教育実習	4前		2				○	2	1					兼0
小計(8科目)			—	0	0	16		—	2	2	0	0	0		兼10		

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
競技スポーツ 領域科目	基幹科目	必修1	スポーツトレーニング論A(心)	2前・後	2			○				1	1				兼2		
			スポーツトレーニング論B(技)	2前	2			○										兼0	
			スポーツトレーニング論C(体)	2後	2			○										兼0	
			小計(3科目)	—	6	0	0	—				2	1	0	0	0		兼2	
	展開科目	選択1	アスレティックトレーニング論(基礎I)A	2前	2			○					1					兼0	
			アスレティックトレーニング論(基礎I)B	2後	2			○					1					兼0	
			アスレティックトレーニング論(基礎II)A	2前	2			○						1				兼0	
			アスレティックトレーニング論(基礎II)B	2後	2			○										兼1	
			アスレティックトレーニング論(応用I)A	3前	2			○						1				兼0	
			アスレティックトレーニング論(応用I)B	3後	2			○						1				兼0	
			アスレティックトレーニング論(応用II)A	3前	2			○						1				兼0	
			アスレティックトレーニング論(応用II)B	3後	2			○						1				兼0	
			アスレティックトレーニング論(総合I)	3後	2			○										兼2	オムニバス
			アスレティックトレーニング論(総合II)	3後	2			○										兼1	
			コンディショニング論	3後	2			○						1				兼0	
			教育原理	1前	2			○										兼3	
			体育科教育法	2前・後	2			○						1				兼3	
			保健科教育法	2前・後	2			○						1				兼1	
			教育心理学	2前・後	2			○						1				兼2	
			道徳教育の指導法	2前・後	2			○						1				兼2	
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2後	2			○										兼2	
			スポーツ行政	2前	2			○										兼1	
			教育の方法と技術	3前・後	2			○										兼4	
			教師論	1後	2			○						1				兼2	
			特別支援教育概論	3前・後	2			○					1	1				兼2	
			教育の制度と経営	3前・後	2			○										兼2	
			生徒指導論(進路指導・キャリア教育を含む)	3前・後	2			○										兼2	
			教育課程論	3前・後	2			○										兼2	
			教育相談(カウンセリングを含む)	3前・後	2			○						1				兼2	
	小計(25科目)	—	0	50	0	—					1	6	0	0	0		兼32		
	展開科目	選択2	コーチング演習	3前・後	2			○							1		兼0		
			コンディショニング演習	4前	2			○					1				兼0		
			パフォーマンス分析演習	4後	2			○									兼1		
アスレティックトレーナー実習(基礎)			2通	2					○				2				兼2	共同・集中	
アスレティックトレーナー実習(応用)			3通	2						○			2				兼2	共同・集中	
アスレティックトレーナー実習(総合)			4通	2						○			2				兼2	共同・集中	
小計(6科目)	—	0	12	0	—					1	2	0	1	0		兼3			
展開科目	選択3	競技力向上実践プロジェクトA	2通	2				○							2		兼0		
		競技力向上実践プロジェクトB	3通	2					○				2				兼0		
		競技力向上実践プロジェクトC	4通	2						○							兼0		
		競技力向上サポートプロジェクトA	2通	2						○				1			兼0		
		競技力向上サポートプロジェクトB	3通	2							○			1			兼0		
		競技力向上サポートプロジェクトC	4通	2							○			1			兼0		
		小計(6科目)	—	0	12	0	—					2	2	0	2	0		兼0	
競技スポーツ 領域科目	自由科目	体育科教育実践法	3前・後			2			○				1				兼5		
		保健科教育実践法	3前・後			2			○								兼4		
		事前事後の指導	4前			1			○								兼9		
		教育実習	4前			4					○		1				兼0	集中	
		教職実践演習(中・高)	4後			2				○							兼9		
		病弱児・者教育論	3後			2		○				1					兼1	オムニバス	
		知的障害児・者教育論	3後			2		○					1				兼0		
		肢体不自由児・者教育論	3後			2		○					1				兼0		
		特別支援教育実習指導	4前			1				○			2	1			兼0	共同	
		特別支援教育実習	4前			2					○		2	1			兼0	共同・集中	
		小計(10科目)	—	0	0	20	—					2	2	0	0	0		兼18	
合計(192科目)				—	55	224	50	—			25	26	0	9	0		兼257		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学士又は称号	学士(体育学)		学位又は学科の分野			体育関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p><学部共通>の【言語表現科目】から必修科目6単位、【教養科目】選択1から8単位以上、選択2から8単位以上、【総合科目】から必修科目2単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、【キャリアデザイン科目】から必修科目2単位、【理論系科目】から必修科目12単位、【実践系科目】必修科目から13単位、選択1から2単位以上、選択2から2単位以上、選択3から2単位以上、小計59単位以上修得し、<学科共通>の【基幹科目】から必修科目10単位、【展開科目】選択1から12単位以上、選択2から4単位以上、選択3から3単位以上、小計29単位以上修得し、学部共通科目及び学科共通科目あわせて88単位を修得するほか、次の2つの領域のいずれかから36単位以上を修得し、学部共通及び学科共通と合わせて124単位以上修得すること。</p> <p><スポーツ教育領域>の【基幹科目】から必修科目4単位、【展開科目】選択1から24単位以上、選択2から3単位以上、選択3から2単位以上、選択4から2単位以上、選択5から1単位以上、合わせて36単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p> <p><競技スポーツ領域>の【基幹科目】から必修科目6単位、【展開科目】選択1から20単位以上、選択2から4単位以上、選択3から6単位以上、合わせて36単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p>						1学年の学期区分						2 学期		
						1学期の授業時間						1 5 週		
						1時限の授業時間						9 0 分		

教育課程等の概要																	
(体育学部健康学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学部共通科目	言語表現科目	必修1	国語表現I	1前・後	1				○							兼3	
		国語表現II	2後	1				○								兼4	
		基礎英語I	1前	1					○							兼4	
		基礎英語II	1後	1					○							兼4	
		英語コミュニケーションI	2前	1					○							兼4	
		英語コミュニケーションII	2後	1					○							兼4	
		小計(6科目)		—	6	0	0		—		0	0	0	0	0	0	兼10
	教養科目	選択1	哲学	1前		2			○								兼1
			法学(日本国憲法)	1後		2			○								兼1
			心理学	1前・後		2				○							兼2
			芸術(音楽)	1後		2				○							兼1
			生命科学	1前		2				○							兼1
			情報処理(情報機器の操作を含む)	1前・後		2				○							兼2
		小計(6科目)		—	0	12	0		—		0	0	0	0	0	0	兼8
	選択2	文学	2後		2				○								兼1
		社会学	2前		2				○								兼1
		歴史学	2後		2				○								兼1
		経済学	2後		2				○								兼1
		統計学	2後		2				○								兼1
		エコロジー	2前		2				○								兼1
		小計(6科目)		—	0	12	0		—		0	0	0	0	0	0	兼6
	外国語科目	自由1	海外語学研修	1通			2				○						兼1
			応用英語	2通			2				○						兼2
			ドイツ語	2通			2				○						兼2
中国語			2通			2				○						兼1	
コア語			2通			2				○						兼1	
小計(5科目)		—	0	0	10		—		0	0	0	0	0	0	兼7		
総合教育科目	必修1	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1前		2			○								兼1	
		小計(1科目)		—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1
	自由1	体育研究発表実演会	1後				1				○					兼1	
		小計(1科目)		—	0	0	1		—		0	0	0	0	0	0	兼1
	選択1	海浜実習	2前		1						○					兼1	
		キャンプ実習	2前		1						○					兼1	
		小計(2科目)		—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	0	兼2
	選択2	スキー実習	3後		1						○					兼1	
		スケート実習	3後		1						○					兼1	
		小計(2科目)		—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	0	兼2
	キャリアデザイン科目	必修1	キャリアデザインA	2後		2			○								兼1
小計(1科目)				—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	0	兼1
自由1		キャリアデザインB	3前			2		○								兼1	
	インターンシップ(事前事後指導を含む)	2通				1								○	兼1		
小計(2科目)		—	0	0	3		—		0	0	0	0	0	0	兼2		
専門教育科目	理論系科目	必修1	スポーツ研究A	1前		2			○							兼2	
			スポーツ哲学	1後		2				○							兼1
			スポーツ史	2後		2					○						兼1
			機能解剖学	1後		2					○						兼0
			スポーツ生理学	2前		2					○						兼0
			野外活動論	1後		2					○						兼1
			小計(6科目)		—	12	0	0		—		2	0	0	0	0	0

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手						
学部 共通科目	専門 教育科目	実践 系科目	必修1	スポーツ研究B	2前・後	1					○	1					兼3		
				スポーツ研究C	3通	2					○	9	3					兼100	
				スポーツ研究D(卒業研究を含む)	4通	4					○	9	3					兼90	
				小計(3科目)	—	7	0	0	—		9	3	0	0	0		兼108		
			必修2	運動方法・体づくり運動(体操)	1前・後	1					○								兼3
				運動方法・器械運動	1前・後	1					○								兼4
		運動方法・陸上競技		1前・後	1					○								兼2	
		運動方法・水泳		1後	1					○								兼5	
		運動方法・ソフトボール(野球を含む)		1前・後	1					○								兼3	
		運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)		1前・後	1					○								兼4	
		小計(6科目)	—	6	0	0	—		0	0	0	0	0		兼21				
		選択1	運動方法・バスケットボール	1前・後		1				○								兼2	
			運動方法・ハンドボール	1前・後		1				○								兼2	
			運動方法・サッカー	1前・後		1				○								兼2	
			運動方法・ラグビー	2前・後		1				○								兼1	
		小計(4科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0		兼7				
		選択2	運動方法・バレーボール	1前・後		1				○								兼1	
			運動方法・テニス	2前・後		1				○								兼1	
			運動方法・卓球	1前・後		1				○								兼1	
			運動方法・バドミントン	1前・後		1				○								兼1	
		小計(4科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0		兼4				
選択3	運動方法・武道(柔道)	1前・後		1				○								兼3			
	運動方法・武道(剣道)	1前・後		1				○								兼2			
	運動方法・武道(相撲)	1前・後		1				○								兼2			
	運動方法・レスリング	2前		1				○								兼2			
小計(4科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0		兼9						
健康 学科 共通 科目	展開 科目	基幹 科目	必修1	ヘルスプロモーション論	1前	2			○			3	1				兼0	オムニバス	
				社会福祉I	1前	2				○		1						兼0	
				健康管理学	3前	2				○									兼1
				小計(3科目)	—	6	0	0	—		4	1	0	0	0		兼1		
		必修1	衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1後	2				○		1							兼0	
			救急処置	3前	2				○									兼2	
			労働生理	3前	2				○									兼1	
			労働衛生	3前	2				○									兼1	
			労働関係法規I	4後	2				○									兼1	
			労働関係法規II	4後	2				○									兼1	
		小計(6科目)	—	12	0	0	—		1	0	0	0	0		兼6				
		選択1	発育発達論	1前		2			○		1							兼0	
			スポーツ医学	2後		2			○									兼2	オムニバス
			学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2前		2			○		1							兼0	
			予防医学	2前		2			○									兼1	
			衛生学・公衆衛生学II	2後		2			○									兼1	
			高齢者福祉と介護I	2前		2			○		1							兼0	
			アタプトッドフィジカルアクティビティー	2後		2			○		1							兼0	
			ソーシャルワーク概論A	2前		2			○		1							兼0	
			ソーシャルワーク概論B	2後		2			○		1							兼0	
			医学概論	3後		2			○		1							兼0	
学校安全(救急処置を含む)	3後			2			○		1							兼0			
臨床心理学(カウンセリングを含む)	3前			2			○									兼1			
社会保障A	3前			2			○									兼1			
児童・家庭福祉	3後			2			○									兼1			
障害福祉	3前			2			○									兼1			
地域福祉A	3前			2			○		1							兼0			
ソーシャルワークA	3前		2			○		1							兼0	集中			
ソーシャルワークB	3後		2			○									兼1	集中			
ソーシャルワークC	3後		2			○									兼1	集中			
ソーシャルワークD	3後		2			○		1							兼0	集中			
臨床看護学(実習を含む)	3前		2			○		1	1						兼1	共同			

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
		ヘルスカンセリング	3後	2			○			1					兼0
		トレーニング学	2前	2			○								兼1
		スポーツ栄養学(食品学を含む)	2後	2			○								兼1
		テーピング理論(実習を含む)	2前・後	2			○								兼3
		スポーツ社会学	3前	2			○								兼1
		スポーツ経営管理学	3前	2			○								兼2
		コーチング学	2後	2			○								兼1
		スポーツバイオメカニクス	3後	2			○								兼1
		測定評価学	3前	2			○								兼1
		スポーツ心理学	3前	2			○								兼1
		人権教育	3後	2			○			1					兼1
		小計(32科目)	—	0	64	0	—			7	2	0	0	0	兼22
		選択2	トレーニング実践演習	2前・後	1				○						
運動処方演習	2前・後		1				○							兼2	
エアロビクタンクス	2前・後		1					○						兼2	
小計(3科目)	—	0	3	0	—			0	0	0	0	0	兼7		
基幹科目	必修1	精神保健	2前	2			○							兼1	
		小計(1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
ヘルスプロモーション 領域科目	展開科目	選択1	養護概説(養護教諭の職務を含む)	2後	2		○			1				兼0	
			精神医学	2後	2		○								兼1
			基礎看護学	2後	2		○				1				兼0
			免疫学	3前	2		○				1				兼0
			学校保健II(保健室経営を含む)	3後	2		○				1				兼0
			栄養学(学校給食を含む)	3前	2		○								兼1
			微生物学	3後	2		○								兼1
			思春期保健	3後	2		○								兼1
			教育原理	1前	2		○				1				兼1
			教育心理学	2前	2		○								兼2
			体育科教育法	2後	2		○				1				兼1
	保健科教育法	2前	2		○								兼1		
	道徳教育の指導法	2前	2		○								兼1		
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2前	2		○								兼1		
	教師論(養護)	3前	2		○								兼1		
	教師論	1後	2		○								兼1		
	教育の制度と経営	3後	2		○								兼1		
	特別支援教育概論	3後	2		○								兼1		
	教育の方法と技術	3後	2		○								兼2		
	生徒指導論(進路指導・キャリア教育を含む)	3前	2		○								兼2		
	教育課程論	3前・後	2		○								兼1		
	教育相談(カウンセリングを含む)	3後	2		○								兼1		
小計(22科目)	—	0	44	0	—			3	3	0	0	0	兼21		
選択2	衛生学・公衆衛生学実験実習	3後	1				○		1					兼1	
	体育科教育実践法	3前・後	2				○							兼3	
	保健科教育実践法	3前・後	2				○							兼2	
小計(3科目)	—	0	5	0	—			1	0	0	0	0	兼6		
自由科目	自由	看護臨床実習	3前		5			○	1	1				兼0	
		事前事後の指導	4前		1			○						兼2	
		養護実習(事前事後の指導を含む)	4前		5			○	1	1				兼0	
		教職実践演習(養護)	4後		2			○						兼1	
		教育実習	4前		4			○						兼1	
		教職実践演習(中・高)	4後		2			○						兼2	
小計(6科目)	—	0	0	19	—			2	2	0	0	0	兼4		

科目区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
ソーシャルサポート 領域科目	基幹科目	必修1	社会福祉II	3後	2			○			1					兼0
			小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	兼0
	展開科目	選択1	地域福祉B	3後	2			○			1					兼0
			高齢者福祉と介護II	3前	2			○			1					兼0
			社会保障B	3後	2			○								兼1
			生活保護	3後	2			○								兼1
			社会福祉調査	3後	2			○			1					兼0
			福祉経営	4前	2			○			1					兼0
			雇用政策	4後	1			○			1					兼0
			権利擁護と成年後見	4後	2			○								兼1
			司法福祉	4後	1			○			1					兼0
			社会福祉行政と福祉計画	4後	2			○			1					兼0
			医療福祉	4後	2			○			1					兼0
			教育原理	1前	2			○				1				兼1
			教育心理学	2前	2			○								兼2
			体育科教育法	2後	2			○			1					兼1
			保健科教育法	2前	2			○								兼1
			道徳教育の指導法	2前	2			○								兼1
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2前	2			○								兼1
			教師論	1後	2			○								兼1
			教育の方法と技術	3後	2			○								兼2
			教育の制度と経営	3後	2			○								兼1
			特別支援教育概論	3後	2			○								兼1
			生徒指導論(進路指導・キャリア教育を含む)	3前	2			○								兼2
			教育課程論	3前・後	2			○								兼1
			教育相談(カウンセリングを含む)	3後	2			○								兼1
			小計(24科目)	—	0	46	0	—			4	1	0	0	0	兼19
	展開科目	選択2	相談援助演習I	2後		1			○		2					兼0
			相談援助演習IIA	3前		1			○		2					兼0
			相談援助演習IIB	3後		1			○		2					兼0
			相談援助演習III	4後		1			○		2					兼0
			相談援助演習IV	4後		1			○		2					兼0
			相談援助実習指導I	3後		1			○		2					兼0
相談援助実習指導II			4後		1			○		2					兼0	
相談援助実習指導III			4後		1			○		2					兼0	
相談援助実習			4後		6				○		2					兼0
体育科教育実践法			3前・後		2				○		1					兼3
保健科教育実践法			3前・後		2				○							兼2
		小計(11科目)	—	0	18	0	—			3	0	0	0	0	兼5	
自由科目	自由	事前事後の指導	4前			1		○							兼2	
		教育実習	4前			4			○						兼1	
		教職実践演習(中・高)	4後			2			○						兼2	
		小計(3科目)	—	0	0	7	—			0	0	0	0	0	兼3	
合計(174科目)			—	57	220	40	—			10	3	0	0	0	兼205	
学士又は称号		学士(体育学)			学位又は学科の分野			体育関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p><学部共通>の【言語表現科目】から必修科目6単位、【教養科目】選択1から8単位以上、選択2から8単位以上、【総合科目】から必修科目2単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、【キャリアデザイン科目】から必修科目2単位、【理論系科目】から必修科目12単位、【実践系科目】必修科目から13単位、選択1から2単位以上、選択2から2単位以上、選択3から2単位以上、小計59単位以上修得し、<学科共通>の【基幹科目】から必修科目6単位、【展開科目】必修科目12単位、選択1から20単位以上、選択2から2単位以上、小計40単位以上修得し、学部共通科目及び学科共通科目あわせて99単位を修得するほか、次の2つの領域のいずれかから25単位以上を修得し、学部共通及び学科共通と合わせて124単位以上修得すること。</p> <p><ヘルスプロモーション領域>の【基幹科目】から必修科目2単位、【展開科目】選択1から22単位以上、選択2から1単位以上、合わせて25単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p> <p><ソーシャルサポート領域>の【基幹科目】から必修科目2単位、【展開科目】選択1から22単位以上、選択2から1単位以上、合わせて25単位以上を修得すること。(履修単位の年間登録の上限:50単位(年間))</p>							1学年の学期区分	2学期								
							1学期の授業時間	15週								
							1時限の授業時間	90分								

教育課程等の概要															
(スポーツ文化学部スポーツ国際学科)															
科目区分	授業科目の名称		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	必修	国語表現Ⅰ	1前	1				○						兼2	
		国語表現Ⅱ	2前	1				○						兼1	
		英語コミュニケーションⅠ	2前	1				○		1				兼1	
		英語コミュニケーションⅡ	2後	1				○						兼2	
		基礎英語Ⅰ	1前	1				○						兼2	
		基礎英語Ⅱ	1後	1				○		1				兼1	
	選択	法学(日本国憲法)	1前		2			○						兼1	
		情報処理(情報機器の操作を含む)	1前		2			○						兼2	
		芸術	1前		2			○						兼1	
		哲学	1前		2			○						兼1	
		心理学	1後		2			○						兼1	
		社会学	2前		2			○						兼1	
		経済学	2前		2			○						兼1	
	歴史学	2前		2			○						兼1		
	自由	海外語学研修	2後			2			○	1				集中	
英会話		3通			2			○					兼1		
ドイツ語		3通			2			○					兼1		
フランス語		3通			2			○					兼1		
中国語		3通			2			○					兼1		
小計(20科目)		—	6	16	12		—	1	0	0	0	0	兼21		
総合科目	必修1	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1前	2				○		1					
	自由1	体育研究発表実演会	1後			1							兼1	集中	
	選択1	集団行動実技(不開講)	1前		1				○						
		集団行動演習(不開講)	2前		1				○						
		スポーツと組織	2後		2				○			1			
	選択2	海浜実習	2前		1				○					兼1	集中
		キャンプ実習	2前		1				○					兼1	集中
	選択3	スキー実習	3後		1				○					兼1	集中
		スケート実習	3後		1				○					兼1	集中
	必修2	スポーツ文化研究A	1前	2					○				1		
		スポーツ文化研究B	2後	1					○	1					
		スポーツ文化研究C	3通	2					○	5	3		2		
		スポーツ文化研究D	4通	2					○	5	3		2		
	自由2	卒業研究	4通			2			○	5	3		2		
	必修3	地域社会とスポーツ	1後	2					○					兼1	
自由3	地域ボランティア実習(事前・事後指導含む)	2前			1				1	1					
	地域スポーツ演習	3前			1								兼2	集中・共同	
必修4	キャリアデザインA	2前	2					○					兼1		
自由4	キャリアデザインB	3前			2								兼1		
	インターンシップ実習	2後			1								兼1	集中	
小計(20科目)		—	13	8	8		—	5	3	0	2	0	兼10		

科目区分	授業科目の名称		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学部専門科目（理論）	基幹科目	必修	スポーツ社会学	3後	2			○								兼1	
			スポーツ哲学	1後	2			○			1						
			スポーツ史	1後	2			○			1						
		芸道論	2前	2			○									兼1	
	選択	異文化交流論	2前	2			○									兼1	
		スポーツボランティア論	2前	2			○									兼1	
		スポーツの安全指導(リスクマネジメント)	1後	2			○									兼1	
		スポーツ医学	2前	2			○									兼2 共同	
		野外活動論	1後	2			○									兼1	
	救急処置概論	1前	2			○									兼1		
小計(10科目)			—	8	12	0		—	0	2	0	0	0	0	兼9	—	
展開科目	選択	身体文化論	2後	2			○				1						
		衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1後	2			○			1							
		機能解剖学	1後	2			○									兼1	
		発育発達論	1後	2			○									兼1	
	スポーツ生理学	2後	2			○									兼1		
小計(5科目)			—	0	10	0		—	1	1	0	0	0	0	兼2	—	
学部専門科目（体育実技）	展開科目	必修	運動方法・体づくり運動(体操)	1後	1					○				1			
			運動方法・器械運動	1後	1					○							兼2
			運動方法・陸上競技	1前	1					○							兼2
			運動方法・水泳	1前	1					○							兼4 共同
			運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1前	1					○	1						
			運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1後	1					○							兼2
			運動方法・球技A	3前	1					○							兼2
	運動方法・球技B	3後	1					○							兼1		
	選択1	運動方法・武道(柔道)	1前	1					○							兼2	
		運動方法・武道(剣道)	1前	1					○							兼2	
運動方法・武道(相撲)		1前	1					○							兼2		
選択2	スポーツ実践指導法・柔道	3前	1					○							兼2		
	スポーツ実践指導法・剣道	3前	1					○							兼2		
	スポーツ実践指導法・相撲	3前	1					○							兼1		
小計(14科目)			—	8	6	0		—	1	0	0	1	0	0	兼21	—	

科目区分		授業科目の名称		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学科基礎科目	基幹科目	必修	スポーツ文化論	1後	2			○						1					
			文化人類学	1前	2			○				1							
			スポーツ人類学	1後	2			○				1							
			武道論	2後	2			○											兼1
			礼法	1前	1														兼2
	小計(5科目)			—	9	0	0	—			0	1	0	1	0		兼3	—	
	展開科目	選択1	トレーニング学	2前	2			○										兼1	
			コーチング学	3後	2			○										兼1	
			スポーツ心理学	3前	2			○										兼1	
			スポーツバイオメカニクス	3後	2			○										兼1	
		選択2	人権教育	2後	2			○										兼1	
			スポーツ栄養学(食品学を含む)	2前	2			○										兼1	
			学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2後	2			○										兼1	
			学校安全(救急処置を含む)	3前	2			○										兼1	
		選択3	国際情勢理解	2後	2			○										兼1	
	スポーツと国際協力		3前	2			○				1								
選択4	国際保健学	3前	2			○				1									
	伝統芸能論	3後	2			○										兼1			
展開科目	選択4	伝統芸能史	2後	2			○									兼1			
		伝統芸能の諸相	1後	2			○									兼1			
		比較舞踊学	2前	2			○									兼1			
		小計(16科目)	—	0	32	0	—			1	0	0	0	0	0	兼14	—		
学科専門科目	基幹科目(理論)	必修	スポーツ国際概論	2後	2			○									兼1		
			スポーツフィールドワーク論	2前	2			○									兼1		
			アジアのスポーツ文化論	3前	2			○							1				
			欧米のスポーツ文化論	3後	2			○				1							
			ニュースポーツ論	1前	2			○							1				
	小計(5科目)			—	10	0	0	—			0	1	0	1	0	兼2	—		
	基幹科目(実践)	必修	スポーツフィールドワーク実習	2後	1						○		1						
			ニュースポーツ実技	1後	1							○			1				
		選択	スポーツ国際実習	3後	1							○	1					集中	
			スポーツ国際支援実習	3後	1							○	1					集中	
	小計(4科目)			—	2	2	0	—			1	1	0	1	0	兼0	—		
	展開科目(理論)	選択	スポーツとコミュニケーションA	2後	1				○						1				
			スポーツとコミュニケーションB	2後	1				○				1						
			スポーツマネジメント	3前	2			○										兼1	
			世界のスポーツ情勢	3後	2			○										兼1	
			スポーツメガイイベント論	2前	2			○										兼1	
スポーツ政策論			2後	2			○										兼1		
スポーツ情報リテラシー			3後	2			○										兼1		
比較スポーツカリキュラム論			2前	2			○				1								
スポーツ運動のメカニズム論			3後	2			○										兼1		
健康スポーツ開発論			3後	2			○				1								
小計(10科目)			—	0	18	0	—			2	1	0	1	0	兼6	—			
展開科目(実践)	選択	エスニックスポーツ実技	1前・後	1						○						兼1			
		身体表現実技	2前	1							○					兼1			
		海外スポーツ指導実技	3前	1							○			1					
小計(3科目)			—	0	3	0	—			0	0	0	1	0	兼2	—			

科目区分	授業科目の名称		単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
学科専門科目	資格関連科目	選択	教師論	1後	2		○									兼1		
			教育原理	1前	2		○										兼1	
			教育心理学	2後	2		○										兼1	
			体育科教育実践法	3前	2			○		1							兼1	
			保健科教育実践法	3後	2			○									兼1	
			体育科教育法	2前	2		○			1							兼1	
			保健科教育法	2後	2		○										兼1	
			教育課程論	3後	2		○										兼1	
			教育の方法と技術	3前	2		○										兼1	
			道徳教育の指導法	2前	2		○										兼1	
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2後	2		○										兼1	
			生徒指導論(進路指導・キャリア教育を含む)	3前	2		○										兼1	
			教育相談(カウンセリングを含む)	3後	2		○										兼1	
			教育の制度と経営	3後	2		○										兼1	
			特別支援教育概論	3前	2		○										兼1	
			自由	事前事後の指導	4前		1		○		1							兼1
				教育実習	4前		4		○									集中
教職実践演習(中・高)	4後			2		○		1							兼1			
小計(17科目)			—	0	30	7	—	1	0	0	0	0	0	兼14	—			
合計(129科目)			—	56	137	27	—	5	3	0	2	0	0	兼95				
学士又は称号	学士(体育学)		学位又は学科の分野					体育関係										
卒業要件及び履修方法								授業期間等										
<p><学部共通科目>の【教養科目】から必修科目6単位、選択から8単位以上、【総合科目】必修1から2単位、必修2から7単位、必修3から2単位、必修4から2単位、選択1から2単位以上、選択2から1単位以上、選択3から1単位以上、<学部専門科目(理論)>【基幹科目】から必修科目8単位、選択から6単位以上、【展開科目】選択から4単位以上、<学部専門科目(体育実技)>【展開科目】必修科目から8単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、小計59単位以上修得し、<学科基礎科目>の【基幹科目】から必修科目9単位、【展開科目】選択1から4単位以上、選択2から6単位以上、選択3から2単位以上、選択4から4単位以上、小計25単位以上修得し、<学科専門科目>の【基幹科目(理論)】から必修科目10単位、【基幹科目(実践)】から必修科目2単位、選択から1単位以上、【展開科目(理論)】選択から14単位以上、【展開科目(実践)】選択から2単位以上、【資格関連科目】選択から11単位以上、小計40単位以上修得し、合わせて124単位以上修得すること。</p> <p>(履修単位の年間登録の上限:44単位(年間))</p>								1学年の学期区分				2学期						
								1学期の授業時間				15週						
								1時限の授業時間				90分						

教育課程等の概要															
(スポーツ文化学部武道教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	必修	国語表現Ⅰ	1前	1			○							兼2	
		国語表現Ⅱ	2前	1			○							兼1	
		英語コミュニケーションⅠ	2前	1			○							兼1	
		英語コミュニケーションⅡ	2後	1			○							兼1	
		基礎英語Ⅰ	1前	1			○							兼1	
		基礎英語Ⅱ	1後	1			○							兼2	
	選択	法学(日本国憲法)	1前		2		○							兼1	
		情報処理(情報機器の操作を含む)	1前		2		○							兼2	
		芸術	1前		2		○							兼1	
		哲学	1前		2		○							兼1	
		心理学	1後		2		○							兼1	
		社会学	2前		2		○							兼1	
		経済学	2後		2		○							兼1	
	歴史学	2前		2		○							兼1		
	自由	海外語学研修	2後			2			○					兼1	集中
		英会話	3通			2		○						兼1	
		ドイツ語	3通			2		○						兼1	
		フランス語	3通			2		○						兼1	
		中国語 コリア語	3通 3通			2 2		○ ○						兼1 兼1	
小計(20科目)		—	6	16	12	—			0	0	0	0	0	兼19	—
総合科目	必修1	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1前	2		○								兼1	
	自由1	体育研究発表実演会	1後		1		○		1						集中
	選択1	集団行動実技(不開講)	1前		1			○							
		集団行動演習(不開講)	2前		1			○							
		スポーツと組織	2後		2		○							兼1	
	選択2	海浜実習	2前		1			○						兼1	集中
		キャンプ実習	2前		1			○						兼1	集中
	選択3	スキー実習	3後		1			○						兼1	集中
		スケート実習	3後		1			○						兼1	集中
	必修2	スポーツ文化研究A	1前	2			○			1					
		スポーツ文化研究B	2後	1				○			1				
		スポーツ文化研究C	3通	2				○		6	3		2		
		スポーツ文化研究D	4通	2				○		6	3		2		
	自由2	卒業研究	4通		2		○		6	3		2			
必修3	地域社会とスポーツ	1後	2			○							兼1		
自由3	地域ボランティア実習(事前・事後指導含む)	2前			1		○							兼2	
	地域スポーツ演習	3前			1		○						兼2	集中・共同	
必修4	キャリアデザインA	2前	2			○							兼1		
自由4	キャリアデザインB	3前			2		○							兼1	
	インターンシップ実習	2後			1		○		1					集中	
小計(20科目)		—	13	8	8	—			6	3	0	2	0	兼13	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学部専門科目(理論)	基幹科目	必修	スポーツ社会学	3前	2		○								兼1		
			スポーツ哲学	1後	2		○									兼1	
			スポーツ史	1後	2		○									兼1	
			芸道論	2前	2		○									兼1	
	選択	異文化交流論	2前		2		○								兼1		
		スポーツボランティア論	2前		2		○								兼1		
		スポーツの安全指導(リスクマネジメント)	1後		2		○			1							
		スポーツ医学	2前		2		○								兼2	共同	
		野外活動論	1後		2		○								兼1		
	救急処置概論	1前		2		○								兼1			
小計(10科目)			—	8	12	0	—		1	0	0	0	0	0	兼10	—	
展開科目	選択	身体文化論	2後		2		○								兼1		
		衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)	1後		2		○								兼1		
		機能解剖学	1後		2		○								兼1		
		発育発達論	1後		2		○								兼1		
		スポーツ生理学	2後		2		○								兼1		
小計(5科目)			—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	兼4	—		
学部専門科目(体育実技)	展開科目	必修	運動方法・体づくり運動(体操)	1後	1				○						兼2		
			運動方法・器械運動	1後	1				○						兼2		
			運動方法・陸上競技	1前	1				○						兼2		
			運動方法・水泳	1前	1				○						兼4	共同	
			運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1前	1				○						兼1		
			運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1後	1				○			1			兼1		
			運動方法・球技A	3前	1				○						兼1		
			運動方法・球技B	3後	1				○						兼1		
	選択1	運動方法・武道(柔道)	1前		1				○						兼2		
		運動方法・武道(剣道)	1前		1				○		2						
選択2	運動方法・武道(相撲)	1前		1				○		1				兼1			
	スポーツ実践指導法・柔道	3前		1				○		1				兼1			
小計(14科目)			—	8	6	0	—		2	2	0	2	0	兼19	—		
学科基礎科目	基幹科目	必修	スポーツ文化論	1後	2				○						兼1		
			文化人類学	1前	2				○						兼1		
			スポーツ人類学	1後	2					○						兼1	
			武道論	2後	2					○		1					
			礼法	1前	1											兼2	
小計(5科目)			—	9	0	0	—		1	0	0	0	0	兼4	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科基礎科目	選択1	トレーニング学	2前	2		○									兼1	
		コーチング学	3後	2		○									兼1	
		スポーツ心理学	3前	2		○									兼1	
		スポーツバイオメカニクス	3後	2		○			1							
	選択2	人権教育	2後	2		○									兼1	
		スポーツ栄養学(食品学を含む)	2前	2		○									兼1	
		学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2後	2		○									兼1	
		学校安全(救急処置を含む)	3前	2		○									兼1	
	選択3	スポーツ経営管理学	3後	2		○									兼1	
		国際情勢理解	2後	2		○									兼1	
	選択4	スポーツと国際協力	3前	2		○									兼1	
		国際保健学	3前	2		○									兼1	
		伝統芸能論	3後	2		○									兼1	
	小計(16科目)			—	0	32	0	—	1	0	0	0	0	0	兼14	—
	学科専門科目	必修	武道教育論	2前	2		○									兼1
武道技術論			3前・後	2		○			3						兼5	
稽古論			3後	2		○									兼1	
比較武道文化論			2前	2		○			1							
選択		武道国際普及論	2前	2		○				1						
		武道国際交流論	2後	2		○			1							
小計(6科目)			—	8	4	0	—	3	1	0	0	0	0	兼7	—	
選択		伝統文化交流実習A	3後	1				○	1						集中	
		伝統文化交流実習B	3後	1				○	1						集中	
小計(2科目)			—	0	2	0	—	1	0	0	0	0	0	兼0	—	
展開科目(理論)	選択	武道科教育法	3後	2		○									兼1	
		武道教育研究法	3前	1			○			1					兼1	オムニバス
		武道用具論	3後	2		○			2	1						オムニバス
		武道文献講読	4後	2		○			1							
		武道史各論	2後	2		○			1						兼1	
		舞踊創作論(作品論を含む)	2前	2		○									兼1	
		古典芸能論(能・舞踊)	4後	2		○									兼1	
		芸能鑑賞論	4前	2		○									兼1	
小計(9科目)			—	0	17	0	—	3	2	0	0	0	0	兼6	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学科専門科目	展開科目 (実践)	選択1	国際武術実技	1後	1				○							兼1	
			競技スポーツ実技	3後	1				○							兼1	
			武道実技(弓道)	2前	1				○							兼2	
			武道実技(形)	3前	1				○		1						
	展開科目 (実践)	選択2	専攻武道実技Ⅰ	1通	2				○	2	1					兼5	
			専攻武道実技Ⅱ	2通	2				○	2						兼6	
			専攻武道実技Ⅲ	3通	2				○	1	1					兼6	
			専攻武道実技Ⅳ	4通	2				○							兼8	
			伝統芸能実技1	1前	1				○							兼1	
			伝統芸能実技2	1後	1				○				1			兼1	
			伝統芸能実技3	2前	1				○							兼1	
			伝統芸能実技4	2後	1				○							兼1	
			伝統芸能実技5	3後	1				○							兼1	
			伝統芸能実技6	3前	1				○				1			兼1	集中
	伝統芸能実習Ⅰ	2後	1				○							兼1	集中		
	伝統芸能実習Ⅱ	3後	1				○				1			兼1	集中		
小計(16科目)			—	0	20	0	—		3	2	0	1	0	兼20	—		
学科専門科目	資格関連科目	選択	教師論	1後	2				○							兼1	
			教育原理	1前	2				○							兼1	
			教育心理学	2後	2				○							兼1	
			体育科教育実践法	3前	2				○							兼2	
			保健科教育実践法	3後	2				○							兼2	
			体育科教育法	2前	2				○							兼1	
			保健科教育法	2後	2				○							兼1	
			教育課程論	3後	2				○							兼1	
			教育の方法と技術	3前	2				○							兼1	
			道德教育の研究法	2前	2				○							兼1	
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2後	2				○							兼1	
			生徒指導論(進路指導・キャリア教育を含む)	3前	2				○			1				兼1	
			教育相談(カウンセリングを含む)	3後	2				○							兼1	
			教育の制度と経営	3後	2				○							兼1	
	特別支援教育概論	3前	2				○							兼1			
	資格関連科目	自由	事前事後の指導	4前		1			○							兼1	
			教育実習	4前		4			○			1				兼1	集中
教職実践演習(中・高)			4後		2			○							兼1		
小計(17科目)			—	0	30	7	—		1	1	0	0	0	兼15	—		
合計(140科目)			—	52	157	27	—		6	3	0	2	0	兼107	—		
学士又は称号	学士(体育学)		学位又は学科の分野			体育関係											
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
<p><学部共通科目>の【教養科目】から必修科目6単位、選択から8単位以上、【総合科目】必修1から2単位、必修2から7単位、必修3から2単位、必修4から2単位、選択1から2単位以上、選択2から1単位以上、選択3から1単位以上、<学部専門科目(理論)>【基幹科目】から必修科目8単位、選択から6単位以上、【展開科目】選択から4単位以上、<学部専門科目(体育実技)>【展開科目】必修科目から8単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、小計59単位以上修得し、<学科基礎科目>の【基幹科目】から必修科目9単位、【展開科目】選択1から4単位以上、選択2から6単位以上、選択3から2単位以上、選択4から4単位以上、小計25単位以上修得し、<学部専門科目>の【基幹科目(理論)】から必修科目8単位、選択から2単位以上、【基幹科目(実践)】選択から1単位以上、【展開科目(理論)】選択から8単位以上、【展開科目(実践)】選択1から2単位以上、選択2から8単位以上、【資格関連科目】選択から11単位以上、小計40単位以上修得し、合わせて124単位以上修得すること。</p> <p>(履修単位の年間登録の上限:44単位(年間))</p>								1学年の学期区分		2学期							
								1学期の授業時間		15週							
								1時限の授業時間		90分							

教育課程等の概要															
(スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	必修	国語表現Ⅰ	1前	1			○							兼1	
		国語表現Ⅱ	2前	1			○							兼1	
		基礎英語Ⅰ	1前	1			○							兼1	
		基礎英語Ⅱ	1後	1			○							兼1	
		英語コミュニケーションⅠ	2前	1			○							兼1	
		英語コミュニケーションⅡ	2後	1			○							兼2	
	選択1	哲学	1前		2		○							兼1	
		法学(日本国憲法)	1前		2		○							兼1	
		心理学	1前		2		○							兼1	
		芸術(音楽)	1前		2		○							兼1	
		情報処理(情報機器の操作を含む)	1後		2		○							兼1	
	選択2	社会学	2前		2		○				1			兼1	
		歴史学	2後		2		○							兼1	
		経済学	2前		2		○							兼1	
		統計学	2後		2		○							兼1	
		生命科学	2前		2		○							兼1	
	自由	海外語学研修	1後			2			○					兼1 集中	
		応用英語	1通			2		○						兼1	
		ドイツ語	1通			2		○						兼1	
		フランス語	1通			2		○						兼1	
		中国語	1通			2		○						兼1	
		コリア語	1通			2		○						兼1	
小計(22科目)		—	6	20	12	—			0	1	0	0	0	兼17	—
総合教育科目	必修1	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1前	2			○							兼1	
	自由1	体育研究発表実演会	1後		1		○			1				集中	
		スポーツと組織	2後		2		○							兼1	
	選択2	海浜実習	2前		1			○						兼1 集中	
		キャンプ実習	2前		1			○						兼1 集中	
	選択3	スキー実習	3後		1			○		1				集中	
		スケート実習	3後		1			○						兼1 集中	
	必修2	スポーツマネジメント研究A	1前	2			○			1	1			共同	
		スポーツマネジメント研究B	2後	1				○						兼2	
		スポーツマネジメント研究C	3通	2				○		7	6				
スポーツマネジメント研究D		4通	2				○		7	6					
自由2	卒業研究	4通			2		○		7	6					
必修3	キャリアデザインA	2前	2			○							兼2		
自由3	キャリアデザインB	3前			2		○						兼1		
	インターンシップ実習	2後			1			○	1				集中		
小計(15科目)		—	11	4	8	—			7	6	0	0	0	兼10	—

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
学科専門科目	基幹(理論)科目	スポーツ産業論Ⅱ	3後	2			○			1									
		経営学概論	3前	2			○				1								
		財務会計基礎論	2前	2			○										兼1		
		経営戦略論	3後	2			○										兼1		
	小計(4科目)		—	8	0	0	—			1	0	0	0	0		兼2	—		
	基幹(実践)科目	地域スポーツ演習	3前		1			○		1	1						共同		
		地域ボランティア実習(事前・事後指導を含む)	3後		1				○	1	1						集中		
		スポーツビジネス現場演習	2前		1			○		2	1						共同		
		スポーツビジネス現場実習(事前・事後指導を含む)	2後		1				○	2	1						集中・共同		
	小計(4科目)		—	0	4	0	—			3	2	0	0	0			—		
	展開(理論)科目	スポーツイベント計画論	2前		2			○			1								
		スポーツとまちづくり	3後		2			○			1								
		スポーツメディア論	4前		2			○		1									
		サービス・マネジメント	1前		2			○			1								
		経営組織論	4前		2			○									兼1		
スポーツライフマネジメント概論		1後		2			○									兼1			
生涯学習概論		1後		2			○									兼1			
社会調査論		3前		2			○									兼1			
小計(8科目)		—	0	16	0	—			1	2	0	0	0		兼4	—			
学科専門科目	選択1	スポーツデータ解析演習	2前		1			○			1								
		社会調査演習	3後		1			○			1								
		スポーツデザイン演習	4後		1			○			1								
	選択2	レクリエーション実技	2前		1				○									兼1	
		専門運動方法(アーチェリー)	4前		1				○									兼1	
		スタジオエクササイズ	3後		1				○									兼1	
		専門運動方法(ゴルフ)	4後		1				○		1								
	選択3	ゴルフ理論・実習	3前		3			○			1							※実習を含む	
		スキー理論・実習	2後		3			○			1							※実習を含む	
	展開(実践)科目	選択4	スポーツ経営管理学	3前		2			○			1							
			教育原理	1後		2			○										兼1
			教育心理学	2後		2			○										兼1
			体育科教育法	2後		2			○										兼2
			保健科教育法	2後		2			○										兼1
			道德教育の指導法	2前		2			○										兼1
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2後		2			○										兼1
			学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2後		2			○										兼1
			人権教育	3後		2			○										兼1
			学校安全(救急処置を含む)	3後		2			○										兼1
		教育の方法と技術	3前		2			○										兼1	
		教師論	1前		2			○										兼1	
		教育の制度と経営	3前		2			○										兼1	
		特別支援教育概論	3後		2			○										兼1	
		教育課程論	3前		2			○										兼1	
		教育相談(カウンセリングを含む)	3後		2			○										兼1	
		体育科教育実践法	3後		2				○									兼2	
	保健科教育実践法	3後		2				○		1							兼1		
	スポーツ実践指導法・陸上競技	3前		1				○									兼1		
小計(28科目)		—	0	50	0	—			3	4	0	0	0		兼22	—			

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
資格 関連 科目	生徒指導論（進路指導・キャリア教育を含む） 教職実践演習(中・高) 教育実習 事前事後の指導	3後			2	○								兼1	集中	
		4後			2		○		1							
		4前			4			○		1						
		4前			1			○		1						
	小計(4科目)	—	0	0	9	—	—	—	1	0	0	0	0	0	兼1	—
関連 科目	航空基礎 航空概論 航空産業論 クルー・リソース・マネジメント 飛行安全 モータースポーツ概論 モータースポーツ産業論 モータースポーツ演習	1前			2	○								兼1	集中	
		1後			2	○								兼1	集中	
		2前			2	○								兼1	集中	
		2後			2	○								兼1	集中	
		2後			2	○								兼1	集中	
		1後			2	○								兼1	集中	
		2後			2	○								兼1	集中	
		3前			1			○						兼1	集中	
小計(8科目)	—	0	0	15	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼2	—	
合計(134科目)		—	57	131	44	—	—	7	6	0	0	0	0	兼87	—	
学士又は称号	学士(体育学)		学位又は学科の分野			体育関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p><学部共通科目>の【教養科目】必修から6単位、選択1から6単位以上、選択2から4単位以上、【総合教育科目】必修1から2単位、必修2から7単位、必修3から2単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、<学部専門(理論)科目>【基幹科目】から必修科目8単位、選択から6単位以上、【展開科目】選択1から10単位以上、選択2から1単位以上、<学部専門(体育実技)科目>【展開科目】必修1から6単位、必修2から2単位、選択から1単位以上、小計63単位以上修得し、<学科基礎科目>の【基幹科目】必修から8単位、【展開科目】必修から8単位、小計16単位以上修得し、<学科専門科目>の【基幹(理論)科目】から必修科目8単位、【基幹(実践)科目】選択から2単位以上、【展開(理論)科目】選択から12単位以上、【展開(実践)科目】選択1から2単位以上、選択2から2単位以上、選択3から3単位以上、選択4から16単位以上、小計45単位以上修得し、合わせて124単位以上修得すること。 (履修単位の年間登録の上限:44単位(年間))</p>						1学年の学期区分	2 学期									
						1学期の授業時間	1 5 週									
						1時限の授業時間	9 0 分									

教育課程等の概要																
(スポーツマネジメント学部スポーツライフマネジメント学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	必修	国語表現Ⅰ	1前	1			○							兼1		
		国語表現Ⅱ	2前	1			○							兼1		
		基礎英語Ⅰ	1前	1			○							兼1		
		基礎英語Ⅱ	1後	1			○							兼1		
		英語コミュニケーションⅠ	2前	1			○							兼1		
		英語コミュニケーションⅡ	2後	1			○							兼1		
	選択1	哲学	1前		2		○			1				兼1		
		法学(日本国憲法)	1後		2		○							兼1		
		心理学	1後		2		○							兼1		
		芸術(音楽)	1後		2		○							兼1		
		情報処理(情報機器の操作を含む)	1前		2		○							兼1		
	選択2	社会学	2前		2		○							兼1		
		歴史学	2後		2		○							兼1		
		経済学	2前		2		○							兼1		
		統計学	2後		2		○							兼1		
		生命科学	2前		2		○							兼1		
	自由	海外語学研修	1後			2			○					兼1 集中		
		応用英語	1通			2		○						兼1		
		ドイツ語	1通			2		○						兼1		
		フランス語	1通			2		○		1				兼1		
		中国語	1通			2		○						兼1		
		コリア語	1通			2		○						兼1		
小計(22科目)			—	6	20	12	—			2	0	0	0	0	兼16	—
総合教育科目	必修1	日体大の歴史(日体伝統実習を含む)	1前	2			○							兼1		
	自由1	体育研究発表実演会	1後			1		○						兼1 集中		
		スポーツと組織	2後			2		○						兼1		
	選択2	海浜実習	2前		1			○						兼1 集中		
		キャンプ実習	2前		1			○			1			集中		
	選択3	スキー実習	3後		1			○		1				兼1 集中		
		スケート実習	3後		1			○						集中		
	必修2	スポーツマネジメント研究A	1前	2			○							兼2 共同		
		スポーツマネジメント研究B	2後	1				○						兼2		
		スポーツマネジメント研究C	3通	2				○		9	1		2			
スポーツマネジメント研究D		4通	2				○		9	1		2				
自由2	卒業研究	4通			2		○		9	1		2				
必修3	キャリアデザインA	2後	2			○							兼1			
自由3	キャリアデザインB	3前			2		○						兼1			
	インターンシップ実習	2後			1		○						兼1 集中			
小計(15科目)			—	11	4	8	—			9	1	0	2	0	兼10	—

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
学部専門（理論）科目	基幹科目	必修	スポーツマネジメント概論	1前	2			○							兼1	オムニバス	
			スポーツ社会学	3後	2			○			1						兼1
			スポーツ政策学	2前	2			○									兼2
			アンチ・ドーピング	1後	2			○			1						兼2
	選択	ボランティア論	2前	2			○			1						兼1 兼1 兼1	
		情報リテラシー	1前	2			○										
		地域社会とスポーツ	1後	2			○										
		スポーツガバナンス論	4後	2			○										
		スポーツ法学	3前	2			○			1							
	スポーツ経済学	2後	2			○									兼1		
	小計(10科目)			—	8	12	0	—			3	0	0	0	0	兼5	—
	展開科目	選択1	スポーツ哲学	1後	2			○								兼1	共同
			スポーツ史	2後	2			○								兼1	
機能解剖学			1後	2			○								兼1		
スポーツ生理学			2後	2			○								兼1		
発育発達論			1後	2			○								兼1		
トレーニング学			2前	2			○			1							
スポーツ栄養学(食品学を含む)			2前	2			○								兼1		
スポーツ医学			2後	2			○								兼2		
スポーツ心理学			3後	2			○								兼1		
衛生学・公衆衛生学(運動衛生学を含む)		1後	2			○								兼1			
選択2	救急処置実習	2前	1					○	1						兼2		
	トレーニング実践演習	2後	1				○										
小計(12科目)			—	0	22	0	—			2	0	0	0	0	兼11	—	
学部専門（体育実技）科目	必修1	運動方法・体づくり運動(体操)	1前	1				○							兼1	共同	
		運動方法・器械運動	1後	1				○							兼1		
		運動方法・陸上競技	1前	1				○							兼2		
		運動方法・水泳	1前	1				○				1			兼6		
		運動方法・ソフトボール(野球を含む)	1後	1				○							兼2		
		運動方法・ダンス(フォークダンスを含む)	1後	1				○							兼2		
	必修2	運動方法・球技A	1後	1				○		1					兼2	兼1	
		運動方法・球技B	1前	1				○							兼1		
	選択1	運動方法・武道(柔道)	1後	1				○							兼1	兼1 兼1	
		運動方法・武道(剣道)	1後	1				○							兼1		
運動方法・武道(相撲)		1後	1				○							兼1			
小計(11科目)			—	8	3	0	—			1	0	0	1	0	兼18	—	
学科基礎科目	必修	スポーツライフマネジメント概論	1前	2			○			1						兼1	
		野外教育概論	1前	2			○					1					
		レクリエーション概論	2前	2			○			1							
		障害者スポーツ論 I	2前	2			○								兼1		
	小計(4科目)			—	8	0	0	—			1	1	0	1	0	兼1	—
学科基礎科目	必修	野外活動論	1後	2			○			1						兼1 兼1 兼1 兼1	
		スポーツ行政	1前	2			○										
		ファミリーマネジメント論	3後	2			○										
		現代の子どもと社会教育	3後	2			○										
		生涯学習概論 I	1前	2			○										
		レジャーマネジメント論	3前	2			○										
	小計(6科目)			—	12	0	0	—			1	0	0	0	0	兼5	—

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
学科 専門 科目	基幹(理 論)科目	必修	社会教育計画Ⅰ	2前	2			○							兼1		
		スポーツとまちづくり	3後	2			○								兼1		
	小計(2科目)			—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	兼2	—	
	基幹(実 践)科目	選択	地域スポーツ演習	3前		1			○		1					兼1	共同
			地域ボランティア実習(事前・事後指導を含む)	3後		1				○	1					兼1	集中・共同
			障害者スポーツ現場実習	2通		1				○		1				兼1	集中
			レクリエーション現場実習	3通		1				○						兼1	集中
			野外活動現場実習	3通		1				○	2			1		兼2	集中・共同
	小計(5科目)			—	0	5	0	—		3	1	0	1	0	兼4	—	
	展開(理 論)科目	選択	野外活動計画論	3前		2			○		1						
			野外活動と環境	3前		2			○		1						
			野外活動における安全管理	3前		2			○		1						
			社会調査論	3前		2			○							兼1	
			障害概論	1前		2			○							兼1	
			障害者スポーツ論Ⅱ	2後		2			○							兼1	
生涯学習概論Ⅱ			2後		2			○		1							
小計(7科目)			—	0	14	0	—		3	0	0	0	0	兼2	—		
展開(実 践)科目	選択 1	生涯スポーツ演習	2前		1			○							兼1		
		異文化コミュニケーション演習	3後		1			○		1							
		社会調査演習	3後		1			○		1							
	選択 2	障害者スポーツ実技Ⅰ	2後		1				○						兼1		
		障害者スポーツ実技Ⅱ	3後		1				○						兼1		
		レクリエーション実技Ⅰ	2前		1				○		1						
		レクリエーション実技Ⅱ	4後		1				○		1						
		野外活動実技	3前		1				○				1				
		ネイチャーゲーム	3前		1				○				1				
		専門運動方法(アーチェリー)	4前		1				○		1						
		スタジオエクササイズ	3後		1				○						兼1		
		専門運動方法(ゴルフ)	4後		1				○						兼1		
	ローオーガナイズドスポーツ	3前		1				○		1							
	選択 3	マリンスポーツ理論・実習	2前		3				○		1					※実習を含む	
		ウォーターセーフティ理論・実習	3前		3				○		1					※実習を含む	
キャンプ理論・実習		3前		3				○				1			※実習を含む		
ゴルフ理論・実習		3前		3				○						兼1	※実習を含む		
スキー理論・実習		3後		3				○						兼1	※実習を含む		
スケート理論・実習	3後		3				○		1					※実習を含む			

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
学科専門科目	選択4	地域福祉と社会教育	4後	2		○									兼1	
		社会教育計画Ⅱ	3後	2		○									兼1	
		社会教育演習Ⅰ(実習を含む)	3前	2		○			1							
		社会教育演習Ⅱ(実習を含む)	3後	2		○			1							
		予防医学	4前	2		○									兼1	
		健康管理学	4後	2		○									兼1	
	選択5	スポーツ経営管理学	3前	2		○									兼1	
		教育原理	1前	2		○									兼1	
		教育心理学	2後	2		○									兼1	
		体育科教育法	2後	2		○									兼1	
		保健科教育法	2後	2		○									兼1	
		道德教育の指導法	2前	2		○									兼1	
		特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2後	2		○									兼1	
		学校保健(小児保健・精神保健を含む)	2後	2		○									兼1	
		人権教育	3後	2		○									兼1	
		学校安全(救急処置を含む)	3後	2		○									兼1	
		教育の方法と技術	3前	2		○									兼1	
		教師論	1後	2		○									兼1	
		教育の制度と経営	3前	2		○									兼1	
		特別支援教育概論	3後	2		○									兼1	
教育課程論	3前	2		○									兼1			
教育相談(カウンセリングを含む)	3後	2		○									兼1			
体育科教育実践法	3後	2				○							兼1			
保健科教育実践法	3後	2				○							兼1			
スポーツ実践指導法・陸上競技	3前	1					○						兼1			
小計(44科目)		—	0	80	0	—	—	6	1	0	1	0	兼26	—		
資格関連科目	自由	生徒指導論(進路指導・キャリア教育を含む)	3後			2	○							兼1		
		教職実践演習(中・高)	4後			2		○						兼1		
		教育実習	4前			4			○					兼1	集中	
		事前事後の指導	4前			1			○					兼1		
小計(4科目)		—	0	0	9	—	—	0	0	0	0	0	兼2	—		
関連科目	自由	航空基礎	1前			2	○							兼1	集中	
		航空概論	1後			2	○							兼1	集中	
		航空産業論	2前			2	○							兼1	集中	
		クルー・リソース・マネジメント	2後			2	○							兼1	集中	
		飛行安全	2後			2	○							兼1	集中	
小計(5科目)		—	0	0	10	—	—	0	0	0	0	0	兼1	—		
合計(147科目)			—	57	160	39	—	9	1	0	2	0	兼82			
学士又は称号	学士(体育学)		学位又は学科の分野			体育関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<学部共通科目>の【教養科目】必修から6単位、選択1から6単位以上、選択2から4単位以上、【総合教育科目】必修1から2単位、必修2から7単位、必修3から2単位、選択1から1単位以上、選択2から1単位以上、<学部専門(理論)科目>【基幹科目】から必修科目8単位、選択から6単位以上、【展開科目】選択1から10単位以上、選択2から1単位以上、<学部専門(体育実技)科目>【展開科目】必修1から6単位、必修2から2単位、選択から1単位以上、小計63単位以上修得し、<学科基礎科目>の【基幹科目】必修から8単位、【展開科目】必修から12単位、小計20単位以上修得し、<学科専門科目>の【基幹(理論)科目】から必修科目4単位、【基幹(実践)科目】選択から3単位以上、【展開(理論)科目】選択から8単位以上、【展開(実践)科目】選択1から2単位以上、選択2から5単位以上、選択3から6単位以上、選択4から2単位以上、選択5から11単位以上、小計41単位以上修得し、合わせて124単位以上修得すること。 (履修単位の年間登録の上限:44単位(年間))							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業時間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要			
体育学研究科体育学専攻(博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	体育スポーツ科学論A	(目標・概要) この講義の主な目標は、体育スポーツ学における研究の基礎となる知見を、主に人文社会科学系の研究領域を対象として学ぶことである。体育スポーツ科学の目的、内容、存在意義について、人文社会科学の立場から各教員が講義を行う。2名の教員がオムニバスにて行う。 (オムニバス方式/全15回) (12 関根正美/8回) 哲学の観点から体育スポーツ学の目的、内容、存在意義について解説する。 (6 石井隆憲/7回) スポーツ人類学ならびにスポーツ史の観点から体育スポーツ学の目的、内容、存在意義等について解説する。	オムニバス
	体育スポーツ科学論B	(目標・概要) 体育スポーツ科学分野における研究を進めるにあたって、特に自然科学系(生化学、生理学、スポーツバイオメカニクス、健康科学)の分野を中心に研究手法や研究成果などについて概説する。この講義を通じて自然科学系の分野が体育スポーツ科学に果たした役割を知ることや学位論文作成の基礎知識を得ることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (15 西山哲成/5回) スポーツバイオメカニクスの基礎知識、スポーツバイオメカニクスと解剖学、生理学、パフォーマンス、損傷予防の関係について概説する。 (25 中里浩一/5回) 生命科学とくに古典的生化学を中心として体育スポーツ科学においてこの分野が果たしてきた役割を概説する。 (30 岡本孝信/5回) 加齢と身体諸機能の変化、生活習慣病予防と身体活動、サクセスフルエイジング、運動と認知症・介護予防、ヘルスプロモーションについて概説する。	オムニバス
	体育スポーツ科学論C	(目標・概要) 本講義では、体育スポーツ科学の中でも、主として教育学、コーチング学といった実践系の研究分野の課題、領域、内容、研究動向等を概説する。そのため、本講義を通して、体育・スポーツ科学における実践系の研究概要を理解し、それらの内容を説明できるようになることを到達目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (26 野井真吾/8回) 身体教育学・健康教育学の課題、領域、内容、研究動向等を概説する。 (1 阿江通良/7回) 体育スポーツ科学の実践的分野、特にコーチング学や指導法に関する研究分野の理論体系、研究課題などについて例を示しながら解説するとともに、研究課題についてのディスカッションを行う。	オムニバス
	体育スポーツ科学研究法	(目標・概要) 体育スポーツ科学における基本的な研究の考え方について自然科学、人文科学および実践科学それぞれの学問分野から理解を深め、体育スポーツ科学全般の研究法について理解した内容を説明できる能力を身に付ける。 (オムニバス方式/全15回) (30 岡本孝信/5回) 健康スポーツ科学に関する研究法を自然科学の観点から解説する。 (12 関根正美/5回) 主に人文社会科学領域における研究の概要、方法、研究計画の作成、プレゼンテーション方法、論文の執筆等について説明する。 (1 阿江通良/5回) 体育スポーツ科学の実践的分野、特にコーチング学や指導法に関する分野の研究課題のつかみ方、研究計画の立て方、研究法(研究のすすめ方、研究手段)について解説する。	オムニバス
	研究報告演習	(目標・概要) 修士学位論文に関連する研究の進捗状況を発表することによりプレゼンテーションの技術を習得するとともに研究遂行能力および問題解決能力を習得する。また、修士学位論文に関する研究を進めるにあたり、体育スポーツ科学分野の研究とそれに関わる実践的な方法論について理解を深め、説明できる能力を身に付ける。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	体育スポーツ文化・社会科学特論	<p>(目標・概要) 本講義の目標は、体育スポーツという現象を人文科学や社会科学における立場から研究するための視点と方法を学修し、人文・社会科学研究の基礎を築き上げることである。そのためにこの講義では4名の教員がオムニバス方式でスポーツ人類学、スポーツ史、スポーツ哲学、スポーツ社会学の各研究領域を解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 石井隆憲/4回) スポーツ人類学が対象とする体育スポーツ現象に対する研究の視点を具体的な事例を示しながら解説する。 (23 荻浩三/4回) スポーツ史学の学問体系、研究対象・領域、動向等について解説する。 (12 関根正美/4回) 体育スポーツ学における哲学・思想領域のこれまでの研究動向と最近の研究について解説する。 (19 依田充代/3回) 体育スポーツ学におけるスポーツ社会学領域のこれまでの研究動向と最近の研究について解説する。</p>	オムニバス
	体育スポーツ文化・社会科学研究法	<p>(目標・概要) 本講義の目標は、体育やスポーツの活動に見られる様々な現象を対象にして、それを人文・社会科学の方法論を用いて研究していく方法を身につけ、論文を執筆できるようにすることを目的とする。そのためにこの講義では4名の教員がオムニバス方式でスポーツ人類学、スポーツ史、スポーツ哲学、スポーツ社会学の各領域の研究方法を解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 石井隆憲/4回) スポーツ人類学の研究方法について具体的な事例を提示しながら解説する。 (23 荻浩三/4回) スポーツ史学の研究方法(視点、史資料の蒐集・批判、事実の解釈、叙述等)について解説する。 (12 関根正美/3回) 文化・社会科学研究法のうち、論文執筆に必要とされる論理構造について解説する。 (19 依田充代/4回) 文化・社会科学研究法のうち、論文執筆に必要とされる理論方法論について解説する。</p>	オムニバス
	体育スポーツ文化・社会科学演習	<p>(目標・概要) 本演習の目標は、修士論文作成のために必要な基礎的知識をスポーツ人類学、スポーツ史、スポーツ哲学、スポーツ社会学の各専門領域別に理解することである。授業においては4名の教員がオムニバス形式で実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 石井隆憲/4回) 体育スポーツに関連したテーマについてスポーツ人類学の観点からの調査と議論を行い、人類的な思考を養う。 (23 荻浩三/3回) スポーツ史学の近年の動向を研究論文の読解・論議を通じて把握し、体育・スポーツ学の研究水準を識る。 (12 関根正美/4回) 文化・社会科学のうち、体育スポーツの哲学・思想に関連したテーマについて実際に調査と議論を行い、体育スポーツの考え方についての知見を養う。 (19 依田充代/4回) 文化・社会科学のうち、スポーツ社会学に関連したテーマについて、実際に現代スポーツの諸問題を取り上げ調査と議論を行い、その考え方についての知見を養う。</p>	オムニバス
	スポーツマネジメント特論	<p>(目標・概要) スポーツマネジメントの基礎概念や各種のスポーツマネジメントの実践領域の理解を深め、高度なスポーツマネジメント人材として必要なスポーツマネジメントの理論や実践に関する知識を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (10 日比野幹生/3回) サービス材としてスポーツを捉え、スポーツを対象とするマネジメントの特性などを理解する。 (13 齊藤隆志/3回) みるスポーツを巡り、観戦者行動、プロスポーツビジネス、コンテンツ制作といったマネジメントを理解する。みるスポーツ、プロスポーツ、スポーツ番組のマネジメントやプロデュースについて学修する。 (61 齋藤義信/3回) 健康スポーツのマネジメントについて、変遷や役割、多様なレベルでの実践方法を理解する。 (43 横田匡俊/3回) スポーツを活かした地域活性化について、特に地域経済の視点からマネジメントの理論と実践を理解する。 (45 佐野昌行/3回) スポーツマネジメントの役割について検討し、それが発揮される領域と方法などを理解する。</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツマネジメント研究法	<p>(目標・概要) 量的調査及び質的調査についての基本的な知識を習得するとともに、それらをスポーツマネジメント研究に活用することができるようになることを目標とする。前半は、量的調査についての概説を行った上で、様々な調査・分析方法を用いた研究論文を受講者がレビューし、授業担当教員が研究方法について解説する形で進める。後半は、質的調査について、前半と同じ形式で進める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(43 横田匡俊/8回) 量的調査の方法について概説を行い、スポーツマネジメント研究の文献を実例として、様々な調査・分析方法について解説する。</p> <p>(45 佐野昌行/7回) 質的調査の方法について概説を行い、スポーツマネジメント研究の文献を実例として、様々な調査・分析方法について解説する。</p>	オムニバス
	スポーツマネジメント演習	<p>(目標・概要) スポーツに関する最新のテクノロジーやビジネス動向を踏まえた上で、組織や事業の持続的な成長及びイノベーションについて、発想、検証することができるようになることを目標とする。授業では、スポーツマネジメントの複数のテーマについて、ビジネス現場へのインタビュー調査・資料収集等を通じて課題設定を行い、各テーマの現状及び課題についてのグループ発表を行う。また、課題解決のためのマネジメントや将来動向についての全体討議を行い、視野を広げる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(43 横田匡俊/8回) 「スポーツビジネス」関連テーマについて、ディスカッションのファシリテーションや解説を行う。</p> <p>(45 佐野昌行/7回) 「スポーツの価値」関連テーマについて、ディスカッションのファシリテーションや解説を行う。</p>	オムニバス
	トレーニング科学特論A	<p>(目標・概要) 研究活動を進めていく上において重要なトレーニング科学分野の最新の研究動向について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(50 菊池直樹/5回) 主に筋力トレーニングのトレーニング反応に関する解説とディスカッションを行う。</p> <p>(18 黄仁官/5回) アスリートのみならず子どもの発育発達、一般人の健康づくり、高齢者の介護予防の為のトレーニング方法を考える上で、それぞれに必要なとなる体力的要素を解説・議論・プレゼンテーションを行う。</p> <p>(48 高井秀明/5回) 受講生には、実力発揮や競技力の向上を図るために必要な心理的トレーニングの知識と実践的に体験する機会を提供する。</p>	オムニバス
	トレーニング科学特論B	<p>(目標・概要) これまで学んできた関連領域における基礎について再確認し、トレーニング科学研究を実践するために必要な関連領域とのつながりを理解する。教員による講義、受講生による発表、議論を合わせた展開とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 西山哲成/2回) 序論、スポーツバイオメカニクス・基礎知識から研究への展開について①</p> <p>(49 大塚光雄/2回) スポーツバイオメカニクス・基礎知識から研究への展開について②</p> <p>(35 大石健二/3回) 測定評価・基礎知識から研究への展開</p> <p>(37 河野徳良/3回) アスレティックトレーニング・基礎知識から研究への展開</p> <p>(30 岡本孝信/3回) スポーツ生理学・基礎知識から研究への展開</p> <p>(15 西山哲成、49大塚光雄、35 大石健二、37 河野徳良、30 岡本孝信/2回) 受講生発表と総合討論</p>	オムニバス・共同 (一部)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	トレーニング科学研究法	<p>(目標・概要) トレーニング科学の各領域における主要測定データの取得、分析方法(観点)について学ぶ。教員講義、測定の実践および受講生の発表、議論を合わせて展開する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(15 西山哲成、35 大石健二 /1回) 序論「トレーニング科学研究法」 序論「競技力向上と科学サポートの意義・本学の競技力向上サポートシステム(NASS)の紹介」、自転車競技のサポート実践</p> <p>(35 大石健二/1回) 体育測定評価学・運動疫学の立場から解説する。</p> <p>(49 大塚光雄/1回) バイオメカニクスの立場から解説する。</p> <p>(37 河野徳良/1回) アスレティックトレーニングの立場から解説する</p> <p>(18 黄仁官/2回) トレーニング学の立場から解説する。</p> <p>(50 菊池直樹/2回) トレーニング学の立場から解説する。</p> <p>(30 岡本孝信/2回) スポーツ生理学の立場から解説する。</p> <p>(48 高井秀明/2回) スポーツ心理学の立場から解説する。</p> <p>(35 大石健二/1回) まとめ1 体育測定評価学・運動疫学の立場から解説する。</p> <p>(15 西山哲成、35 大石健二、37 河野徳良、18 黄仁官、50 菊池直樹、30 岡本孝信、48 高井秀明/2回) まとめ2 受講生による発表・議論</p>	オムニバス・共同 (一部)
	健康スポーツ医科学特論A	<p>(目標・概要) 学部時に習得した体育及び健康科学に関する理論を基礎として、その内容を一層深める。特に、人の健康管理(増進)に関わる運動・栄養・休養(休息)に関与する様々な要因との関連や影響について明らかにする。それらの事象から、人の健康増進を図るための運動・栄養・休養(休息)の及ぼす効果や改善方法や実践する方法についても検討を加える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 木村直人/4回) 人の健康管理(増進)に関与する運動の影響について、現場の調査(合宿)や実験などの結果から解説・検討する。</p> <p>(24 津山薫/4回) 加齢による形態面と機能面の変化を具体的なデータを用いて解説し、特に子どもや中高齢者の健康づくりを中心に講義する。</p> <p>(4 成田和徳/4回) スポーツ医学における内科的分野の重要な課題について、予防の観点から解説する。</p> <p>(40 三瓶 舞紀子/3回) ライフコースと健康の社会的決定要因; Social determinants of health及び心理社会的介入について検討する。</p>	オムニバス
	健康スポーツ医科学特論B	<p>(目標・概要) 学部で学習した内容を一層深化させるためにそれらの知識を再確認するとともに、生理学、解剖学(形態学)および生化学(細胞・分子生物学)のそれぞれの学問分野の最新の研究に関する理解を深め、それらの内容について論理的に説明できる能力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(30 岡本孝信/5回) 健康スポーツ科学に関する最新の知見を生理学の観点から解説する。</p> <p>(31 小林正利/5回) 健康スポーツ科学に関する最新の知見及び研究法を肉眼・顕微解剖学的観点から解説する。</p> <p>(51 田村優樹/5回) 健康スポーツ科学に関する最新の知見を分子・細胞生物学の観点から解説する。</p>	オムニバス
	健康スポーツ医科学研究法	<p>(目標・概要) 修士学位論文に関する研究を開始するにあたり、健康スポーツ科学研究の様々な方法論について理解を深める。また、研究を進める上において、研究の倫理(倫理審査や論文執筆における剽窃、盗用など)について理解するとともに、先行研究の調べ方や研究計画を作成できる能力を身に付ける。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	身体教育・健康教育学A	<p>(目標・概要) 海外の体育授業に関する動向、日本の学習指導要領における体育の指導、障害のある生徒への指導の留意点等について、具体的な事例を取り上げながら、解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (11 白旗和也/5回) 学習指導要領を基に、日本の体育における目標、内容、及び指導法の工夫について具体例を挙げながら解説する。</p> <p>(3 岡出美則/5回) 体育科のカリキュラム論、学習指導論並びに教師教育の研究動向について解説する。</p> <p>(5 田中信行/5回) 障がい児・者を対象とした保健体育授業の制度、評価の概要や考え方等について紹介する。</p>	オムニバス
	身体教育・健康教育学B	<p>(目標・概要) 本講義では、身体教育・健康教育学の中でも、主として学校保健学、公衆衛生学、健康教育学、養護実践学等をテーマに各分野の目的、内容、実践動向を概説する。そのため、本講義を通して、健康教育学諸分野の概要を理解し、それらの内容を説明できるようになることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (26 野井真吾/4回) 学校保健学の目的と内容、実践動向を概説する。 (8 岡本美和子/4回) 子どもの健康課題と学校における健康教育の実践について指導する。 (46 鹿野晶子/4回) 養護実践学の目的と内容、実践動向を概説する。 (27 鈴木一宏/3回) 公衆衛生学の目的と内容、実践動向を概説する。</p>	オムニバス
	身体教育・健康教育学研究法	<p>(目標・概要) 本講義では、身体教育・健康教育学の中でも、主として学校保健学、公衆衛生学、身体教育学、養護実践学、インクルーシブ体育学等をテーマに各分野の研究課題と研究動向を概説する。そのため、本講義を通して、上記諸分野の研究概要を理解し、それらの内容を説明できるようになることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (26 野井真吾/3回) 学校保健学の研究課題と研究動向等を概説する。 (11 白旗和也/3回) 身体教育学の研究課題と研究動向等を概説する。 (8 岡本美和子/3回) 健康教育学の研究課題と研究動向等を概説する。 (46 鹿野晶子/2回) 養護実践学の研究課題と研究動向等を概説する。 (27 鈴木一宏/2回) 公衆衛生学の研究課題と研究動向等を概説する。 (5 田中信行/2回) インクルーシブ体育学の研究課題と研究動向等を概説する。</p>	オムニバス
	コーチング学特論	<p>(目標・概要) コーチングの理念、体育スポーツ学におけるコーチング学の位置づけ、コーチング学の主要事項(パフォーマンス構造論、トレーニング計画、技術、体力、心理、戦術の各コーチング方法、試合論、トレーニング期分けなど)を解説し、スポーツ科学的手段をコーチングに活用するための主な研究手法について説明する。また、学生の経験を含めたケース・スタディおよび発表を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (1 阿江通良/4回) 体育スポーツ学におけるコーチング学の位置づけ、スポーツパフォーマンスの最適化ループについて解説とディスカッションを行う。また、コーチングにおける科学的情報の収集と活用方法について解説し、ディスカッションを行う。 (29 伊藤雅充/2回) コーチングの理念および哲学、integrityについて解説とディスカッションを行う。・スポーツにおける性差について解説する。・コーチングにおけるコミュニケーションの重要性および夏季に行われるCoach developer Programmeについて説明する。・コーチングにおける科学的情報の収集と活用方法について解説し、ディスカッションを行う。 (14 杉田正明/4回) 発育発達と競技力の発達について解説する。・コーチングにおける科学的情報の収集と活用方法について解説し、ディスカッションを行う。 (38 岩原文彦/3回) コーチングにおける科学的情報の収集と活用方法について解説し、ディスカッションを行う。 (47 佐良土茂樹/2回) コーチ育成プログラムについて解説する。</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コーチング学研究法	<p>(目標・概要) 本授業ではコーチング学領域で用いられる様々な研究手法について学び、自らが実施する研究に適した方法論を見つけ出すと同時に、コーチング現場において問題解決を行っていく多様な思考法を身につけることがねらいである。本授業の修了時に受講生は、論理的思考や批判的思考をもって自らの研究課題を設定し、それに応じた研究計画書が完成していることが期待される。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (1 阿江通良/3回) 体育スポーツ学の体系、研究法について解説し、スポーツ技術のバイオメカニクスの研究法について事例をもとに説明する。</p> <p>(14 杉田正明/4回) 受講生が合理的な研究推進が可能となるように、研究計画立案について教授する。</p> <p>(29 伊藤雅充/3回) コーチング学領域で行われる様々な研究方法について解説し、研究への導入を行う。また具体的な方法論としてはエスノグラフィーおよびアクションリサーチに関する回を担当する。</p> <p>(38 岩原文彦/3回) 実験、アンケート調査、介入実験、インタビューに関する各方法論について教授するとともに、研究計画の作成部分を担当する。</p> <p>(47 佐良土茂樹/2回) エスノグラフィーについて解説する。研究計画について教授する。</p>	オムニバス
	コーチング学演習 I	<p>(目標・概要) コーチングは混沌の中で行う即興であり、専門的知識、対他者の知識、対自己の知識を駆使して、アスリートの目標達成を支援するプロセスである。複雑で動的な文脈を適切に読み取り、その場に適した意思決定をおこなっていくことによって効果的なコーチングを実践することが可能となる。本授業では、受講生がコーチング現場で実際に直面する可能性がある事象を題材とし、コーチとして適切な認知活動を行なっていく力を養うことが目的である。本授業の修了時に受講生は批判的思考や論理的思考法を身につけ、現場での課題発見力ならびに課題解決法を見いだす基礎的能力が養われていることが期待される。本授業は主にケースメソッドによるグループワークと全体討議によって構成する。コーチングの現場で実際に起きている事象を題材(ケース)とし、受講生はそれに関する様々な調査を実施する。その後、小グループで調査内容を討議することで各人がケースに対する理解を深める。その結果をもって全体で討議を実施し、コーチングに関する批判的思考や論理的思考力を高め、意思決定力を高めていく。ケースについては受講生のニーズを考慮し、受講者と担当教員が話し合って決定する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (29 伊藤雅充/10回) ケースメソッドの導入を行い、ケース1およびケース6を担当する。効果的なコーチングおよびコーチの学び、コーチングの哲学・倫理に関するテーマを扱う。</p> <p>(38 岩原文彦/10回) ケース2およびケース5を担当する。スポーツ科学の活用に関するテーマを扱う。</p> <p>(14 杉田正明/5回) ケース3およびケース6を担当する。ハイパフォーマンスのチームマネジメントに関するテーマを扱う。</p> <p>(47 佐良土茂樹/5回) ケース4を担当する。コーチングの哲学・倫理に関するテーマを扱う。</p>	オムニバス
	コーチ育成論 I	<p>(目標・概要) 本授業では、コーチ育成に関する基本的な知識とスキルを獲得することを主なテーマとして設定している。この授業が終わる時、受講生は国内外のコーチ育成の現状と課題を明確に述べることができ、他者の意見を引き出すファシリテーションスキルを身につけていることが期待される。本授業はオムニバス形式で展開する。各回のテーマに関して、担当教員からの知識提供もあるが、主に受講生が自ら主体的に参加するアクティブ・ラーニング形式で運営する。そのため、受講生は毎回の事前課題を実施し、事前知識を持った上で授業に臨むことが求められる。授業内では受講生が交代で授業展開のファシリテーターを経験し、コーチ育成スキル、特にファシリテーションスキルの向上も図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (29 伊藤雅充/6回) 第1回～第5回を担当する。これらの回は、コーチ育成に関する基礎的な知識の獲得が主なテーマである。</p> <p>(38 岩原文彦/5回) 第9～15回を担当する。これらの回は、コーチ育成の具体的な方法論に関する内容について扱う。</p> <p>(47 佐良土茂樹/4回) 第7回～第10回を担当する。これらの回は、コーチ育成に関する諸外国の事例や、さまざまな育成の方法等を紹介し解説する。</p>	オムニバス 共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	スポーツ史特論	(目標・概要) スポーツへの根源的な問いかけ、つまり、人間にとって「スポーツ」とは何か?、人類はスポーツ文化とどう関わってきたのか?それぞれの時代社会にとって、スポーツはどんな存在だったのか?さらには、我々は眼前のスポーツにどう向き合うべきなのか?といった答えを導き出すために、人類とスポーツとの関係性(過去・現在)を詳説する。	
	スポーツ人類学特論	(目標・概要) 本講義では、スポーツ人類学の視角からスポーツ活動に見られる様々な現象を分析し、読み解いていく能力を身につけることを目標とする。また、最新の人類学的な理論をスポーツ場面にいかに応用するのかについても解説する。	
	スポーツ哲学特論	(目標・概要) スポーツとは何か?スポーツとはいかにあるべきか?このような問いに対して、スポーツと人間の生の関係、スポーツと社会の関係という視点から前期課程で必要とされる知見について解説をする。 (オムニバス方式/全15回) (12 関根正美/8回) 達成概念と実存概念を手掛かりに人間の生とスポーツの関係を問い直し、スポーツ倫理やオリンピックの事象などについて批判的な分析を加える。 (41 波多腰克晃/7回) スポーツと共同体形成について理解を深めるために、公共性の哲学、社会哲学の視点からスポーツと社会との関係について分析する。	オムニバス
	スポーツ社会学特論	(目標・概要) スポーツ社会学における既存の研究蓄積に学びながら、その理論的背景と方法論を理解・修得し、スポーツと現代社会との関係を適切に分析・解釈することができるようにする。また、変動する社会におけるスポーツの意義と役割についての的確に判断し、理論的に説明できるようにする。	
	スポーツ史特論演習	(目標・概要) スポーツ史学の領域における研究論文(修士論文)執筆にあたり求められる視点(問題意識)、方法(史料の蒐集・批判、事実の解釈・叙述)を修得する。	
	スポーツ人類学特論演習	(目標・概要) 本演習では、スポーツ人類学の視点と方法を用いて修士論文を作成していくための知見を深めていくことを目標とする。	
	スポーツ哲学特論演習	(目標・概要) スポーツ哲学の領域で修士論文執筆の研究を進めるにあたって必要とされる知見、方法、技術への理解を深めることを目標とする。スポーツ哲学領域で公表されている研究書ならびに論文を対象に、前期課程での研究を進める上で必要とされる文献の読解、レポートの執筆、議論などを実際に行い、研究方法の習得を行う。 (オムニバス方式/全15回) (12 関根正美/8回) スポーツ哲学領域の文献について概略を説明し、読解並びにレポート作成、議論を通して研究活動の演習を行う。 (41 波多腰克晃/7回) 各自がレポートを作成し発表・議論ができるように関連する論文を紹介し、各々の論文テーマにつながる知見への理解を深める。	オムニバス
	スポーツ社会学特論演習	(目標・概要) スポーツ社会学の領域で修士論文執筆の研究を進めるにあたって必要とされる知見、方法、技術への理解を深めることを目標とする。	
	武道学特論	(目標・概要) 武道本来の意味を理解し、武芸・武術が如何なる経過を経て「道」の思想に転化したのかを理解し、その内容について説明できるようにする。授業の進め方はゼミの手法によって行い、「五輪書」・「兵法家伝書」・「風姿花伝」など武道に関する書籍(武道伝書)を読み解き、現代武道への活用について考える時間にしていく。	
トップスポーツマネジメント特論	(目標・概要) トップスポーツマネジメントの全体像及び基礎的知識を習得することにより、国レベル及び競技団体レベルのトップスポーツマネジメントについて、主体的に評価・分析できるようになる。前半は、トップスポーツに関する国の政策・制度動向を概観した上で、国レベルのマネジメントに関する具体的な取組について学修する。後半は、競技団体の事業計画の基本的な要素についての学修を通じて、競技団体の組織マネジメントについての理解を深める。	共同	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツクラブマネジメント特論	<p>(目標・概要) 本講義では、まず今日のスポーツクラブをとりまく社会状況について認識したうえで、トップレベルから地域レベルまでの各段階におけるスポーツクラブマネジメントについて俯瞰し、その全体像を理解する。その後、主に文献のレビューによって各領域におけるスポーツクラブマネジメントの課題や在り方について考察し、今日求められているスポーツクラブのあり方について討論しながら検討していく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 齊藤隆志/8回) スポーツクラブを取り巻く社会的状況、プロスポーツクラブ、フィットネスクラブに関するマネジメントをとりあげ、その理論的背景や課題を考察するとともに討論を通してそのマネジメントのあり方についての理解を深める。</p> <p>(44 佐野昌行/7回) 総合型地域スポーツクラブ、高校・大学を中心とする学校スポーツクラブ、テニス・ゴルフ・水泳等のスクール型スポーツクラブを対象として、その歴史や概要について調査するとともに、課題と展望について議論して検討する。</p>	オムニバス
	健康スポーツマネジメント特論	<p>(目標・概要) ①健康スポーツのマネジメントについて、基礎概念、理論・モデル、効果について理解を深め、説明できること、②公衆衛生の観点から、効果的な健康スポーツの普及戦略やマネジメントに関する知識を習得し、実践的応用について考察できることを目標とする。本授業は、公衆衛生の観点から、人々が効果的な健康スポーツや身体活動を実践することができるような普及戦略やマネジメントについてまとめた「Foundations of Physical Activity and Public Health 2nd Edition」を題材とする。適宜、各種文献で補いながら、毎回の授業で各章のレジュメを作成・発表する。さらに各章のポイントについて議論し、実践活動に応用可能な知識や能力を高める。</p>	
	トップスポーツマネジメント特論演習	<p>(目標・概要) トップスポーツの主要な担い手である競技団体を対象として、現状及び課題の分析を踏まえて中長期を見通す力を養い、競技団体の事業計画を立案できるようになることを目標とする。授業では、競技団体へのインタビュー調査等を通じて、現状及び課題分析を行い、分析結果に基づいて特定の競技団体の事業計画を立案する。</p>	共同
	スポーツクラブマネジメント特論演習	<p>(目標・概要) 本演習では、さまざまな領域のスポーツクラブに関するホームページや研究論文等を参照したり、受講生が関わるスポーツクラブについて調査することで今日のスポーツクラブマネジメントの実状と課題、さらには先進事例におけるマネジメントの実態について調査する。その後、スポーツクラブにおける経営理念や事業計画の策定、組織化、施設の確保と維持管理、法人化、会員募集、収入の確保等の方法について学び、スポーツクラブマネジメントプランの作成を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 齊藤隆志/8回) スポーツクラブマネジメントの現場を調査しながら、クラブマネジメントについての実践的な研究開発手法を学ぶ。</p> <p>(44 佐野昌行/7回) スポーツクラブマネジメントプランの作成を通じ、クラブマネジメントについて実践的に理解を深める。</p>	オムニバス
	健康スポーツマネジメント特論演習	<p>(目標・概要) ①健康スポーツの普及戦略やマネジメントに関する取り組みの実際について理解を深め、実践的応用について考察できること、②健康スポーツの普及戦略やマネジメントについて、各種理論やモデルを活用し、実践活動を構築できることを目標とする。本授業では、前半に健康スポーツや身体活動の普及戦略やマネジメントに関する実際の取り組みについて、講義および実践活動の見学を行う。そして後半に、各セッティングやレベルにおける健康スポーツマネジメントの課題を抽出し、情報を適切に活用しながら、課題解決に向けた施策やプログラムを作成・提案する演習を実施し、実践的知識と能力を習得することを目指す。</p>	
	スポーツ政策学特論	<p>(目標・概要) スポーツ政策の課題解決を志向して様々な科学的知見を総合化する社会科学であるスポーツ政策学とはどのようなものかを理解し、スポーツ政策研究及びスポーツ政策実務に必要な知識を習得する。具体的には、スポーツ政策学の基礎やスポーツ政策研究の理論と方法等を解説するとともに、最新の個別スポーツ政策の政策分析から政策立案についての理解を深める。</p>	
	スポーツマーケティング特論	<p>(目標・概要) スポーツ組織のマーケティングやスポーツを利用したマーケティングについて実践的に考える。前半はスポーツマーケティング理論について基礎を中心に説明する。後半はスポーツメーカー、フィットネスクラブ、プロチーム、アスリートブランディング、スポンサーシップ、オリンピックパートナーシップ、ネーミングライツ、スポーツCMなどといった現代的なトピックを取り上げ、文献講読、発表、討論を通して理解を深める。</p>	
	経営戦略特論	<p>(目標・概要) 経営戦略の要素及び立案手順について基本的な知識を獲得するとともに、簡易な経営戦略を立案することができるようになることを目標とする。授業では、様々な業界・企業の事例を通じて、経営戦略の基本的な要素と立案手順について学修する。さらに、ケーススタディとして、特定企業を対象とした現状分析を行い、簡易な経営戦略を立案する。</p>	
	トレーニング学特論	<p>(目標・概要) 運動トレーニングに対する身体適応について基本的知識とトレーニング科学の最新の成果について理解し、議論することで新たな問題を見つけることを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ生理学特論	(目標・概要) 学部で学んだスポーツ生理学の内容を一層深化させるとともに、最新の運動・スポーツ生理学分野のトピックスに関する動向を理解し、基礎科学から応用科学における知識を養う。また、スポーツ生理学分野の学術論文を精読することによってさらに知識を高める。また、補助的に実験実習を行い、そのデータの解釈について理解を深めるとともに、スポーツ現場への応用の可能性についても解説する。	
	アスレティックトレーニング学特論	(目標・概要) アスレティックトレーナー又は指導者の立場からアスレティックトレーニングを学修する。具体的には競技力向上、傷害予防、そして疲労回復を目的としたトレーニング処方を理解し実践できる能力を身につけることが目標である。	
	スポーツ栄養学特論	(目標・概要) 学部で履修したスポーツ栄養学の基礎的知識をより深く習熟する。競技者の日常並びに試合時のコンディショニングのための栄養学の理論と食事・栄養補給方法の理解を深め、スポーツ現場において様々な状況に合わせた適切な栄養補給の提案や栄養指導ができる能力を養う。スポーツ栄養学の理論及び実践例を講義形式で学び、受講者による研究論文等の発表、ケーススタディなど議論を合わせた展開とする。	
	スポーツバイオメカニクス特論	(目標・概要) 人の動きづくりのメカニズムに関するスポーツバイオメカニクスの主要キーワード(形態学、運動学、運動力学、神経筋調節)について理解を深め、関連する理論やパラメーターを用いて技術・体力トレーニングへの導入について考察することができる。教員による講義、受講生による論文要旨の発表、議論を合わせた展開とする。 (オムニバス方式/全15回) (15 西山哲成/7回) トレーニングやスポーツパフォーマンスを対象とした形態学、運動学、運動力学、神経筋調節について解説する。 (49 大塚光雄/6回) トレーニングやスポーツパフォーマンスを対象とした測定と解析について解説する。 (59 渡邊 航平/2回) 神経筋調節のパラメータに関する基礎、成書・研究論文を教材として展開する。	オムニバス
	スポーツ心理学特論	(目標・概要) 本授業では、スポーツに関する心理学的な諸問題について研究する学問領域であるスポーツ心理学がテーマである。この授業では、スポーツ心理学の理論とその実践的な利用法について学び、その方法を日常生活で活用できるようになることが到達目標である。授業のテーマ及び到達目標を考慮し、スポーツの実践場面が必要とされる自己コントロール能力や他者とのコミュニケーションの方法について解説し、理論的根拠に則した実践的な利用方法について学ぶ機会を提供する。	
	競技力向上サポート特論	(目標・概要) 現代では競技力向上のためには、科学的エビデンスに基づいたサポートが不可欠である。本講では競技力向上サポートに関わる種々の科学領域、および各種競技の科学的サポート実践を紹介する。受講者が各自の興味ある競技サポート課題をみつけ、これを具体的に実施できるようになることが本講義の目標である。 (オムニバス方式/全15回) (15 西山哲成/2回) 序論「競技力向上と科学サポートの意義・本学の競技力向上サポートシステム(NASS)の紹介」、自転車競技のサポート実践 (49 大塚光雄/1回) バイオメカニクスのサポートについて (35 大石健二/1回) スポーツデータアナリティクス(統計学を用いた分析について) (30 岡本孝信/1回) 生理学的サポートについて (46 高井秀明/1回) メンタルトレーニングの歴史と実態、およびメンタルトレーニングの実践 (18 黄仁官/1回) 競技力向上におけるマルチサポート、トータルコーディネーションの試行・必要性について (47 菊池直樹/1回) ウェイトリフティング競技の戦術戦略サポート (54 岡田隆/1回) 柔道のトレーニングサポート実践 (49 平沼憲治/1回) 競技力向上のための医学的サポート (4 成田和徳/1回) 競技力向上のための内科学的サポート (37 河野徳良/1回) アスレティックトレーナーによるサポート実践 (14 杉田正明/1回) コンディショニングサポートについて (15 西山 哲成、49 大塚光雄、35 大石健二、30 岡本孝信、18 黄仁官、46 高井秀明、47 菊池直樹、37 河野徳良/2回) 受講生による発表・議論	オムニバス・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動衛生学特論	(目標・概要) 人の健康管理(増進)に関わる様々な要因の中で、特に運動との関わりに関して考察や検討する。また、自然科学の領域であることから、医療に関わる統計学や疫学に関する基礎知識を学修し、後の論文(修士)、特に図表の作成や検定方法などについて理解を深める。	
	スポーツ医学特論	(目標・概要) スポーツに関係する内科的及び外科的な急性・慢性疾患について、最新の知見を含めて解説する。 (オムニバス方式/全15回) (4 成田 和穂/8回) 運動中の突然死の主な原因である虚血性心疾患及び心不全の病態・診断・治療(特に運動療法)について解説する。 (49 平沼 憲治/7回) 運動によって生じる外傷・障害について概説し、病態・診断・治療を理解して、リハビリテーションや競技復帰について説明できる。	オムニバス
	運動生理学特論	(目標・概要) 学部で学習した内容を一層深化させるためにそれらの知識を再確認するとともに、運動生理学のそれぞれの専門分野(エネルギー、筋・神経、呼吸、循環など)の最新の研究に関する理解を深め、それらの内容について論理的に説明できる能力を身に付ける。 (オムニバス方式/全15回) (30 岡本孝信/5回) 運動生理学に関する最新の知見を栄養素およびエネルギーの観点から解説する。 (25 中里浩一/5回) 特に運動生理学における生命科学、分子生物学分野での研究成果について概説する。 (33 須永美歌子/5回) 運動生理学に関する最新の知見を呼吸機能および循環機能の観点から解説する。	オムニバス
	発育発達特論	(目標・概要) 幼児期から青年期における形態面と機能面の加齢変化を中心に講義する。具体的な内容は、1) 子どもの肥満の現状と予防、2) 骨の発育と運動、3) 筋の発達と運動器健診の現状、4) 神経系の発達と運動、5) 視覚の発達とメディア利用との関係、6) 運動能力の発達(子どもの体力の現状、環境要因と体力との関係など)であり、基礎的事項から最新の内容までを講義で紹介する。さらに、受講生は講義を聴講するだけでなく、講義内容に関連した「論文」についてディスカッションを行う。本授業では発育発達論の「基礎的事項の獲得」と同時に「議論する力」を養うことも目標の1つとする。	
	機能解剖学特論	(目標・概要) 体育科学関連の研究を行うにあたって身体の構造と機能について理解しておくことが不可欠である。この講義では、総論・各論にわけて機能解剖学的見知からヒトの身体の肉眼解剖学的構築、顕微解剖学的構築について学部で得た知識をもとに理解し、国際誌を読み込みプレゼンテーションする能力を会得することを到達目標とする。 また、研究を遂行するにあたって実験動物を用いることもあることからヒトと動物との身体各部の構築の相違についての比較解剖学的知見についても解説していく。	
	分子運動生理学特論	(目標・概要) 学部で学んだスポーツ生理学の分子的基盤をなす分子運動生理学の知識や手法、データの解釈などを学ぶ。前半は分子運動生理学分野における基礎知識を学ぶ。後半は分野ごとに代表的な分子運動生理学分野の学術論文を精読することによってさらに知識を深めるとともに最先端の分子運動生理学の実験手法やその成果を学ぶ。得られた知識を健康スポーツ医科学分野での論文執筆の一助とする。 (オムニバス方式全15回) (25 中里浩一/8回) 指定教科書(分子運動生理学入門)をもとに当該分野を概説することで、体育スポーツ分野における運動分子生物学の成果を学ぶ。 (48 田村優樹/7回) 分子運動生理学における代表的な原著論文を精読することで分子運動生理学における最先端の成果を学ぶ。	オムニバス
	スポーツ損傷特論	(目標・概要) 講義形式(状況によりオンライン形式)で行う授業である。スポーツによる代表的な身体損傷についての各論を解説する。損傷部の機能解剖から始まり、損傷の受傷機転、病態、治療の考え方、アスレティック・リハビリテーション、損傷予防法を内容に盛りこむ。各テーマにおけるホットな話題の論文を読んで、内容についてプレゼンテーションを行い、各テーマに沿ってディスカッションを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	身体教育学特論	(目標・概要) スポーツと体育の関係性から体育科教育の価値を理解すると共に、学習指導の課題を明らかにし、指導の工夫について探求することができるようにする。前半は、スポーツと体育の関係性の変化から、体育科における指導の課題について検討し、課題の解決に向けた指導の工夫について演習を行う。後半は、日本の学習指導要領と学習指導について、課題を整理し、その解決に向けた工夫について演習を行う。	
	健康教育学特論	(目標・概要) 健康教育の目的、制度、内容、動向を概説する。また、学校現場における健康教育の実践について学ぶことで、実践のための理論とその背景・技術に関する基本を習得することを到達目標とする。	
	学校保健学特論	(目標・概要) 学校保健学特論では、各受講者の興味に即して、学校保健学分野における最新の研究動向を概説する。そのため、本講義を通して、学校保健学分野の研究動向を理解し、それらの内容を説明できるようになることを到達目標とする。	
	公衆衛生学特論	(目標・概要) 学校における保健授業は、現代における人々の日常生活に係わる基本的な健康について取り扱われており、まさしく公衆衛生学の領域である。そのため、本講義では保健領域における公衆衛生学をテーマとし、それらについて理解した内容を説明できるようになることを到達目標とする。この集団での健康を考える学問が公衆衛生学である。そこで、本講義では学校における保健授業の内容を全15回に分類し、それぞれの領域について知識を深める。	
	養護教諭特論	(目標・概要) 養護教諭特論では、子どもの現代的健康課題や学校・家庭・社会の実情を踏まえて、養護教諭の職務と役割を理解する。併せて、それらのニーズに合致した養護教諭実践および関連研究を遂行するための能力を養うことを目標とする。	
	インクルーシブ体育特論	(目標・概要) 障がいのある人に関わるUNやWHO等の国際的情勢及び国内情勢を認識したうえで、障がいのある人の体育・スポーツの取り組みを俯瞰し、その課題やあり方について考察することを目標とする。さらにその上で、インクルーシブ体育・スポーツに関わる事例をシミュレーション分析する。	
	教育心理学特論	(目標・概要) 「教育現場で実践される心理学」をテーマとし、俯瞰的視点から教育心理学の研究動向を理解し、それを実践に応用することを到達目標とする。発達、学習、認知、社会、パーソナリティ、教育評価、特別支援、学校臨床、統計、研究法の各領域について、最新の研究論文を用いて、教員による講義と受講生による発表を組み合わせて授業を展開する。それによって、実証科学としての教育心理学の研究成果とその問題点を整理し、教育活動における応用可能性について考察する。	
	教育制度学特論	(目標・概要) 教育制度の意義・原理・理念を学習したうえで、教育制度を規定する教育法規とこれを具現化した制度の仕組みを理解する。加えて、教育制度にかかわる諸課題とその解決法について、教育制度学（教育法学・行政学・経営学）の知見を応用し議論、説明できるようになる。理論に関しては講義形式で、現代的課題及び解決法については、具体的事例を取り上げながら毎回議論の場を設け、最終的にレポートとしてまとめる。	
	授業づくり特論A	(目標・概要) 学部で学んだ体づくり運動の基本的な知識を再確認した上で、小学校、中学校、高等学校の体づくり運動の授業に必要な運動教材を考案したり、指導環境に応じた指導法を学ぶ。また、今の学校体育現場における体づくり運動の授業展開に関する問題点を理解し、各自の考えで作成した授業単元計画を作成する。履修者同士のディスカッションを通して、実践的な授業づくり理論について学習する。	
	授業づくり特論B	(目標・概要) ダンスの特徴・特性をいかにしながら、ダンスの授業づくりについて研究されてきた内容や方法を理解・修得し教材研究を行う。	
	授業づくり特論C	(目標・概要) 野外活動は、日常生活の場から離れた大自然の中で環境に配慮した組織的な集団活動などを通して、自然の障害や困難に対して相互に協力して対処しながら、冒険的な活動をしたり、競技を行ったりする特性がある。目標は野外活動の各領域を通じて、それぞれの形態に応じ、野外で楽しむことのできる理論とその指導法について修得することである。概要は講義を基本とし、事例研究、先行研究論文等に関する発表を持って進める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	授業づくり特論D	(目標・概要) レクリエーションに関する言葉の概念や使い方を歴史的背景から学び、レクリエーション理念・本質を理解したうえで、社会的ひずみや現況の課題から、これからのレクリエーションのあり方について考察する。また、自己実現へ向けた健康でより豊かな暮らしを創造するための意義や方法、教育現場等での効果的な支援の方法について、実践できる知識とスキルを学習する。授業は課題に対するディスカッションと講義によって進める。	
	プラクティカムⅠ	(目標・概要) 小・中・高等学校等における保健体育授業実習に必要な能力を養う。具体的には、単元計画、授業計画の立案、授業実践における指導に必要な基礎的能力を身に付ける。	共同
	プラクティカムⅠ(養護)	(目標・概要) 小・中・高等学校等における保健室経営に必要な能力を養う。具体的には、保健調査、健康観察、健康診断、救急処置、疾病管理、健康相談活動、学校保健安全計画などの作成等、保健室経営全般に必要な基礎的能力を身に付ける。	共同
	プラクティカムⅡ	(目標・概要) 小・中・高等学校等において保健体育授業実習を行う。単元計画、授業計画を立案し、大学および実習校の教員の指導の下に反省的に授業実践を行い、保健体育分野における実践課題を把握し、その解決に向けた実践力を養う。	共同
	プラクティカムⅡ(養護)	(目標・概要) 小・中・高等学校等における保健室経営(保健調査、健康観察、健康診断、救急処置、疾病管理、健康相談活動、学校保健安全計画などの作成等)を行い、子どもの現代的健康課題を把握し、その解決に向けた実践力を養う。	共同
	プラクティカムⅢ	(目標・概要) 小・中・高等学校等において保健体育授業実習を行う。単元計画、授業計画を立案し、大学および実習校の教員の指導の下に反省的に授業実践を行い、保健体育分野における実践課題を把握し、その解決に向けた実践力を養う。	共同
	プラクティカムⅢ(養護)	(目標・概要) 小・中・高等学校等における保健室経営(保健調査、健康観察、健康診断、救急処置、疾病管理、健康相談活動、学校保健安全計画などの作成等)を行い、子どもの現代的健康課題を把握し、その解決に向けた実践力を養う。	共同
	プラクティカムⅣ	(目標・概要) 小・中・高等学校等において保健体育授業実習を行う。単元計画、授業計画を立案し、大学および実習校の教員の指導の下に反省的に授業実践を行い、保健体育分野における実践課題を把握し、その解決に向けた実践力を養う。	共同
	プラクティカムⅣ(養護)	(目標・概要) 小・中・高等学校等における保健室経営(保健調査、健康観察、健康診断、救急処置、疾病管理、健康相談活動、学校保健安全計画などの作成等)を行い、子どもの現代的健康課題を把握し、その解決に向けた実践力を養う。	共同
	スポーツの危機管理Ⅰ(アンチドーピングを含む)	(目標・概要) スポーツにおける危機管理・アンチドーピングに関する正しい知識を説明できるようにする。 (オムニバス方式/全15回) (34 南部さおり/8回) スポーツの危機管理の射程は広範にわたり、分野横断的なアプローチが求められるため、様々な学問分野を応用し、問題状況に応じた解決能力が求められている。そうした危機対応能力を涵養するために、文献や判例等によってスポーツ事故事例の実際を学ぶ。また、実際の事故当事者・家族等の話を傾聴する機会を持つ。 (10 日比野 幹生/7回) ドーピング事例や先行研究のレビューを行うとともに、エリートスポーツとドーピングの関係、アンチ・ドーピングシステム、アンチ・ドーピングプログラムなどの知識を習得し、各自がコーチングの立場からドーピングの未然防止に向けた提言をまとめる。	オムニバス
	コーチングのエスノグラフィー	(目標・概要) 本授業では、コーチング研究に応用されるようになってきた質的研究を用いたエスノグラフィーの研究手法を基礎から学ぶと共に、それを実際にコーチング研究に生かしていく方法を身につけることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (6 石井隆憲/5回) 質的研究を用いたエスノグラフィーの作成の方法を基礎から学修する。 (29 伊藤雅充/5回) コーチングの動的性と複雑性、コーチン学におけるエスノグラフィーの実際、オートエスノグラフィーの実際、アクションリサーチの実際について概説する。 (47 佐良士茂樹/5回) エスノグラフィーと文献研究およびその事例(コーチング哲学の読解と分析)や質的研究をおこなうための基礎知識、データ収集の方法、分析方法、評価とその観点を学修する。	オムニバス

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コーチングのバイオメカニクス	<p>(目標・概要) スポーツの技術やトレーニングを考えるための基礎となるバイオメカニクスの諸原則、動作の改善ループの考え方とその応用法、バイオメカニクスデータの解釈などについて学び、これらの知識を動作の改善に活用するための基礎的能力を身につける。 授業の前半では、スポーツ技術をバイオメカニクスのように考える場合の基礎になる諸原則、バイオメカニクスの分析法などについて説明する。授業の後半では、動作の改善ループおよび動作の評価・診断の基準の1つとなる動作モデル(標準動作モデル)、バイオメカニクスのデータのフィードバックなどについて説明するとともに、受講者の発表などを題材にバイオメカニクスの知識を動作の改善にどのように活かすかをディスカッションする。</p>	
	スポーツ戦術論	<p>(目標・概要) は競技力向上を効果的に実現させていくための戦略・戦術論について学ぶことがねらいである。本授業の修了時に受講生は、自らがコーチングするチームのミッションとビジョンが明確になり、それらに基づいた戦略と戦術に関するアクションプランが作成できていることが期待される。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (55 内山治樹/7回) 戦術の概念規定と戦術論の系譜、戦術の役割と機能、戦術行為の分類と特性、戦術行為の分析、戦術アプローチについて概説する。</p> <p>(39 根本研/4回) バレーボールチームを例として、ビジョンとミッションの事例討議、アクションプランの作成、コーチングの哲学、コーチングプランニングについて概説する。</p> <p>(20 大本洋嗣/4回) 水球男子日本代表チームの取り組みを例として、ビジョンとミッションの事例討議、アクションプランの作成、コーチングの哲学、コーチングプランニングについて概説する。</p>	オムニバス 集中
	個人型スポーツコーチング論	<p>(目標・概要) 個人型スポーツのコーチングにおいて核心となる競技特性(技術、体力・心理)、トレーニング計画および方法などを陸上競技、体操競技、冬季スポーツを例にして解説し、効果的なコーチング方法を実践できる基礎的知識を学ぶ。また、競技や選手に関する情報の収集と活用について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (1 阿江通良/3回) 体育スポーツ学と個人型スポーツコーチングの関係、競技や選手に関する情報の収集と活用について解説し、ディスカッションを行う。</p> <p>(2 具志堅幸司、32 畠田好章/4回) 体操競技の競技特性とコーチングおよびトレーニングの関係について解説し、ディスカッションを行う。</p> <p>(40 小林史明/4回) 陸上競技の競技特性とコーチングおよびトレーニングの関係について解説し、ディスカッションを行う。</p> <p>(22 青柳徹/4回) 冬季スポーツ、特にスピードスケート競技の特性とコーチングおよびトレーニングの関係について解説し、ディスカッションを行う。</p>	オムニバス・共同 (一部) 集中
	対人型スポーツコーチング論	<p>(目標・概要) 対人型スポーツの諸要素(身体的、精神的、技術的、戦略・戦術的)を理論的に分析し、その理論と実践を結び付けながら指導対象が有する潜在能力を最大限に引き出すこと、また対象が抱える問題点を明確にし、実際のコーチングの場面で問題解決を図る能力を身につけることを目指し、以下の目標に到達できることを狙い講義を行う。1. 対人型スポーツを、自然科学、社会科学、人文科学など多角的な視点から学び、スポーツの特性を理解する。2. 具体的なコーチング手法を立案する能力を身につける。3. 対人型スポーツにおける最適なコーチングについて理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (21 齋藤一雄/8回) 対人型スポーツについて先行研究調査、コーチングの観察・記録、食生活及び栄養面から学ぶコーチング、理想のコーチング観の構築について、概説する。</p> <p>(7 山本 洋祐/7回) 柔道歴史、創始者の思想、稽古方法、柔道のトレーニング方法、柔道のメンタルトレーニング方法を解説し、効果的なコーチング方法を実践できる基礎的知識を学ぶ。また、競技や選手に関する情報の収集と活用について学ぶ。</p>	オムニバス 集中

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	チーム型スポーツコーチング論	<p>(目標・概要) チームスポーツのコーチングにおいて、個人の能力を向上させるだけでは効果的な競技力向上にはつながらない。チームを構成する複数の個人をチームとして機能させることはチームスポーツを指導するコーチにとって必須の能力である。本授業はチームを機能させるために必要なスキルを身につけることを目的として展開する。本授業の修了時に受講生は、自らがコーチングするチームのチームワークを改善するためのアクションプランが明確にできるようにする</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (55 内山治樹/7回) 問題の所在とコーチングの必要性、コーチングの意味と意義、コーチングのメカニズム、チームパフォーマンスの構成要件、チームパフォーマンスの分類と特性について概説する。</p> <p>(39 根本研/4回) バレーボール競技を例として、チーム型スポーツ特有のコーチング方法について概説し、アクションプランについて討議する。</p> <p>(20 大本洋嗣/4回) 水球男子日本代表チームを例としてを例として、チーム型スポーツ特有のコーチング方法について概説し、アクションプランについて討議する。</p>	オムニバス 集中
	競技者体力学特論	<p>(目標・概要) 競技者における体力の概念を多角的に検討し、パフォーマンスと体力の関係を理解するとともに、競技現場などで実際の体力トレーニングやその評価法を対象に合わせて適切に活用することができる実践力の習得を目標とする。国内外の文献やスポーツ現場での経験を通して、様々な競技特性などからみた体力の捉え方および効果的な体力トレーニング法について考察し、議論し、理解を深める。体力・運動能力における実際の測定方法やその種類と評価方法についても考究する。</p>	
	コーチング学演習Ⅱ	<p>(目標・概要) コーチングは混沌の中で行う即興であり、専門的知識、対他者の知識、対自己の知識を駆使して、アスリートの目標達成を支援するプロセスである。複雑で動的な文脈を適切に読み取り、その場に適した意思決定をおこなっていくことによって効果的なコーチングを実践することが可能となる。本授業では、コーチング学演習Ⅰで身につけたコーチング現場での意思決定能力をさらに発展させていくことが目的となる。本授業の修了時に受講生は批判的思考や論理的思考法を身につけ、現場での課題発見力ならびに課題解決法を見いだす発展的能力が養われていることが期待される。本授業は主にケースメソッドによるグループワークと全体討議によって構成する。コーチングの現場で実際に起きている事象を題材(ケース)とし、受講生はそれに関する様々な調査を実施する。その後、小グループで調査内容を討議することで各人がケースに対する理解を深める。その結果をもって全体で討議を実施し、コーチングに関する批判的思考や論理的思考力を高め、意思決定力を高めていく。ケースについては受講生のニーズを考慮し、受講者と担当教員が話し合って決定する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (29 伊藤雅充/5回) ケース3を担当する。効果的なコーチングおよびコーチの学び、コーチングの哲学・倫理に関するテーマを扱う。</p> <p>(14 杉田正明/10回) ケース2およびケース5を担当する。ハイパフォーマンスのチームマネジメントに関するテーマを扱う。</p> <p>(38 岩原文彦/10回) ケースメソッドの導入とケース1およびケース4を担当する。スポーツ科学の活用に関するテーマを扱う。</p> <p>(47 佐良土茂樹/5回) ケース1及びケース6を担当する。コーチングの哲学・倫理に関するテーマを扱う。</p>	オムニバス
	コーチング実践演習Ⅰ(ブラクティカム)	<p>(目標・概要) 学術的な理論背景をもとに、自らのコーチングスキル改善目標を設定し、改善計画を立案・実践する。コーチング実践で起こったことを批判的に省察し、受講生自身がコーチとしての自己主導学習を進めていけるような基礎的能力を身につけることが一つの到達目標である。また、そのプロセスを通して、それぞれが目標設定したコーチングスキルを身につけることも到達目標とする。 本授業ではアクションリサーチ手法を用いた自己主導型プロジェクト学習法を採用する。履修者それぞれに、担当教員3名のうち、主たる教員1名が割り当てられる。まず、学術的な理論背景をもとに、自らのコーチングを教員および他の学生の支援を得て批判的に省察し、改善課題を設定する。課題を解決していくための計画を立案し、コーチング実践の場でスキルの改善に取り組む。その様子をビデオカメラや音声の記録を通してモニタリングし、授業毎内で省察ミーティングを行い、次の課題を設定する。このサイクルを授業内で繰り返し実施していき、コーチングスキルの上を確実にする。授業(プロジェクト学習)の性格上、履修者を複数のグループに分け、2名の教員がそれぞれのプロジェクト進行を並行して支援する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コーチング実践演習Ⅱ（プラクティカム）	<p>（目標・概要） 学術的な理論背景をもとに、自らのコーチングスキル改善目標を設定し、改善計画を立案・実践する。コーチング実践で起こったことを批判的に省察し、受講生自身がコーチとしての自己主導学習を革新的に進めていけるような能力を身につけることが一つの到達目標である。また、そのプロセスを通して、それぞれが目標設定したコーチングスキルを身につけることも到達目標とする。</p> <p>本授業ではアクションリサーチ手法を用いた自己主導型プロジェクト学習法を採用する。履修者それぞれに、担当教員3名のうち、主たる教員1名が割り当てられる。まず、学術的な理論背景をもとに、自らのコーチングを教員および他の学生の支援を得て批判的に省察し、改善課題を設定する。課題を解決していくための計画を立案し、コーチング実践の場でスキルの改善に取り組む。その様子をビデオカメラや音声の記録を通してモニタリングし、授業毎内で省察ミーティングを行い、次の課題を設定する。このサイクルを授業内で繰り返し実施していき、コーチングスキルの向上を確実にする。</p>	共同
	コーチのための英語コミュニケーション	<p>（目標・概要） スポーツ活動及びコーチングと関係のある場面において英語で基本的なコミュニケーションをできるようにする。</p> <p>今や国際語となった英語によるコミュニケーションスキルを、主として英語を母国語としない大学院生がスポーツ活動やコーチングと関係のある場面（他国の競技者やコーチとの交流やコミュニケーション、チームのマネジメント、公的な場や会議での発言やコミュニケーション、誤解の回避、意見の相違の解決等）で活用するための基礎を学ぶ。授業では、英語によるコミュニケーションの基礎（英語の基礎、ジェスチャーなどを含む）を説明し理解させ、スポーツを題材とした講義、グループワーク、実践練習（practice）などを行う。</p>	集中
	コーチ育成論Ⅱ	<p>（目標・概要） 本授業はコーチ育成に関する応用的かつ発展的な知識とスキルを獲得することを主なテーマとして設定している。この授業が終わる時、受講生は国際的にも最先端のコーチ育成方法を用いたコーチ育成のプログラムデザインができ、コーチデベロッパーとして自らの能力を客観的視点から評価し、コーチデベロッパーとしての今後の成長計画が策定できていることが期待される。</p> <p>本授業はオムニバス形式で展開する。1年次に設定されているコーチ育成論Ⅰで獲得した知識やスキルを基盤として、コーチ育成に関する知識とスキルをさらに向上させていく。コーチ育成論Ⅰと同様に、各回のテーマに関して、担当教員からの知識提供もあるが、主に受講生が自ら主体的に参加するアクティブ・ラーニング形式で運営する。そのため、受講生は毎回の事前課題を実施し、事前知識を持った上で授業に臨むことが求められる。授業内では受講生が交代で授業展開のファシリテーターを経験し、様々なスタイルのコーチ育成スキルの向上を図る。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （38 岩原文彦/4回） 第3回～第6回を担当する。これらの回は具体的なコーチ育成の方法論について学ぶ回である。</p> <p>（29 伊藤雅充/9回） 第12回～第15回を担当する。これらの回は発展的なコーチ育成について考えていく回である。</p> <p>（47 佐良土茂樹/5回） 第1、2回、第9～第11回を担当する。これらの回はコーチの現場での支援やプログラムの評価と改善について学ぶ回である。</p>	オムニバス
	パフォーマンス分析特論	<p>（目標・概要） パフォーマンス分析とはコーチング学の主要分野であり、競技会やトレーニングの場における競技者の実態を体力、技術、戦術、心理（メンタル）からとらえ、個々の競技者に適したトレーニング法の改善や競技力向上に役立つ情報や知見を提供するものである。授業では、体力（スポーツ生理学・体力学）、技術（バイオメカニクス）、戦術（ゲーム）分析論の理論や手法について解説し、これらの分野の手法を実際のパフォーマンス分析に活用する方法などを学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （1 阿江通良/5回） 試合やトレーニングにおける競技者のバイオメカニクスの分析（動作分析）手法について解説し、トレーニング法の改善や競技力向上に役立つ情報や知見の引き出し方などを事例を用いて学ぶ。</p> <p>（38 岩原文彦/5回） 試合やトレーニングにおける競技者の戦術分析について解説し、トレーニング法の改善や競技力向上に役立つ情報や知見の引き出し方などを事例を用いて学ぶ。</p> <p>（14 杉田正明/5回） 試合やトレーニングにおける競技者のコンディショニング分析手法について解説し、トレーニング法の改善や競技力向上に役立つ情報や知見の引き出し方などを事例を用いて学ぶ。</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	研究指導 I	<p>(目標・概要) 研究指導 I では、修士論文あるいは修士論文に代わる特別課題レポートの作成に向けて、研究課題に応じ、文献研究による課題の抽出、仮説の設定、課題に適した研究方法（研究手段および研究のすすめ方）の選択、研究計画の立て方、研究倫理などを、下記の教員が指導する。</p> <p>(1 阿江通良) 体育スポーツ学の特徴および研究のあり方について説明するとともに、スポーツ動作や技術のバイオメカニクスに関するコーチング研究を指導する。</p> <p>(2 具志堅幸司) 体操競技における競技力向上やコーチング法の研究を指導する。</p> <p>(3 岡出美則) 体育のカリキュラム論、学習指導論並びに教師教育論に関わる研究を指導する。</p> <p>(4 成田和穂) スポーツ医学における内科的分野の課題について、予防法を中心とした研究を指導する。</p> <p>(5 田中信行) 特別支援教育における体育・スポーツ、及びインクルーシブ教育としての体育に関わる研究を指導する。</p> <p>(6 石井隆憲) 体育やスポーツ活動における社会的、文化的現象に関するスポーツ人類学研究を指導する。</p> <p>(7 山本洋祐) 柔道の指導法やコーチングについて指導する。</p> <p>(8 岡本美和子) 健康教育学の観点から学校現場におけるに子どもの健康教育に関する研究を指導する。</p> <p>(9 木村直人) 健康の保持・増進や体力の向上に関与する運動・栄養・休養（休息）等の健康管理（増進）が指導の中心となる。</p> <p>(10 日比野幹生) スポーツ政策研究及びスポーツマネジメントに関する指導をする。</p> <p>(11 白旗和也) 体育科教育学の観点から、カリキュラム、教材、もしくは教師教育の研究に関する指導をする。</p> <p>(12 関根正美) 体育スポーツに関する哲学的問題に関して、体育の存在根拠並びにスポーツの理念に関する研究を指導する。</p> <p>(13 齊藤隆志) みるスポーツ、コンテンツプロデュース、イベントマネジメントなどの基礎的研究方法について指導する。</p> <p>(14 杉田正明) コーチング学の観点から各種のトレーニング法、コンディショニング法に関わる研究を指導する。</p> <p>(15 西山哲成) スポーツパフォーマンス向上に関する研究を対象に、機能解剖学、バイオメカニクス、一部生理学の手法を用いた研究を指導する。</p> <p>(16 小泉和史) 野外活動に関わる研究を指導する。</p> <p>(17 津田博子) ダンス教育やイメージ・伝統芸能などに関わる研究を指導する。</p> <p>(18 黄仁官) トレーニング科学における体力学的側面の計測と評価を目的とした各種器材の測定手法及びデータの処理法を指導する。</p> <p>(19 依田充代) スポーツ社会学の研究を進めるうえで必要とされる文献読解の方法について説明するとともに、論文作成に関わる研究を指導する。</p> <p>(20 大本洋嗣) チームスポーツ（主に水球）におけるパフォーマンス向上やコーチングの研究について指導する。</p> <p>(21 齋藤一雄) 対人競技におけるコーチング研究を指導する。</p> <p>(22 青柳徹) スケートにおける競技力向上やコーチングの研究について指導する。</p> <p>(23 荻浩三) 史資料の蒐集方法を説明するとともに、スポーツの歴史学的研究について指導する。</p> <p>(24 津山薫) 発育発達に関わる研究について指導する。</p> <p>(25 中里浩一) 生化学、分子生物学などを中心とした分野における健康スポーツ医科学の研究について指導する。</p>	集中

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(26 野井真吾) 学校保健学分野の研究について指導する。</p> <p>(27 鈴川一宏) 公衆衛生的な観点から生活習慣や運動習慣が行動体力と防衛体力に関わる研究を指導する。</p> <p>(28 三宅良輔) 体操および体づくり運動に関わる実践研究を指導する。</p> <p>(29 伊藤雅充) コーチングあるいはコーチ育成に関する研究について指導する。</p> <p>(30 岡本孝信) トレーニング科学に関する研究を運動・スポーツ生理学の観点から指導する。</p> <p>(31 小林正利) 体育科学分野、特に形態学における課題について、科学研究として疑問解決の為の具体的方法・技法の基礎を理解し、研究を遂行するための基本的事項を指導する。</p> <p>(32 畠田好章) 体操競技における競技力向上やコーチングに関する研究について指導する。</p> <p>(33 須永美歌子) 運動生理学的観点から各種のコンディショニング法に関わる研究を指導する。</p> <p>(34 南部さおり) スポーツ活動におけるあらゆるリスクを予見し、未然に防止するために、多くの事故事例に触れ、その発生要因や被害の最小化について学び、自らの関わるスポーツ環境に応用できるようにするための研究を指導する。</p> <p>(35 大石健二) ゲームパフォーマンス分析および子どもの体力と環境に関わる分析を主とする研究を指導する。</p> <p>(36 馬場進一郎) スポーツ・レクリエーションの観点から、教材（レク財）と指導法に関わる研究を指導する。</p> <p>(37 河野徳良) アスレティックトレーニングに関する研究について指導する。</p> <p>(38 岩原文彦) 科学的測定で得られたデータを基に効果的なコーチング法に関わる研究を指導する。</p> <p>(39 根本研) チームスポーツ（主にバレーボール）における競技力向上やコーチングの研究について指導する。</p> <p>(40 三瓶舞紀子) 家族、地域社会など心理社会的環境が子どもの健康に与える影響及びそれらを明らかにするための研究方法論について指導する。論文の質（主張の確からしさ）を検証する力を身につけることを目指す。</p> <p>(41 小林史明) 陸上競技の競技特性とコーチング、トレーニング方法に関する研究について指導する。</p> <p>(42 波多腰克晃) 修士論文の研究を進めるうえで必要とされる文献読解の方法について指導する。</p> <p>(43 横田匡俊) スポーツビジネスや地域経営を対象として、市場分析や戦略・計画立案についての指導を行う。</p> <p>(44 市川優一郎) 主に教育現場における心と身体、パーソナリティ、健康、ストレス等のトピックに関する心理学的研究を指導する。</p> <p>(45 佐野昌行) 体育スポーツ科学の視点で捉えたスポーツマネジメント研究の基礎について指導する</p> <p>(46 鹿野晶子) 学校保健学分野の研究について指導する。</p> <p>(47 佐良士茂樹) コーチングの原論および哲学に関わる研究を指導する。</p> <p>(48 高井秀明) メンタルトレーニングや運動学習に関するスポーツ心理学の研究を指導する。</p> <p>(49 大塚光雄) 各スポーツ種目において競技力の向上に役立つ科学的根拠のある情報を得るために、スポーツバイオメカニクス分野における研究計画の立て方について指導する。</p> <p>(50 菊池直樹) トレーニング応答の個人差や競技パフォーマンスに関わる遺伝的要因についての研究指導を行う。</p> <p>(51 田村優樹) 分子・細胞生物学の手法を駆使した効果的なトレーニング方法やリハビリテーション方法の開発に関わる研究を指導する</p> <p>(52 平沼憲治) スポーツ医学の観点からスポーツ外傷・障害に関する研究を指導する。</p> <p>(54 近藤智靖) 体育科教育学の観点から学校教育における体育科教育に関する研究について指導する。</p> <p>(57 岡田隆) アスレティックリハビリテーション、筋力トレーニングの観点からスポーツ医科学に関する研究について指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	研究指導Ⅱ	<p>(目標・概要) 研究指導Ⅱでは、修士論文あるいは修士論文に代わる特別課題レポートの作成に向けて、研究課題に応じ、研究指導Ⅰで行った研究計画を再検討して実施に移し、文献研究、調査、測定・実験、トレーニング実践等により得られた資料やデータの整理、結果の解釈、修士論文執筆、修士論文に代わる特別課題レポート作成、学会等における発表方法などを研究指導Ⅰと同様に下記の教員が指導する。</p> <p>(1 阿江通良) スポーツ動作や技術のバイオメカニクスに関わるコーチング研究について指導する。</p> <p>(2 具志堅幸司) 体操競技における競技力向上やコーチング法の研究を指導する。</p> <p>(3 岡出美則) 体育のカリキュラム論、学習指導論並びに教師教育論に関わる研究を指導する。</p> <p>(4 成田和徳) スポーツ医学における内科的分野の課題について、予防法を中心とした研究を指導する。</p> <p>(5 田中信行) 特別支援教育における体育・スポーツ、及びインクルーシブ教育としての体育に関わる研究を指導する。</p> <p>(6 石井隆憲) 体育やスポーツ活動における社会的、文化的現象に関するスポーツ人類学研究を指導する。</p> <p>(7 山本洋祐) 柔道の指導法やコーチングを中心とした研究を指導する。</p> <p>(8 岡本美和子) 現代の子どもの健康課題に関わる健康教育の研究を指導する。</p> <p>(9 木村直人) 健康の保持・増進や体力の向上に関与する運動・栄養・休養（休息）等の健康管理（増進）が指導の中心となる。</p> <p>(10 日比野幹生) スポーツ政策研究や及びスポーツマネジメントに関する指導</p> <p>(11 白旗和也) 体育科教育学の観点から、カリキュラム、教材、もしくは教師教育の研究に関する指導をする。</p> <p>(12 関根正美) 体育の理念並びにスポーツの哲学的問題点に関わる研究を指導する。</p> <p>(13 齊藤隆志) みるスポーツ、コンテンツプロデュース、イベントマネジメントなどを発展的に研究指導する。</p> <p>(14 杉田正明) コーチング学の観点から各種のトレーニング法、コンディショニング法に関わる研究を指導する。</p> <p>(15 西山哲成) スポーツパフォーマンス向上に関する研究を対象に、機能解剖学、バイオメカニクス、一部生理学の手法を用いた研究を指導する。</p> <p>(16 小泉和史) 野外活動に関わる概論を指導する。</p> <p>(17 津田博子) ダンス教育やイメージ・伝統芸能などに関わる研究を指導する。</p> <p>(18 黄仁官) 実験・測定により得られたデータ処理内容のディスカッションし、トレーニング科学系の論文作成法について指導する。</p> <p>(19 依田充代) スポーツ社会学の論文作成に関わる研究を指導する。</p> <p>(20 大本洋嗣) チームスポーツ（主に水球）におけるパフォーマンス向上やコーチングの研究について指導する。</p> <p>(21 齋藤一雄) 対人競技におけるコーチング研究を指導する。</p> <p>(22 青柳徹) スケートにおける競技力向上やコーチングの研究について指導する。</p> <p>(23 荻浩三) スポーツの現代認識を確認するとともに、その歴史学的研究について指導する。</p> <p>(24 津山薫) 発育発達に関わる研究について指導する。</p> <p>(25 中里浩一) 生化学、分子生物学などを中心とした分野における研究について指導する。</p> <p>(26 野井真吾) 学校保健学分野の研究について指導する。</p>	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(27 鈴木一宏) 公衆衛生的な観点から生活習慣や運動習慣が行動体力と防衛体力に関わる研究を指導し、修士論文を作成する。</p> <p>(28 三宅良輔) 体操および体づくり運動に関わる実践研究を指導する。</p> <p>(29 伊藤雅充) コーチングあるいはコーチ育成に関する研究について指導する。</p> <p>(30 岡本孝信) トレーニング科学に関する研究を運動・スポーツ生理学の観点から指導する。</p> <p>(31 小林正利) 研究指導 I に引き続き体育科学分野、特に形態学に関連する研究について、学会等での発表能力を向上させるとともに抄録を作成し、論文作成のために必要な事項を指導する。</p> <p>(32 畠田好章) 体操競技における競技力向上やコーチングに関する研究について指導する。</p> <p>(33 須永美歌子) 運動生理学的観点から各種のコンディショニング法に関わる研究を指導する。</p> <p>(34 南部さおり) 自身の研究テーマにおいて、あらゆるリスク因子を考慮した上で最適な対応策を提示する、スポーツ危機管理学を応用した研究を行うよう指導する。</p> <p>(35 大石健二) ゲームパフォーマンスおよび子どもの体力と環境に関わる数値分析を主とする研究を指導する。</p> <p>(36 馬場進一郎) スポーツ・レクリエーションの観点から、教材（レク財）と指導法に関わる研究を指導する。</p> <p>(37 河野徳良) アスレティックトレーニングに関する研究について指導する。</p> <p>(38 岩原文彦) 科学的測定で得られたデータを基に効果的なコーチング法に関わる研究の作成について指導する。</p> <p>(39 根本研) チームスポーツ（主にバレーボール）における競技力向上やコーチングの研究について指導する。</p> <p>(40 三瓶 舞紀子) 健康の社会的決定要因のメカニズムの解明や変わり得る要因への介入に関して指導する。基礎的な統計学的手法を理解することを目指す。</p> <p>(41 小林史明) 陸上競技の競技特性とコーチング、トレーニング方法に関する研究について指導する。</p> <p>(42 波多腰克晃) 修士論文の研究を進めるうえで必要とされる論文執筆について指導する。</p> <p>(43 横田匡俊) スポーツビジネスや地域経営を対象として、市場分析や戦略・計画立案についての指導を行う。</p> <p>(44 市川優一郎) 主に教育現場における心と身体、パーソナリティ、健康、ストレス等のトピックに関する心理学的研究を指導する。</p> <p>(45 佐野昌行) 体育スポーツ科学の視点で捉えたスポーツマネジメント研究について実践的に指導する</p> <p>(46 鹿野晶子) 学校保健学分野の修士論文作成に必要な研究能力を養い、自らの修士論文を作成する。</p> <p>(47 佐良士茂樹) コーチングの原論および哲学に関わる研究を指導する。</p> <p>(48 高井秀明) メンタルトレーニングや運動学習に関するスポーツ心理学の研究を指導する。</p> <p>(49 大塚光雄) スポーツバイオメカニクス分野の立場から、科学的な根拠に基づいて各スポーツ種目において競技力の向上に役立つ情報の提示方法について指導する。</p> <p>(50 菊池直樹) トレーニング応答の個人差や競技パフォーマンスに関わる遺伝的要因についての研究指導を行う。</p> <p>(51 田村優樹) 分子・細胞生物学の手法を駆使した効果的なトレーニング方法やリハビリテーション方法の開発に関わる研究を指導する</p> <p>(52 平沼憲治) スポーツ医学の観点からスポーツ外傷・障害に関する研究を指導する。</p> <p>(54 近藤智靖) 体育科教育の観点から学校教育における体育科教育に関する研究について指導する。</p> <p>(57 岡田隆) アスレティックリハビリテーション、筋力トレーニングの観点からスポーツ医科学に関する研究について、より詳細に指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
体育学研究科体育学専攻(博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	研究報告演習	(目標・概要) 博士學位論文に関連する研究の進捗状況を発表することによりプレゼンテーションの技術を習得するとともに研究遂行能力および問題解決能力を習得する。また、博士學位論文に関する研究を進めるにあたり、体育スポーツ科学分野の研究とそれに関わる実践的な方法論について理解を深め、説明できる能力を身に付ける。	共同
	英語論文ライティング	(目標・概要) 英語のライティングとプレゼンテーションを中心に授業をすすめる。英語で論文のアブストラクトを書く方法や、英語でプレゼンテーションを行うスキルを身につけていくことを目標とする。授業はセミナー形式で行う。	
専修科目	体育スポーツ文化社会学特論	(目標・概要) 体育スポーツ文化社会学領域のうち、主に哲学思想、歴史学、人類学、社会学的研究の立場から博士論文執筆にあたって必要とされる理論ならびに研究動向について講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (7 関根正美/3回) 体育哲学およびスポーツ哲学に関する代表的な理論を概観し、履修者の博士論文のテーマに近い最近の研究動向について解説を行う。 (12 荻浩三/3回) 体育史・スポーツ史研究の視点、近年の動向等について概観・解説する。 (4 石井隆憲/3回) スポーツ現象を研究するのに必要な人類学理論について概観すると共に、履修者の博士論文執筆に必要な最新の研究動向について解説を加える。 (11 依田充代/3回) 体育社会学およびスポーツ社会学に関する代表的な理論を概観し、履修者の博士論文のテーマに近い最近の研究動向について解説を行う。 (21 佐野昌行/3回) スポーツマネジメントの役割について検討し、それが発揮される領域と方法などを理解する。	オムニバス
	体育スポーツ文化社会学研究法	(目標・概要) 体育スポーツ文化社会学領域のうち、主に哲学思想、歴史学、人類学、社会学的研究の立場から博士論文執筆にあたって必要とされる研究方法について解説を行う。 (オムニバス方式/全15回) (7 関根正美/3回) 体育哲学およびスポーツ哲学に関する方法について、履修者のテーマに応じて文献解釈、論文の論理構造などについて解説を行う。 (12 荻浩三/3回) 体育史・スポーツ史の研究方法論について、関連論文を採り上げ、具体的に解説する。 (4 石井隆憲/3回) 博士論文作成のために必要な最新の人類学的研究方法を解説すると共に論文執筆につなげるための知見を深める。 (11 依田充代/3回) 文化・社会科学研究法のうち、論文執筆に必要とされる理論方法論について解説する。 (21 佐野昌行/3回) 質的調査の方法について概説を行い、スポーツマネジメント研究の文献を実例として、様々な調査・分析手法について解説する。	オムニバス
	トレーニング科学特論	(目標・概要) トレーニング科学領域の最新の研究動向の解説、議論より、自身の興味ある課題設定、データ取得・分析方法、結論の導き出し方などの論文構成を検討し、論文執筆に必要な能力を高める。 (オムニバス方式/全15回) (25 菊池直樹/3回) トレーニング科学に関する最新の知見をトレーニング研究の観点から解説する。 (10 黄仁官/3回) トレーニング科学に関する最新の知見を体力学の観点から解説する。 (23 高井秀明/2回) トレーニング科学に関する最新の知見をスポーツ心理学の観点から解説する。 (9 西山哲成/1回) トレーニング科学に関する最新の知見をスポーツバイオメカニクスの観点から解説する。 (24 大塚光雄/1回) トレーニング科学に関する最新の知見をスポーツバイオメカニクスの観点から解説する。 (20 大石健二/3回) トレーニング科学に関する最新の知見を体育測定評価学・運動疫学の観点から解説する。 (17 岡本孝信/2回) トレーニング科学に関する最新の知見を運動・スポーツ生理学の観点から解説する。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	トレーニング科学研究法	<p>(目標・概要) 博士論文執筆にあたって必要とされるトレーニング科学に関わる様々な分野の研究法について解説し、議論等を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (20 大石健二/3回) トレーニング科学に関する研究法について体育測定評価学・運動疫学の観点から学修する。</p> <p>(25 菊池直樹/3回) トレーニング科学に関する研究法についてトレーニング理論の観点から学修する。</p> <p>(10 黄仁官/3回) トレーニング科学に関する研究法について体力学の観点から学修する。</p> <p>(23 高井秀明/2回) トレーニング科学に関する研究法についてスポーツ心理学の観点から学修する。</p> <p>(9 西山哲成/1回) トレーニング科学に関する研究法についてスポーツバイオメカニクスの観点から学修する。</p> <p>(24 大塚光雄/1回) トレーニング科学に関する研究法についてスポーツバイオメカニクスの観点から学修する</p> <p>(17 岡本孝信/2回) トレーニング科学に関する研究法について運動・スポーツ生理学の観点から学修する。</p>	オムニバス
	健康スポーツ医科学特論	<p>(目標・概要) 健康スポーツ領域の中でも健康スポーツ医科学領域における研究法は日々技術革新が行われており、学位論文執筆のみならず当該分野の先行研究を精読する際に最先端技術の論理的背景、データ取得法とその解釈の理解は必須となっている。本講義においては健康スポーツ医科学分野における主要な研究領域に関して、オムニバス形式によってそれぞれの教員の専門的見地から最先端の研究成果およびその論理的背景の概説を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 木村直人/2回) 健康の保持・増進や体力の向上に関与する運動・栄養・休養(休息)等の健康管理(増進)が指導の中心となる。</p> <p>(3 田中信行/2回) WHOが示したICF(International Classification of Functioning, Disability and Health)の観点に従い、身体的、精神的及び社会的健康の捉え方を紹介する。</p> <p>(13 津山薫/2回) 発育発達論文を精読することにより最新研究の現状を把握すると同時に、研究に必要な基礎知識を再確認し、発育発達研究に関する理解をより一層深めることを目標とする。</p> <p>(26 平沼憲治/2回) スポーツ外傷・障害の要因、病態・治療・予防に関する最新の論文を使い、この領域の研究について理解を深める。</p> <p>(27 中里浩一/2回) 健康スポーツ医科学分野で用いられる生化学、細胞生物学、分子生物学領域の最先端の研究成果やその手法の論理的背景を教授する。</p> <p>(17 岡本孝信/1回) 健康スポーツ医科学分野における呼吸および循環生理学領域の最新の研究成果や研究動向について解説する。</p> <p>(29 小林正利/2回) 体の構造や働きに関わる研究法を解説する。特に、筋・神経機能に関する顕微解剖学的研究法について解説を進める。</p> <p>(18 須永美歌子/2回) 健康スポーツ医科学分野における代謝および内分泌系生理学領域の最新の研究成果や研究動向について解説する。</p>	オムニバス
	健康スポーツ医科学研究法	<p>(目標・概要) 健康スポーツ領域の中でも健康スポーツ医科学領域における研究法は日々技術革新が行われており、学位論文執筆のみならず当該分野の先行研究を精読する際に最先端技術の論理的背景、データ取得法とその解釈の理解は必須となっている。本講義は健康スポーツ医科学特論で学修した知識を基盤として具体的な研究法を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 木村直人/2回) 調査あるいは実験などで得られた結果(データ)を基に、それらの解釈(考察)について実践的に学修する。</p> <p>(3 田中信行/2回) 社会環境データ(経済・高齢化・少子化・有病率など)から、可能な限り多面的・包括的・総合的な健康について考察することを紹介する。</p> <p>(13 津山薫/2回) 発育発達に関する測定方法や研究結果を紹介し、現在の子どもの体力の現状を理解するとともに、各測定方法の長所や短所について議論し、研究活動につなげることを目標とする。</p> <p>(26 平沼憲治/2回) 国内外の先行研究を基に、研究結果の考察を行い、研究の意義について議論する。</p> <p>(27 中里浩一/2回) 健康スポーツ医科学分野で用いられる生化学、細胞生物学、分子生物学領域の最先端の研究法の具体的な方法について実習を交えて教授する。</p> <p>(17 岡本孝信/1回) 健康スポーツ医科学分野における呼吸および循環生理学領域の具体的な研究法について学修する。</p> <p>(29 小林正利/2回) 生体の構造や働きに関わる研究を指導する。特に、筋・神経機能に関する研究法について議論する。</p> <p>(18 須永美歌子/2回) 健康スポーツ医科学分野における代謝および内分泌系生理学領域の具体的な研究法について学修する。</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	身体教育・健康教育学特論	<p>(目標・概要) 体育科教育学、健康教育学、公衆衛生学、教育生理学、養護実践学の研究動向等を概説するとともに、受講者の研究課題に応じて当該分野の研究との関連を考究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 岡出美則/3回) 体育のカリキュラム論、学習指導論並びに教師教育論に関連した先端的な論文を取り上げ、研究課題について解説する</p> <p>(5 岡本美和子/3回) 健康教育学の最近の動向と学校現場において実践するための理論と技術を習得する。また受講者の研究課題に沿って当該分野の研究との関連について考察する。</p> <p>(15 鈴川一宏/3回) 公衆衛生的な観点から集団としての健康について解説し健康実現に向けての議論を行うとともに、受講者の研究課題に応じて当該分野の研究との関連を考究する。</p> <p>(22 鹿野晶子/3回) 学校保健学の中でも、特に養護教諭の実践に関わる研究動向について解説するとともに、受講者の研究課題に応じて当該分野の研究との関連を考究する。</p> <p>(14 野井真吾/3回) 学校保健学の中でも、特に教育生理学の研究動向について解説するとともに、受講者の研究課題に応じて当該分野の研究との関連を考究する。</p>	オムニバス
	身体教育・健康教育学研究法	<p>(目標・概要) 受講者の研究課題に応じて体育科教育学、健康教育学、公衆衛生学、教育生理学、養護実践学の研究をデザインする</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 岡出美則/3回) 体育のカリキュラム論、学習指導論並びに教師教育論に関連した文献を踏まえ、研究のデザイン並びに研究方法論について解説する。</p> <p>(5 岡本美和子/3回) 健康教育学の領域における実践的な活動のための計画・実践(介入)・評価などについて、特に子どもを対象とした実例を用いて解説する。</p> <p>(15 鈴川一宏/3回) 健康を評価するための研究法について解説する。さらに、身体教育と健康教育に係わる健康管理や疲労の測定について解説する。</p> <p>(22 鹿野晶子/3回) 受講者の研究課題に応じて、養護実践学分野の研究をデザインする。</p> <p>(14 野井真吾/3回) 受講者の研究課題に応じて、教育生理学分野の研究をデザインする。</p>	オムニバス
	コーチ育成特論	<p>(目標・概要) 本授業は、コーチ育成に関する基礎的な知識の獲得を目指す。具体的には、(財)日本スポーツ協会が展開するコーチデベロッパー養成講座で示されているコンピテンシーを確実に身につけることを到達目標とする。これらのスキルを基盤にし、将来的に革新的なコーチ育成の方法論開発を可能とするために、国際コーチングエグゼレンス評議会が示した国際コーチデベロッパー枠組みや海外で行われているコーチ育成方法に関する理解を深めるとともに、学習者中心のコーチ育成方法について経験的に学ぶことで、コーチデベロッパーに求められるコンピテンシーの獲得を狙う。</p>	
	コーチング学研究法特論	<p>(目標・概要) コーチング学研究で使用する各種の研究手法を学ぶことが目標である。そのため、各研究手法に応じた研究計画の立て方、文献、調査、測定・実験、トレーニング実験等による資料やデータの収集法、資料やデータの解釈の仕方、コーチングの理論および実践への活かし方などを指導する。また研究手法の特性に応じた学術論文の執筆および投稿、国内外における学会発表等を下記の教員が指導する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (1 阿江通良/5回) スポーツ動作や技術のバイオメカニクスに関する研究、コーチング(指導)における動作の改善やバイオメカニクスのデータの活用(フィードバック)法に関する研究のための方法を指導する。</p> <p>(8 杉田正明/5回) 競技者体力学的観点から各種のトレーニング法、コンデショニング法に関わる研究のための方法を指導する。</p> <p>(16 伊藤雅充/5回) コーチング学における複合的・教授学的研究および競技者のコミュニケーションに関わる研究のための方法を指導する。</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研修指導科目	特別研究指導 I	<p>(目標・概要) 特別研究指導 I では、博士論文の作成に向けて、研究課題の吟味や研究計画の立案、修士論文に関連する学術論文の執筆および投稿、国内外における学会発表、研究費申請等の研究者としての基礎を研究課題に応じて下記の教員が指導する。</p> <p>(1 阿江通良) スポーツ動作や技術のバイオメカニクスに関わるコーチング研究を指導する。</p> <p>(2 岡出美則) 体育のカリキュラム論、学習指導論並びに教師教育論に関わる研究を指導する。</p> <p>(3 田中信行) 健康に関わる主に社会的要因に関わる研究を指導する。</p> <p>(4 石井隆憲) 体育やスポーツ活動における社会的、文化的現象に関するスポーツ人類学研究を指導する。</p> <p>(5 岡本美和子) 健康教育の視点から学校現場における健康教育に関する研究について指導する。</p> <p>(6 木村直人) 人に関わる健康科学や運動に関与する様々なスポーツ医学に関する研究を指導する。</p> <p>(7 関根正美) 体育の存在根拠やスポーツの理念の哲学的研究について指導する。</p> <p>(8 杉田正明) コーチングに必要な競技専門的体力やコンディショニングに関する研究について指導する。</p> <p>(9 西山哲成) スポーツバイオメカニクス、生理学の手法を用いてパフォーマンス向上に関する研究を指導する。</p> <p>(10 黄仁官) 運動・トレーニング理論を柱としたリスクと改善に関わる研究を指導する。</p> <p>(11 依田充代) 博士論文の核となる先行研究の収集並びに読解についてスポーツ社会学の研究について指導する。</p> <p>(12 荻浩三) スポーツの現代認識とともに、その歴史学的研究について指導する。</p> <p>(13 津山薫) 発育発達に関する研究について指導する。</p> <p>(14 野井真吾) 教育生理学の視点から子どものからだ、心、生活、体力等に関する研究を指導する。</p> <p>(15 鈴川一宏) 公衆衛生的な観点から集団における健康に関する研究について指導する。</p> <p>(16 伊藤雅充) コーチングおよびコーチ育成に関する研究について指導する。</p> <p>(17 岡本孝信) トレーニング科学に関する研究を運動・スポーツ生理学の観点から指導する。</p> <p>(18 須永美歌子) 運動生理学的観点から各種のコンディショニング法に関わる研究を指導する。</p> <p>(19 南部さおり) スポーツコーチングにおける危機管理のあり方について包括的に分析し、応用するための研究を指導する。</p> <p>(20 大石健二) ゲームパフォーマンスおよび子どもの体力と環境に関わる研究を指導する。</p> <p>(21 佐野昌行) スポーツマネジメント研究について指導する</p> <p>(22 鹿野晶子) 養護教諭や子どもの現代的健康課題に関わる研究を指導する。</p> <p>(23 高井秀明) メンタルトレーニングや運動学習に関するスポーツ心理学の研究を指導する。</p> <p>(24 大塚光雄) スポーツバイオメカニクス分野の立場から、科学的な根拠に基づいて各スポーツ種目における競技力向上に関わる研究を指導する。</p> <p>(25 菊池直樹) 競技パフォーマンスやトレーニング効果に関わる遺伝特性の研究について指導する。</p> <p>(26 平沼憲治) スポーツ医学の視点からスポーツ外傷・障害に関する研究を指導する。</p> <p>(27 中里浩一) 生化学、細胞生物学、分子運動生理学に関する研究を指導する。</p> <p>(28 近藤智靖) 体育科教育学の観点から学校教育における体育科教育に関する研究について指導する。</p> <p>(29 小林正利) 研究計画を立案し、研究遂行に必須の画像分析、医療統計を操作し、研究倫理に配慮した論文の書き方、Journalの評価について指導する。</p>	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別研究指導Ⅱ	<p>(目標・概要) 特別研究指導Ⅱでは、研究計画を実施し、文献、調査、測定・実験、トレーニング実験などにより博士論文の核となる資料の収集を行い、結果等の解釈のしかたを指導するとともに、学術論文の執筆および投稿、国内外における学会発表等を研究課題に応じて下記の教員が指導する。</p> <p>(1 阿江通良) スポーツ動作や技術のバイオメカニクスに関わるコーチング研究を指導する。</p> <p>(2 岡出美則) 体育のカリキュラム論、学習指導論並びに教師教育論に関わる研究を指導する。</p> <p>(3 田中信行) 健康に関わる主に社会的要因に関わる研究を指導する。</p> <p>(4 石井隆憲) 体育やスポーツ活動における社会的、文化的現象に関するスポーツ人類学研究を指導する。</p> <p>(5 岡本美和子) 健康教育学の視点から学校現場における健康教育に関する研究について指導する。</p> <p>(6 木村直人) 人に関わる健康科学や運動に関与する様々なスポーツ医学に関する研究を指導する。</p> <p>(7 関根正美) 体育の存在根拠やスポーツの理念の哲学的研究について指導する。</p> <p>(8 杉田正明) コーチングに必要な競技専門的体力やコンディショニングに関する研究について指導する。</p> <p>(9 西山哲成) スポーツバイオメカニクス、生理学の手法を用いてパフォーマンス向上に関する研究を指導する。</p> <p>(10 黄仁官) 運動・トレーニング理論を柱としたリスクと改善に関わる研究を指導する。</p> <p>(11 依田充代) 博士論文執筆のための文献講読ならびに構立案案についてスポーツ社会学の研究について指導する。</p> <p>(12 荻浩三) スポーツの現代認識とともに、その歴史学的研究について指導する。</p> <p>(13 津山薫) 発育発達に関する研究について指導する。</p> <p>(14 野井真吾) 教育生理学の視点から子どものからだ、心、生活、体力等に関する研究を指導する。</p> <p>(15 鈴川一宏) 公衆衛生的な観点から集団における健康に関する研究について指導する。</p> <p>(16 伊藤雅充) コーチングおよびコーチ育成に関する研究について指導する。</p> <p>(17 岡本孝信) トレーニング科学に関する研究を運動・スポーツ生理学の観点から指導する。</p> <p>(18 須永美歌子) 運動生理学の観点から各種のコンディショニング法に関わる研究を指導する。</p> <p>(19 南部さおり) スポーツコーチングにおける危機管理のあり方について包括的に分析し、応用するための研究を指導する。</p> <p>(20 大石健二) ゲームパフォーマンスおよび子どもの体力と環境に関わる数値分析を主とする研究を指導する。</p> <p>(21 佐野昌行) スポーツマネジメント研究について指導する</p> <p>(22 鹿野晶子) 養護教諭や子どもの現代的健康課題に関わる研究を指導する。</p> <p>(23 高井秀明) メンタルトレーニングや運動学習に関するスポーツ心理学の研究を指導する。</p> <p>(24 大塚光雄) スポーツバイオメカニクス分野の立場から、科学的な根拠に基づいて各スポーツ種目における競技力向上に関わる研究を指導する。</p> <p>(25 菊池直樹) 競技パフォーマンスやトレーニング効果に関わる遺伝特性の研究について指導する。</p> <p>(26 平沼憲治) スポーツ医学の視点からスポーツ外傷・障害に関する研究を指導する。</p> <p>(27 中里浩一) 生化学、細胞生物学、分子運動生理学に関する研究を指導する。</p> <p>(28 近藤智靖) 体育科教育学の観点から学校教育における体育科教育に関する研究について指導する。</p> <p>(29 小林正利) 形態研究に関連した研究計画を説明し、実験を行い、その結果や考察を論文にまとめるために必要な基礎的事項を指導する。</p>	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別研究指導Ⅲ	<p>(目標・概要) 特別研究指導Ⅲでは、博士論文の完成に向けて、博士論文の構成(目次等)を吟味し具体化するとともに、学術論文の執筆および投稿、国内外における学会発表等を研究課題に応じて下記の教員が指導する。</p> <p>(1 阿江通良) スポーツ動作や技術のバイオメカニクスに関わるコーチング研究を指導する。</p> <p>(2 岡出美則) 体育のカリキュラム論、学習指導論並びに教師教育論に関わる研究を指導する。</p> <p>(3 田中信行) 健康に関わる主に社会的要因に関わる研究を指導する。</p> <p>(4 石井隆憲) 体育やスポーツ活動における社会的、文化的現象に関するスポーツ人類学研究を指導する。</p> <p>(5 岡本美和子) 健康教育学の視点から学校現場における健康教育に関する研究について指導する。</p> <p>(6 木村直人) 人に関わる健康科学や運動に関与する様々なスポーツ医学に関する研究を指導する。</p> <p>(7 関根正美) 体育の存在根拠やスポーツの理念の哲学的研究について指導する。</p> <p>(8 杉田正明) コーチングに必要な競技専門的体力やコンディショニングに関する研究について指導する。</p> <p>(9 西山哲成) スポーツバイオメカニクス、生理学の手法を用いてパフォーマンス向上に関する研究を指導する。</p> <p>(10 黄仁官) 運動・トレーニング理論を柱としたリスクと改善に関わる研究を指導する。</p> <p>(11 依田充代) 博士論文完成に向けての投稿論文を含めたスポーツ社会学の研究について指導する。</p> <p>(12 荻浩三) スポーツの現代認識とともに、その歴史学的研究について指導する。</p> <p>(13 津山薫) 発育発達に関する研究について指導する。</p> <p>(14 野井真吾) 教育生理学の視点から子どものからだ、心、生活、体力等に関する研究を指導する。</p> <p>(15 鈴川一宏) 公衆衛生的な観点から集団における健康に関する研究について指導する。</p> <p>(16 伊藤雅充) コーチングおよびコーチ育成に関する研究について指導する。</p> <p>(17 岡本孝信) トレーニング科学に関する研究を運動・スポーツ生理学の観点から指導する。</p> <p>(18 須永美歌子) 運動生理学的観点から各種のコンディショニング法に関わる研究を指導する。</p> <p>(19 南部さおり) スポーツコーチングにおける危機管理のあり方について包括的に分析し、応用するための研究を指導する。</p> <p>(20 大石健二) ゲームパフォーマンスおよび子どもの体力と環境に関わる数値分析を主とする研究を指導する。</p> <p>(21 佐野昌行) スポーツマネジメント研究について指導する</p> <p>(22 鹿野晶子) 養護教諭や子どもの現代的健康課題に関わる研究を指導する。</p> <p>(23 高井秀明) メンタルトレーニングや運動学習に関するスポーツ心理学の研究を指導する。</p> <p>(24 大塚光雄) スポーツバイオメカニクス分野の立場から、科学的な根拠に基づいて各スポーツ種目における競技力向上に関わる研究を指導する。</p> <p>(25 菊池直樹) 競技パフォーマンスやトレーニング効果に関わる遺伝特性の研究について指導する。</p> <p>(26 平沼憲治) スポーツ医学の観点からスポーツ外傷・障害に関する研究を指導する。</p> <p>(27 中里浩一) 生化学、細胞生物学、分子運動生理学に関する研究を指導する。</p> <p>(28 近藤智晴) 体育科教育学の観点から学校教育における体育科教育に関する研究について指導する。</p> <p>(29 小林正利) 研究計画に従って実験を行い、データの客観的な分析を実施し形態学に関する論文にまとめる能力を指導する。</p>	集中